

富田林市埋蔵文化財調査報告書28

平成8年度

富田林市内遺跡群発掘調査報告書

1997・3

富田林市教育委員会

『平成8年度富田林市内遺跡群発掘調査報告書』正誤表

写 真 図 版	誤	正
図 版 2 6	(下右)石製円盤・土製円盤	(下右)石製円盤・紡錘車

はじめに

大阪府の南東部に位置する富田林市は、市域の中央部に石川が流れ、その川に沿って形成された段丘部と低地部をはさむように、東岸には金胎寺・嶽山などの山々が、西岸には羽曳野丘陵が連って構成されています。この緑と自然に恵まれた環境も、近年の開発の波に押し流され、急速に変化しつつあります。

さて、本書は平成8年度に実施しました国庫補助事業の発掘調査報告書です。

今回、報告しますのは從来から弥生時代の集落遺跡として知られている喜志遺跡です。市域の北部、石川左岸の中位段丘に広がる喜志遺跡は弥生時代中期に栄えた集落です。遺跡の東、約5kmにある二上山から打製石器の原材であるサヌカイトを運び込んで、石鎌、打製石剣などの石器製作を生業にしていた集落と考えられています。今回の調査でもサヌカイト製の石器や剝片など、喜志遺跡の性格を彷彿とさせる資料が多量に出土しました。とりわけ打製石剣の事故品および製作途中品の多量の出土に加えて、それらの接合に成功したことは、喜志遺跡での打製石剣の製作を連続的に復元することを可能にしました。今後の調査の進展によっては喜志遺跡だけにとどまらず、弥生時代の打製石器製作の研究に寄与するものと確信しております。

最後になりましたが、調査にご理解、ご協力いただきました関係各位にお礼を申しあげるとともに、今後とも文化財保護にご理解とご協力くださいますようお願ひいたします。

平成9年3月

富田林市教育委員会
教育長 清水富夫

例　　言

1. 本書は富田林市教育委員会が平成8年度に、国庫および府費の補助をうけ、実施した緊急発掘調査の報告書である。
2. 調査は富田林市教育委員会文化財保護課、栗田薰・田中正利・平方扶左子を担当者とし、平成8年4月1日に着手し、平成9年3月31日に終了した。なお、外業調査は田中・平方が、内業調査は栗田が担当した。
3. 本書で使用した方位と標高は、すべて磁北と東京湾標準潮位で表示した。
4. 遺物は土器、土製品、石器ごとに通し番号を付した。また、それぞれの縮尺率は土器が $\frac{1}{4}$ 、土製品および石器が $\frac{1}{3}$ である。
5. 本書の執筆は目次に記すがあたった。なお、本書の編集は栗田薰がおこなった。
6. 本書の作成にあたって、上器および土製品の実測は楠木理恵・秋山敦子・瀬戸直子・栗田薰が、石器の実測は栗田・秋山が行った。また、遺構の製図は田中正利が、遺物の製図は栗田が、遺構の写真撮影は田中が行った。
なお、遺物の写真撮影については阿南辰秀・伊藤慎二両氏に依頼した。
7. 出土遺物および各種記録類は富田林市立埋蔵文化財センターで保管している。
8. 調査の実施および本書の作成にあたっては、下記の諸氏に協力を得た。ここに記して感謝します。

北野耕平（神戸商船大学名誉教授）

山中一郎（京都大学）

岩瀬透・山田隆一（大阪府教育委員会）

高橋浩二（羽曳野市教育委員会）

阿南辰秀・伊藤慎二（阿南写真工房）

秋山敦子・岩井節子・岩瀬訓子・小田信代・楠木理恵・小西寛之・

佐藤二和子・瀬戸直子・瀬戸哲也・千巣ふみ・辻本千絵・中谷正・

中村嘉彦・原知子・原田亮子・前野美智子・山本節子・湯元剛（富田林市立埋蔵文化財センター）

本文目次

はじめに

例　言

I 平成8年度調査概要	1
II 喜志遺跡	2
1. 調査に至る経過	(栗田薰) 2
2. 調査の方法	(田中正利) 4
3. 調査区の基本層序	(田中) 4
4. 遺構	(田中) 4
5. 遺物	(栗田) 15
1 第1トレンチ出土遺物	15
(1) 弥生土器	15
第I様式	15
第II様式	16
第III様式	22
第IV様式	30
第VI様式	34
(2) 土製品	44
(3) 石器	46
サヌカイト製打製石器	46
磨製石器	85
2 第2トレンチ出土遺物	92
6. まとめ	(栗田・田中) 93
参考文献	95
調査抄録	96

図　版

挿図目次

図1	喜志遺跡発掘調査地位置図	2
図2	喜志遺跡発掘調査区トレンチ配置図	3
図3	第1トレンチ遺構平面図・断面図	5・6
図4	第2トレンチ遺構平面図・断面図	13・14
図5	弥生土器(第I様式・第II様式広口壺, 底部)	17
図6	弥生土器(第II様式広口壺, 無頸壺, 鉢, 壺用蓋, 豊用蓋)	19
図7	弥生土器(第II様式壺)	20
図8	弥生土器(第II様式壺)	21
図9	弥生土器(大和型壺)	23
図10	弥生土器(第III様式広口壺)	25
図11	弥生土器(第III様式広口壺)	26
図12	弥生土器(第III様式広口壺, 無頸壺, 鉢)	27
図13	弥生土器(第III様式高环)	28
図14	弥生土器(第III様式壺)	29
図15	弥生土器(第IV様式広口壺, 大型細頸壺, 鉢)	31
図16	弥生土器(第IV様式高环, 台部, 壺)	33
図17	弥生土器(第VI様式壺, 高环)	34
図18	土製品(紡錘車)	44
図19	紡錘車と円盤の厚さ指標と重量の相関	45
図20	石器(打製石鎌)	48
図21	石器(打製石鎌, 磨製石鎌)	49
図22	石器(打製石槍)	51
図23	石器(打製石槍)	52
図24	石器(打製石槍)	53
図25	石器(打製石剣)	58
図26	石器(打製石剣)	59
図27	石器(打製石剣)	60
図28	石器(打製石剣)	61
図29	石器(打製石剣)	62
図30	石器(打製石剣)	63
図31	石器(打製石剣接合資料ーその1)	65
図32	石器(打製石剣接合資料ーその2)	67・68
図33	石器(打製石剣の製作で生じた剣片と尖端刃部作りだし時の事故剣片)	70
図34	石器(石核, 剣片)	71・72

図35 石器(石錐)	74
図36 石器(石錐)	75
図37 石器(石小刀, 削器, ハンマー)	77
図38 石器(石包丁)	86
図39 石器(石包丁)	87
図40 石器(石包丁)	88
図41 石器(石包丁)	89
図42 石器(大型石包丁, 円盤)	91
図43 第2トレンチ出土遺物	92

表 目 次

表1 平成8年度発掘届出件数	1
表2 平成8年度発掘調査一覧表	1
表3 第1トレンチ: 土壌一覧表	8
表4 第1トレンチ: ピット一覧表(1)~(4)	8~11
表5 第2トレンチ: 土壌・ピット一覧表	12
表6 土器観察表(1)~(9)	35~43
表7 紡錘車・円盤観察表	45
表8 石鎌観察表	47
表9 石槍観察表(1)~(2)	50・54
表10 石剣観察表(1)~(4)	54~57
表11 石錐観察表	73
表12 石小刀観察表	76
表13 サスカイト製ハンマー観察表	76
表14 削器観察表(1)~(7)	78~84
表15 石包丁観察表	85
表16 円盤観察表	90

図 版 目 次

図版1 喜志遺跡(K S 96) 調査地遠景航空写真(西から)	
図版2 調査地周辺航空写真	
図版3 第1トレンチ全景航空写真	
図版4 (上) 第1トレンチ 溝2サスカイト出土状況(北から) (下) 第1トレンチ 溝2サスカイト出土状況近景(北東から)	
図版5 (上) 第1トレンチ 溝2第1層遺物出土状況(北から) (下) 第1トレンチ 溝2第2層遺物出土状況	

- 図版6 (上) 第1トレンチ 土壌1遺物出土状況(南西から)
(下) 第1トレンチ ピット149遺物出土状況(北東から)
- 図版7 (上) 第1トレンチ 全景(西から)
(下) 第1トレンチ 全景(東から)
- 図版8 (上) 第2トレンチ 北半近景(北から)
(下) 第2トレンチ 南半全景(北西から)
- 図版9 弥生土器
- 図版10 弥生土器
- 図版11 弥生土器
- 図版12 打製石鎌、磨製石鎌(左面)
- 図版13 打製石鎌、磨製石鎌(右面)
- 図版14 打製石槍(左面)
- 図版15 打製石槍(右面)
- 図版16 打製石剣(左面)
- 図版17 打製石剣(右面)
- 図版18 打製石剣(左面)
- 図版19 打製石剣(右面)
- 図版20 (上) 打製石剣接合資料
(下右) 個々の資料の主剥離面
(下左) 個々の資料の先行剥離面
- 図版21 打製石剣から生じた剝片と尖端刃部作りだし時の事故剝片
- 図版22 打製石錐(左面)
- 図版23 打製石錐(右面)
- 図版24 (上) 石小刀、削器、ハンマー(左面)
(下) 石小刀、削器、ハンマー(右面)
- 図版25 石包丁
- 図版26 (上) 横形剝片
(下左) 石核
(下右) 石製円盤、土製紡錘車

I 平成8年度調査概要

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
発掘	4	6	2	8	6	4	3	2	3	5	1	5	49
立会	16	13	24	23	32	17	40	30	16	17	34	24	286
慎重工事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発見届	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
計	20	19	26	31	38	21	43	33	19	22	35	29	336

表1 発掘届出件数(平成9年3月15日まで)

No	調査期間	遺跡名	位 置	申 請 者	面積(af)	用 途	備 考
1	8.4.1～9.3.31	西大寺山古墳群	山中田町・南大伴町	三井不動産株式会社	24,000	宅地造成	弥生時代竪穴住居跡・古墳時代壇墳5基・方墳墓・山城・土坑・ピット・溝・近世墓
2	8.4.10～5.2	喜志西遺跡	喜志町3丁目923-5	大倉建設株式会社	132	共同住宅	8m×16.5mのトレンチ調査落ち込み・ピット・土坑を検出
3	8.8.26～11.12	喜志遺跡	木戸山町582	田中宏	494	宅地造成工事	本書掲載
4	8.9.4～9.5	喜志遺跡	喜志町4丁目473-5	松本美恵子	10	個人住宅	浄化槽部分2m×5mを人力掘削ピット検出
5	8.10.2～10.16	甲田南遺跡	甲田3丁目76-1	株式会社 中井製作所	32	倉庫新築工事	10m×3.3mのトレンチ調査ピット・溝・土坑を検出
6	8.10.7～10.23	中野遺跡	若松町西2丁目1696-1	大阪労働金庫	80	銀行店舗新築	トレンチを3区設定ピット・溝・土坑を検出
7	8.11.13～12.9	甘南備遺跡	甘南備1260-2～1318-1	富田林市	800	歩道設置工事	トレンチを4区設定ピット・溝・土坑を検出
8	8.11.14～12.3	喜志西遺跡	喜志3丁目918-1	大栄建設株式会社	240	共同住宅	トレンチを3区設定溝・ピット・土坑・落ち込みを検出
9	8.12.10～12.26	甘南備遺跡	甘南備1255-1、1256-1	富田林市	200	歩道設置工事	40m×2mを掘削建物跡・溝・土坑を検出
10	9.2.15～2.17	中野北遺跡	中野町1丁目127-3	株式会社 アクティー	20	宅地造成工事	1.5m×30mのトレンチ調査ピット検出

表2 発掘調査一覧表

II 喜志遺跡

1. 調査に至る経過(図1)

喜志遺跡は市域の北端部から羽曳野市東阪田にかけて広がる弥生時代から近世に至るまでの遺跡で、石川中流域西岸の中位段丘上に立地する。古くから石器が採集される弥生時代の集落跡として学界でも知られていたが、1970年以降の宅地建設など民間開発とともに富田林市教育委員会と大阪府教育委員会および羽曳野市教育委員会による発掘調査の結果、遺跡の規模は南北約700m、東西約700mの範囲まで広がることが明らかになった。その中でも弥生時代の集落跡としては北東部



図1 発掘調査位置図

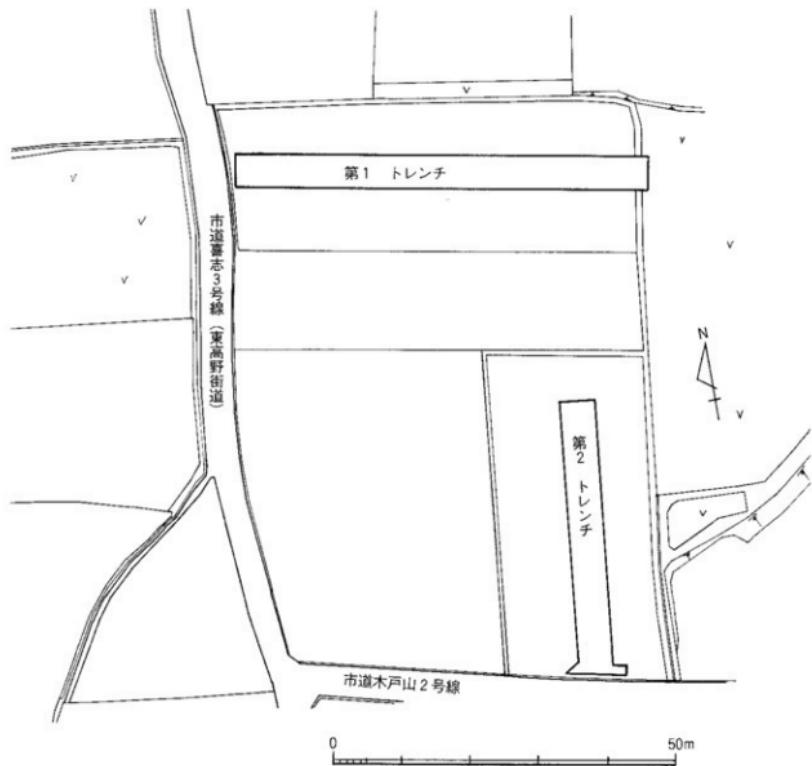


図2 トレンチ配置図

の南北450m、東西200~300mの範囲に限られ、さらにその中でも中央南寄りの地域の南北100m、東西200mのごく限られた範囲にのみ弥生時代の居住空間が存在することが判明している。そしてこの居住空間の西辺と南部域に方形周溝墓を墓制とする墓域が存在し、それらの間に生産域としての空間が広がって集落が構成されていると想定されている（小林1983）。

喜志遺跡は石器用の石材であるサヌカイトを産出する二上山から約5kmという立地を生かして、石器製作を生業とする集落として知られているが、既往の調査でもサヌカイト製の石器、剥片などがつまた上墳、溝が何カ所も検出され、それらは石器製作時の事故品、石屑などを一括投棄したものと解釈されている（森本1983）。

今回の調査は1971年の暗渠埋設工事中に多量の土器と石器が発見された地点に南接する地区（第1トレンチ）と、1970年に本市教育委員会が喜志遺跡範囲確認のために行った試掘調査の地点を含めた北接する地区（第2トレンチ）の2カ所を分譲住宅建設工事とともに調査として実施した。調査前の状況は耕作地であり、調査地区内で耕作地が東西に約0.3mの段差をもって形成されていた。

なお、本調査前に行った試掘調査では、一段上位にある西側の耕作面では遺物包含層と遺構が検出されたが、東側は水田化の際に削平されたのか、遺構を確認できなかった。また、これらの地区は本市教育委員会が1987年に調査した方形周溝墓を検出した地区的北側と東側にあたることから、北側の地区についてはとくに方形周溝墓の広がる可能性を考慮にいれて実施した。

2. 調査の方法（図2）

調査地は富田林市木戸山町580-1、582で、地下埋設物のはいる道路部分に2カ所のトレンチを設定した。調査区の総面積は494.4m²である。

第1トレンチは北側の調査区で、南北4.9m、東西60mの規模で、第2トレンチは南北40.5m、東西4.9mの規模で設定した。両トレンチとも現況の耕作面から地山まで機械掘削を行い、地山で遺構を検出した。

なお、第1トレンチについてはほぼ中央部で検出された溝2中に多量のサヌカイトが出土したため、サヌカイトの集中する南北4.5m、東西7.5mの範囲を50cmごとにメッシュを組み、小区画を設定して、堆積土ごと取りあげた。

3. 調査の立地と基本層序

調査前の状況は耕作地で、標高約50mの河岸段丘上のほぼ平坦な面にあたる。第1トレンチ東端から東へ約25mの所に段丘崖があり、標高約40mまで下る。調査区は両トレンチともほぼ同一レベルの標高であるが、段丘崖との間は約30cmの段差で耕作面が広がる。なお、この一段低くなった耕作面には今のところ遺構は確認されていない。

基本層序は第1トレンチでは上から第1層・耕土、第2層・床土、第3層・灰褐色弱粘質土（旧耕土）、第4層・褐灰色弱粘質土（旧床土）で、現況から約35cm下で地山に達する。地山は黄灰色シルトで、深いところではその下の黄褐色砂礫土の面まで達している部分もある。このうち第3層については、トレンチの西側でのみ確認できる層である。またトレンチ中央部では第4層の下に第5層・濁褐灰黄色弱粘質土、第6層・暗褐色弱粘質土の堆積が見られる。遺構はすべて地山面で検出された。

第2トレンチは第1層・耕土1（濁灰褐色土）、第2層・赤褐色砂、第3層・耕土2（灰褐色土）、第4層床土からなり、現況面から約25cm下で地山となる。ただし、第2トレンチは北側と南端部で耕土の堆積状況に差違がある。つまり上述の堆積がすべて確認できるのはトレンチの南端部だけで、北側については第1層、第2層は確認できず、第3層が堆積しているだけである。なお、第4層についてはトレンチ全域で確認できる。遺構はすべて地山面で検出している。

4. 遺構

各トレンチごとに記述する。

第1トレンチ（図3）

溝8、落ち込み1、土壤7、ピット168が検出されている。

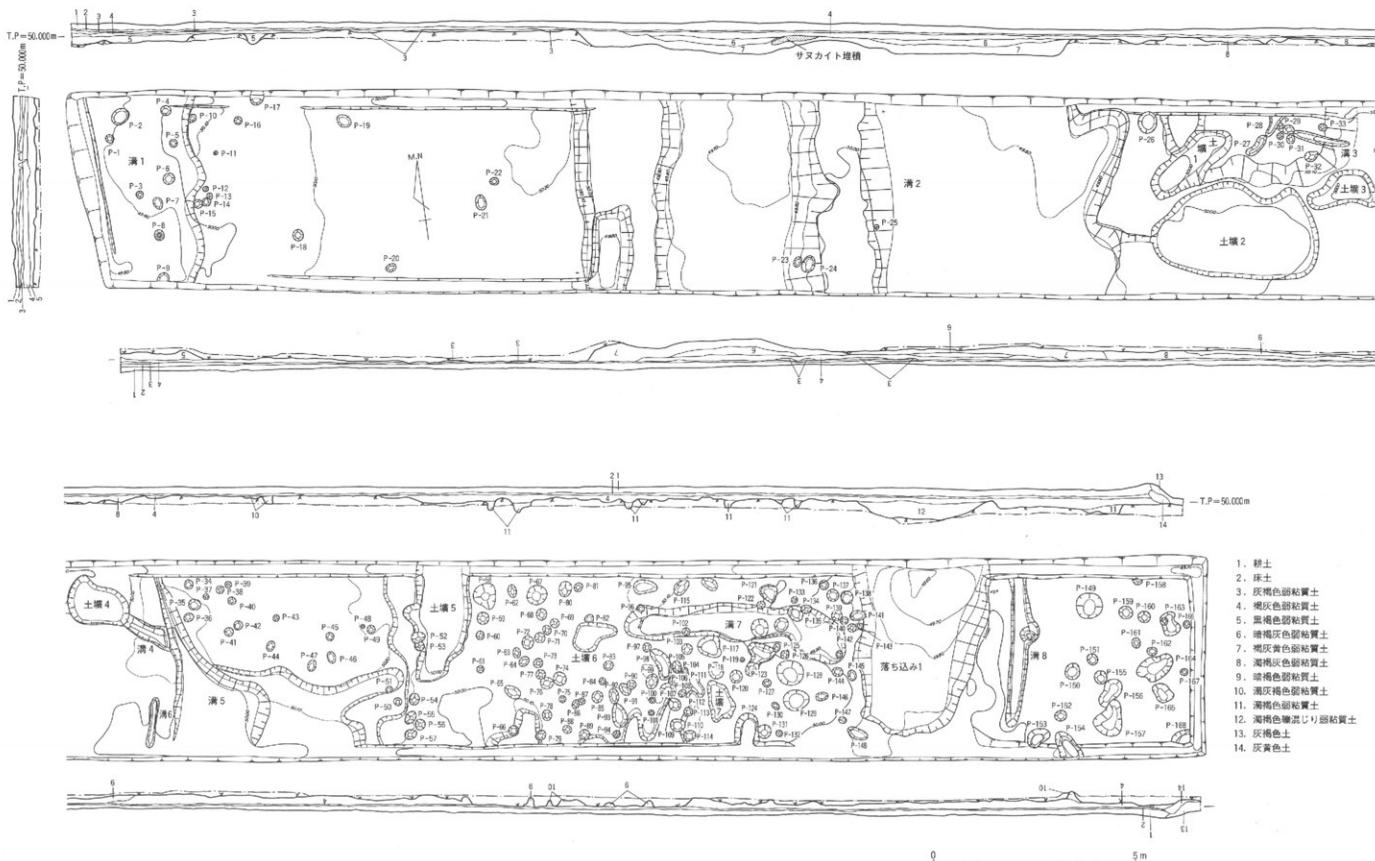


図3 第1トレンチ造構平面図・断面図

溝 1

西端部で検出された南北方向の溝である。溝の西肩部は調査区外に広がるが、東肩部はトレンチの西端から約2.5mのところで検出されている。幅2.7m以上、深さ約0.2mある。南北の高低差はほとんどない。埋土は黒褐色弱粘質土である。埋土からは弥生土器、サヌカイトと共に、磨製石庖丁、打製石鏃などが出土している。

溝 2（図版4, 5）

トレンチ中央よりやや西で検出された、幅12.7mの南北溝である。溝の中央部分で地山が約0.3m上がっており、2本の溝のようになっている。この地山の高まりは若干北から南へ傾斜している。それぞれの溝の底面は平坦になっており、南北の高低差はほとんどない。また西肩辺りでは1段テラス状になっている。深さはどちらも約0.4mある。

埋土は暗褐灰色弱粘質土（第1層）、褐灰黄色弱粘質土（第2層）の2層が堆積しているが、出土する弥生土器には2層間で接合するものがあるため、これらの堆積時期についてはほとんど差はないと考えられる。

遺物は弥生土器、石庖丁、打製石器など多数出土している。特に第2層では、中央で地山の上がった部分の西肩辺りに東西約1.5m、南北約2.0m、厚さ約0.1mにわたって多量のサヌカイトの剝片が出土している。トレンチの北壁面でもこの堆積が確認することができるので、トレンチの北側にさらに広がっていると推定される。この堆積には土器はほとんど含まれていない。また、これらのサヌカイトについては扁平な剝片が垂直に立った状態で出土していることから、溝を埋めるときに一括して廃棄したと考えられる。

溝 3

トレンチのほぼ中央で検出された、長さ約1.4m、幅約0.23m、深さ約0.12mの東西溝である。埋土は濁褐灰黄色弱粘質土で、少量の弥生土器片が出土している。

溝 4

溝3の東にある、長さ約1.0m、幅約0.42m、深さ約0.15mの東西溝である。埋土は濁褐灰黄色弱粘質土である。遺物は出土していない。

溝 5

溝4の東側にある南北溝で、溝4を切っている。トレンチの北部では幅約0.4m、深さ約0.1mと細く浅いが、南に行くにつれて幅が広くなり、幅約2.04m、深さ約0.18mになる。埋土は褐灰色弱粘質土である。遺物としては弥生土器の小片が数点出土している。

溝 6

溝5の西側にある、長さ約1.26m、幅約0.14m、深さ約0.06mの南北溝である。埋土は灰褐色弱粘質土で、弥生土器の小片が1点出土している。

遺構番号	平面形	規模（m）	深さ（m）	埋土	出土遺物
土壤1	不整形	2.38×0.94	0.08	暗褐色弱粘質土	弥生土器
土壤2	不整形	4.12×2.34	0.11	暗褐色弱粘質土	弥生土器
土壤3	不整形	1.24×0.82	0.16	暗褐色弱粘質土	弥生土器
土壤4	不整形	1.52×1.00	0.07	暗褐色弱粘質土	弥生土器
土壤5	不整形	2.60×1.20	0.15	濁褐色弱粘質土	弥生土器
土壤6	不整形	1.04×0.72	0.08	濁褐色弱粘質土	
土壤7	不整形	1.04×0.60	0.05	濁褐色弱粘質土	

表3 第1トレンチ土壤一覧表

溝7

トレンチ中央よりやや東側で検出された長さ約5.4m、幅約0.9m、深さ約0.1mの深い東西溝である。埋土は濁褐色弱粘質土である。遺物は出土していない。

溝8

トレンチ東端付近で検出された南北溝で、長さ約3.7m、幅約0.44m、深さ約0.13mである。埋土は第4層と同じ褐色弱粘質土で溝の方向が現在の畦畔の方向とほぼ一致していることから、旧水田の区画溝であると考えられる。遺物は出土していない。

落ち込み1

トレンチ東側で検出された。東西約3.4m、南北約4.1m、深さ約0.4mを測る。南から北に傾斜し、幅も北のほうがやや広くなる。トレンチの北壁面でも確認できるため、さらに北に広がると思われる。埋土は濁褐色弱粘質土である。遺物は弥生土器に混じって石鐵が1点出土している。

土壤（図版6）

土壤はトレンチの中央付近で7つ確認された。そのうち、土壤1、土壤2、土壤3、土壤4は第5層、第6層の堆積の下から検出されている。どれも比較的浅く、用途等は分からぬ。遺物としては土壤1、土壤2から弥生土器が比較的まとまって出土しているが、それ以外ではあまり見られない。

詳細については表3を参照されたい。

ピット

第1トレンチではピットが168検出されているが、その大半がトレンチの東半分に集中する。トレンチ中央部のもの（P-24～33）は第5層の下で検出されている。遺物としては、埋土中に細片が混じって出土する程度で、まとまって出土したものはなかった。

詳細については表4を参照されたい。

遺構番号	平面形	規模(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物
P-1	円形	0.21×0.20	0.11	黒褐色弱粘質土	
P-2	楕円形	0.49×0.37	0.06	黒褐色弱粘質土	
P-3	円形	0.20×0.19	0.08	黒褐色弱粘質土	
P-4	円形	0.26×0.24	0.04	黒褐色弱粘質土	
P-5	円形	0.20×0.18	0.06	黒褐色弱粘質土	
P-6	不整形	0.29×0.27	0.05	黒褐色弱粘質土	
P-7	不整形	0.31×0.23	0.18	黒褐色弱粘質土	
P-8	不整形	0.27×0.23	0.11	黒褐色弱粘質土	
P-9	(楕円形)	(0.20)×0.28	0.04	黒褐色弱粘質土	
P-10	不整形	0.24×0.18	0.07	褐灰色弱粘質土	
P-11	円形	0.10×0.09	0.07	褐灰色弱粘質土	
P-12	円形	0.15×0.13	0.10	黒褐色弱粘質土	
P-13	不整形	0.16×0.14	0.10	黒褐色弱粘質土	
P-14	不整形	0.22×0.21	0.06	黒褐色弱粘質土	
P-15	不整形	0.20×0.17	0.07	黒褐色弱粘質土	
P-16	円形	0.18×0.17	0.10	褐灰色弱粘質土	
P-17	(楕円形)	(0.16)×0.27	0.10	黒褐色弱粘質土	
P-18	円形	0.24×0.22	0.20	褐灰色弱粘質土	
P-19	不整形	0.38×0.29	0.11	濁灰褐色弱粘質土	
P-20	楕円形	0.21×0.15	0.08	濁灰褐色弱粘質土	
P-21	楕円形	0.39×0.25	0.09	濁灰褐色弱粘質土	
P-22	不整形	0.23×0.18	0.08	濁灰褐色弱粘質土	
P-23	楕円形	0.27×0.19	0.06	褐灰色弱粘質土	
P-24	不整形	0.43×0.32	0.17	濁灰褐色弱粘質土	弥生土器
P-25	円形	0.13×0.12	0.10	濁灰褐色弱粘質土	
P-26	楕円形	0.53×0.46	0.06	濁灰褐色弱粘質土	弥生土器
P-27	不整形	0.65×0.20	0.04	濁灰褐色弱粘質土	弥生土器
P-28	(不整形)	(0.54)×0.26	0.03	濁灰褐色弱粘質土	弥生土器
P-29	不整形	0.29×0.22	0.03	濁灰褐色弱粘質土	弥生土器
P-30	不整形	0.17×0.16	0.09	濁灰褐色弱粘質土	
P-31	不整形	0.21×0.20	0.13	濁灰褐色弱粘質土	弥生土器
P-32	不整形	0.35×0.25	0.14	濁灰褐色弱粘質土	弥生土器
P-33	楕円形	0.21×0.17	0.03	濁灰褐色弱粘質土	
P-34	円形	0.22×0.18	0.13	濁灰褐色弱粘質土	
P-35	円形	0.32×0.25	0.16	濁灰褐色弱粘質土	上師器
P-36	円形	0.26×0.19	0.15	濁灰褐色弱粘質土	弥生土器
P-37	円形	0.15×0.14	0.11	濁灰褐色弱粘質土	
P-38	円形	0.21×0.18	0.13	濁灰褐色弱粘質土	
P-39	円形	0.20×0.14	0.12	濁灰褐色弱粘質土	
P-40	円形	0.19×0.18	0.13	濁灰褐色弱粘質土	
P-41	不整形	0.22×0.22	0.14	濁灰褐色弱粘質土	
P-42	不整形	0.23×0.21	0.16	濁灰褐色弱粘質土	
P-43	円形	0.17×0.16	0.15	濁灰褐色弱粘質土	弥生土器
P-44	楕円形	0.25×0.20	0.04	濁灰褐色弱粘質土	土師器
P-45	円形	0.20×0.19	0.15	濁灰褐色弱粘質土	土師器
P-46	楕円形	0.30×0.19	0.17	濁灰褐色弱粘質土	
P-47	楕円形	0.27×0.21	0.19	濁灰褐色弱粘質土	弥生土器
P-48	円形	0.10×0.10	0.19	濁灰褐色弱粘質土	
P-49	円形	0.21×0.19	0.07	濁灰褐色弱粘質土	
P-50	円形	0.20×0.19	0.08	濁灰褐色弱粘質土	
P-51	不整形	0.16×0.15	0.17	褐灰色弱粘質土	弥生土器
P-52	不整形	0.35×0.26	0.16	褐灰色弱粘質土	
P-53	(円形)	0.24×(0.19)	0.11	褐灰色弱粘質土	
P-54	楕円形	0.28×0.25	0.11	濁灰褐色弱粘質土	
P-55	不整形	0.36×0.22	0.11	濁灰褐色弱粘質土	弥生土器
P-56	不整形	0.27×0.23	0.15	濁灰褐色弱粘質土	

表4 第1トレントビット一覧表(1)

P-57	不整形	0.31×0.22	0.18	濁褐色弱粘質土	
P-58	不整形	0.64×0.55	0.21	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-59	円 形	0.30×0.29	0.09	濁褐色弱粘質土	
P-60	不整形	0.22×0.20	0.12	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-61	不整形	0.19×0.18	0.11	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-62	椭円形	0.32×0.21	0.06	濁褐色弱粘質土	
P-63	椭円形	0.27×0.19	0.12	濁褐色弱粘質土	
P-64	椭円形	0.30×0.22	0.04	濁褐色弱粘質土	
P-65	不整形	0.43×0.27	0.12	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-66	円 形	0.26×0.24	0.16	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-67	不整形	0.48×0.45	0.14	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-68	円 形	0.29×0.27	0.10	濁褐色弱粘質土	
P-69	円 形	0.22×0.21	0.11	濁褐色弱粘質土	
P-70	椭円形	0.24×0.19	0.05	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-71	不整形	0.27×0.25	0.10	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-72	不整形	0.27×0.24	0.13	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-73	円 形	0.20×0.18	0.08	濁褐色弱粘質土	
P-74	円 形	0.29×0.26	0.18	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-75	円 形	0.18×0.17	0.11	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-76	不整形	0.33×0.29	0.08	濁褐色弱粘質土	
P-77	円 形	0.24×0.23	0.09	濁褐色弱粘質土	
P-78	椭円形	0.28×0.24	0.12	濁褐色弱粘質土	
P-79	不整形	0.28×0.23	0.10	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-80	不整形	0.38×0.30	0.16	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-81	不整形	0.23×0.19	0.10	濁褐色弱粘質土	
P-82	不整形	0.22×0.20	0.12	濁褐色弱粘質土	
P-83	円 形	0.24×0.22	0.09	濁褐色弱粘質土	
P-84	円 形	0.18×0.16	0.08	濁褐色弱粘質土	
P-85	椭円形	0.29×0.26	0.11	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-86	(不整形)	(0.16)×0.26	0.10	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-87	不整形	0.22×0.17	0.11	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-88	椭円形	0.23×0.19	0.07	濁褐色弱粘質土	
P-89	円 形	0.26×0.24	0.14	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-90	円 形	0.23×0.21	0.06	濁褐色弱粘質土	
P-91	(不整形)	0.36×(0.20)	0.11	濁褐色弱粘質土	
P-92	椭円形	0.38×0.24	0.09	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-93	不整形	0.64×0.36	0.06	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-94	円 形	0.21×0.19	0.07	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-95	不整形	0.59×0.36	0.11	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-96	円 形	0.19×0.16	0.04	濁褐色弱粘質土	
P-97	円 形	0.22×0.21	0.09	濁褐色弱粘質土	
P-89	不整形	0.84×0.35	0.18	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-99	椭円形	0.37×0.28	0.15	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-100	円 形	0.16×0.15	0.11	濁褐色弱粘質土	
P-101	円 形	0.15×0.14	0.05	濁褐色弱粘質土	
P-102	円 形	0.19×0.18	0.12	濁褐色弱粘質土	
P-103	団丸方形	0.26×0.25	0.13	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-104	円 形	0.17×0.15	0.10	濁褐色弱粘質土	
P-105	椭円形	0.30×0.22	0.10	濁褐色弱粘質土	
P-106	(不整形)	(0.20)×(0.20)	0.09	濁褐色弱粘質土	
P-107	団丸方形	0.38×0.36	0.09	濁褐色弱粘質土	
P-108	椭円形	0.21×0.16	0.04	濁褐色弱粘質土	
P-109	団丸方形	0.30×0.28	0.20	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-110	団丸方形	0.37×0.31	0.22	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-111	不整形	0.68×0.32	0.16	濁褐色弱粘質土	弥生土器
P-112	椭円形	0.38×0.28	0.10	濁褐色弱粘質土	
P-113	椭円形	0.23×0.20	0.12	濁褐色弱粘質土	

表4 第1トレーンチピット一覧表(2)

P-114	楕円形	0.30×0.24	0.09	濁褐色灰色弱粘質土	
P-115	不整形	0.44×0.30	0.11	濁褐色灰色弱粘質土	弥生土器
P-116	楕円形	0.44×0.26	0.17	濁褐色灰色弱粘質土	弥生土器
P-117	不整形	0.60×0.58	0.22	濁褐色灰色弱粘質土	
P-118	楕円形	0.42×0.36	0.13	濁褐色灰色弱粘質土	弥生土器
P-119	円形	0.12×0.10	0.08	濁褐色灰色弱粘質土	
P-120	円形	0.30×0.30	0.18	濁褐色灰色弱粘質土	弥生土器
P-121	不整形	0.46×0.40	0.14	濁褐色灰色弱粘質土	
P-122	円形	0.22×0.19	0.19	濁褐色灰色弱粘質土	
P-123	不整形	0.84×0.70	0.13	濁褐色灰色弱粘質土	弥生土器
P-124	(楕円形)	(0.80)×0.62	0.11	濁褐色灰色弱粘質土	
P-125	楕円形	0.22×0.16	0.07	濁褐色灰色弱粘質土	
P-126	隅丸方形	0.21×0.19	0.17	濁褐色灰色弱粘質土	
P-127	隅丸方形	0.66×0.60	0.23	濁褐色灰色弱粘質土	
P-128	隅丸方形	0.21×0.20	0.12	濁褐色灰色弱粘質土	
P-129	楕円形	0.67×0.50	0.18	濁褐色灰色弱粘質土	弥生土器
P-130	楕円形	0.22×0.14	0.07	濁褐色灰色弱粘質土	
P-131	(円形)	0.33×(0.30)	0.11	濁褐色灰色弱粘質土	弥生土器
P-132	円形	0.17×0.16	0.10	濁褐色灰色弱粘質土	
P-133	円形	0.18×0.16	0.10	濁褐色灰色弱粘質土	
P-134	楕円形	0.28×0.22	0.22	濁褐色灰色弱粘質土	
P-135	楕円形	0.42×0.36	0.32	濁褐色灰色弱粘質土	
P-136	円形	0.24×0.23	0.10	濁褐色灰色弱粘質土	
P-137	円形	0.30×0.28	0.15	濁褐色灰色弱粘質土	
P-138	不整形	0.35×0.31	0.17	濁褐色灰色弱粘質土	
P-139	円形	0.26×0.24	0.14	濁褐色灰色弱粘質土	
P-140	円形	0.20×0.19	0.06	濁褐色灰色弱粘質土	
P-141	楕円形	0.40×0.25	0.05	濁褐色灰色弱粘質土	
P-142	円形	0.20×0.19	0.13	濁褐色灰色弱粘質土	
P-143	円形	0.17×0.15	0.09	濁褐色灰色弱粘質土	
P-144	隅丸方形	0.26×0.22	0.10	濁褐色灰色弱粘質土	
P-145	楕円形	0.56×0.21	0.16	濁褐色灰色弱粘質土	
P-146	楕円形	0.30×0.19	0.09	濁褐色灰色弱粘質土	
P-147	隅丸方形	0.20×0.16	0.06	濁褐色灰色弱粘質土	
P-148	不整形	0.51×0.26	0.11	濁褐色灰色弱粘質土	
P-149	隅丸方形	0.64×0.64	0.34	褐色灰色弱粘質土	
P-150	不整形	0.39×0.36	0.13	濁褐色灰色弱粘質土	
P-151	隅丸方形	0.28×0.25	0.18	濁褐色灰色弱粘質土	
P-152	楕円形	0.30×0.26	0.20	濁褐色灰色弱粘質土	
P-153	不整形	0.59×0.39	0.10	濁褐色灰色弱粘質土	
P-154	(不整形)	(0.70)×0.52	0.20	濁褐色灰色弱粘質土	
P-155	円形	0.33×0.30	0.16	濁褐色灰色弱粘質土	
P-156	不整形	0.74×0.32	0.13	濁褐色灰色弱粘質土	
P-157	不整形	0.90×0.70	0.21	褐色灰色弱粘質土	
P-158	(円形)	0.26×(0.14)	0.06	濁褐色灰色弱粘質土	
P-159	円形	0.34×0.30	0.11	濁褐色灰色弱粘質土	
P-160	円形	0.30×0.28	0.10	濁褐色灰色弱粘質土	
P-161	楕円形	0.26×0.20	0.10	濁褐色灰色弱粘質土	
P-162	楕円形	0.26×0.21	0.08	濁褐色灰色弱粘質土	
P-163	不整形	0.54×0.42	0.10	濁褐色灰色弱粘質土	
P-164	不整形	0.94×0.58	0.29	褐色灰色弱粘質土	
P-165	不整形	0.50×0.40	0.18	褐色灰色弱粘質土	
P-166	楕円形	0.20×0.15	0.12	濁褐色灰色弱粘質土	
P-167	円形	0.18×0.16	0.09	濁褐色灰色弱粘質土	
P-168	(楕円形)	(0.46)×(0.34)	0.10	濁褐色灰色弱粘質土	

表4 第1トレントンチビット一覧表(3)

第2トレンチ(図4)

第2トレンチでは、落ち込み1、谷1、溝2、土坑5、ピット11が検出された。

落ち込み2

北側約4分の1の範囲に広がる落ち込みで、長さ約11m、幅約3.3mを測る。深さは0.15mと浅いが、底部には起伏が見られ、中心部分で深さ約0.4mの大きなくぼみがある。埋土は灰褐色弱粘質土である。遺物は弥生土器が出土している。

谷

トレンチ南側で検出された、北西から南東に傾斜する谷である。今回の調査では北側の肩を確認している。全体に緩やかに傾斜しているが、トレンチ南東端で急激に落ち込み、最も深い所で約1.4m下がっている。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、瓦とともにサヌカイトの剝片が数点出土している。

溝9

谷の緩斜面上で検出された、幅約0.5m、長さ約7.5mの南北溝である。北端部で西に折れているが、本調査前の試掘坑に切られているため詳細はわからない。深さは0.1mと浅い。埋土は茶褐色弱粘質土である。遺物は土師器の小片数点とサヌカイト剝片が1点出土している。

溝10

谷の緩斜面上で検出された、長さ約2.2m、幅約0.6m、深さ約0.1mの溝で、溝9につながっている。埋土は茶褐色弱粘質土で、遺物は出土していない。

土壤・ピット

第2トレンチでは土壤が5、ピットが11検出されたが、いずれの遺構も遺物はほとんど出土しておらず、どのような性格のものか分かることはできない。詳細は表5を参照されたい。

遺構番号	平面形	規模(m)	深さ(m)	埋土	出土遺物
土壙8	(不整形)	1.10×(0.33)	0.25	灰褐色弱粘質土	
土壙9	(不整形)	(4.45)×(1.86)	0.11	灰褐色弱粘質土	
土壙10	(不整形)	(1.26)×(0.75)	0.09	灰褐色弱粘質土	
土壙11	(不整形)	1.57×(1.00)	0.15	灰褐色弱粘質土	
土壙12	(不整形)	(1.51)×0.45	0.12	灰褐色弱粘質土	
P-169	円 形	0.31×0.30	0.09	灰褐色弱粘質土	
P-170	(不整形)	(0.50)×0.44	0.16	灰褐色弱粘質土	
P-171	不整形	0.52×0.43	0.16	灰褐色弱粘質土	
P-172	(不整形)	0.44×(0.23)	0.10	灰褐色弱粘質土	
P-173	円 形	0.21×0.20	0.03	灰褐色弱粘質土	
P-174	不整形	0.61×0.38	0.07	灰褐色弱粘質土	
P-175	(楕円形)	(0.37)×0.48	0.13	茶褐色弱粘質土	
P-176	(H 形)	0.72×(0.88)	0.18	茶褐色弱粘質土	
P-177	不整形	0.56×0.32	0.23	1970年調査後の埋め戻し土	
P-178	不整形	0.32×0.28	0.28	1970年調査後の埋め戻し土	
P-179	円 形	0.26×0.24	0.19	1970年調査後の埋め戻し土	

表5 第2トレンチ土壤・ピット一覧表

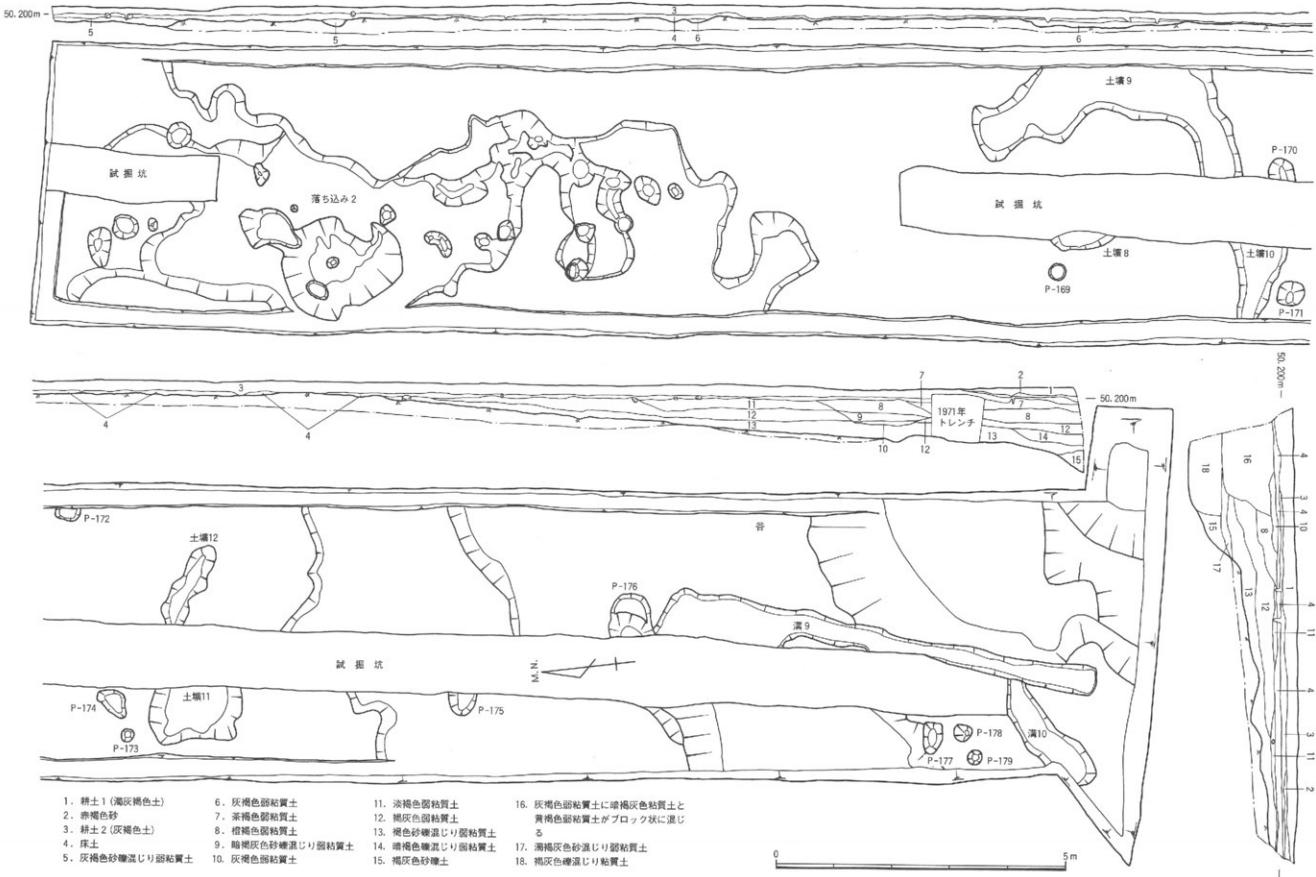


図4 第2トレンチ造構平面図・断面図

5. 遺物

今回の調査で出土した遺物には弥生土器、土師器、須恵器、陶器、石器、土製品、瓦がある。遺物はコンテナ(54×34×15cm)にして総数164箱出土しているが、その内訳は弥生土器が102箱、石器が61箱、その他の遺物が1箱である。そしてそのほとんどは第1トレンチからの出土で、総数163箱で、残りの1箱が第2トレンチから出土している。ここでは各トレンチごとに出土遺物を記述する。

第1トレンチ出土遺物

第1トレンチからは弥生土器、須恵器、土製品、石器が出土している。すでに述べたとおり、遺物の大半は弥生土器と石器で他の遺物の出土は少ない。遺構から出土した遺物は弥生時代のものだけである。これらの大半は第II様式から第IV様式のものであるが、第I様式中段階のものが1点と第VI様式のものが少量出土している。また、これらの大半は石器とともに、溝2、土壤2から出土しているが出土状況は良好ではない。すなわち遺物は各遺構内の隣り合う堆積層間で接合するだけではなく、遺構とその上層の包含層間でも、また異なる遺構間、例えば溝1と溝2、溝2と土壤2などの間でも接合が認められる。さらに最下層から弥生時代第VI様式のものが出土したりするなど、遺物は二次的な廃棄の結果生じたもの、もしくは二次的に攪乱を受けて生じたものと考えざるを得ない。そのため堆積状況では各様式に細分した確実な所属時期を求めることができない。そこでここででは弥生土器については型式ごとに分類し、既往の土器編年に所属時期を求めて記述する。そのあと土製品と石器について記述する。

なお、須恵器は細片が数点出土しただけなので、ここでは取り上げない。

(1) 弥生土器

弥生土器は前期のものから後期のものまで出土している。ただし、前期から後期まで連続的に出土しているのではなく、時期からみれば中期を除いてその出土状況は断続的である。つまり、前期のものは中段階後半のものが1点出土しているだけで、新段階のものは認められない。また、後期については前半期のものが欠落していて、出土しているものはすべて後期の後半に所属する。量的な比率は中期が圧倒的に多い。とりわけ第II様式から第III様式のものが多く、次に第IV様式のものが続く。前期のものと後期のものは少ない。

以下、各様式期ごとに記述する。なお、弥生土器の編年は寺沢・森井(寺沢・森井1984)に従う。また、図示した土器の個別の観察は土器観察表としてまとめたので表6を参照されたい。

第I様式(図版11・図5:1)

広口壺(1)が1点出土しているだけである。第II様式のものと分類した甕の中に第I様式に比定したほうがよいものがあるかもしれないが、分類が困難であることからすべて第II様式のものとして扱った。

広口壺は口縁部の破片で、頸部との境に沈線が1条めぐる。段を意識して施された沈線であることから、『河内I-2様式』に比定できる。

第Ⅱ様式（図版9～11・図5～8）

広口壺、無頸壺、鉢、蓋、甕が出土している。高環もおそらくあると思われるが、环部では鉢と、脚部では第Ⅲ様式のものとの区別が困難であることから抽出できなかった。これらの土器の器種別の出土比率は正確な数値をあげることができないが、甕が最も多く、次に壺類、鉢および蓋の出土は少ない。なお、第Ⅰ様式のところでも述べたが、甕については第Ⅱ様式に分類したものの中に第Ⅰ様式と認定すべきものも含まれているかも知れないが、へら描き沈線などで加飾されたものなすことから本様式に認定した。

この時期に所属するものの特徴としては、紋様構成では櫛描直線紋と扇形紋の盛用、これらの紋様を組み合わせた疑似流水紋の施紋に認められる流水紋の簡略化をあげることができる（註）。これらの特徴から第Ⅱ様式でも新しい様相をもつと考えられることから、『河内II-2・3様式』に比定しておきたい。

なお、搬入品には生駒西麓産の胎土をもつもののほか、紀伊、大和からのものがある。前者は壺、鉢、甕など多くの器種が認められるが、後二者は甕だけである。

（註）紋様はすべて櫛工具で描かれているので、特に施紋工具を指定しない限り、以下、すべて櫛描という表現は省略する。

広口壺（図版9, 11・図5, 6: 2～9, 14, 20, 21）

広口壺は口頭部の形状がバラエティーに富んでいる。頭部の長さは一般的な長さのもの（2～5, 7）が多いが、長い頭部のもの（6）も認められる。前者は筒状の頭部から聞く口縁部をもつもの（2～5）が多いが、外反して口縁部で大きく聞くもの（7）もある。これらのうち（2）は頭部から肩部にむかって餘々に聞く形態をもつ。口縁端部は丸くおさまるもの（2, 7）、平坦面をもつもの（4）、わずかに上下に拡張するもの（3, 5, 6）がある。体部は長胴のもの（8）と球形のもの（5, 9, 14, 20, 21）がある。

紋様は口縁部に波状紋を施したもの（4）と刻み目紋を施したもの（7）がある。頭部は直線紋を施したものが多いが、直線紋の上に扇形紋を並べたもの（4）もある。体部も直線紋が多いが、直線紋に扇形紋を組み合わせて疑似流水紋を施したもの（14, 20, 21）もある。なお、（5）は無紋である。

調整は横方向のヘラミガキ調整を行うものが多い。また、生駒西麓産の胎土のものは紋様帶間に横方向のヘラミガキを施しているもの（2, 7, 14, 20）が多い。

無頸壺（図6: 11～13）

無頸壺は口縁が直立するもの（11）、内傾するもの（12）、内湾するもの（13）がある。外面には直線紋に扇形紋を組み合わせて疑似流水紋を施したもの、波状紋と直線紋を施したもの、不安定な直線紋を施したものがある。この器種に生駒西麓産の胎土をもつものはない。

鉢（図6: 15～19）

鉢には口縁が内湾するもの（15）、直立気味に内湾するもの（16, 17）、外傾するもの（18）、外反するもの（19）がある。外面には直線紋と扇形紋を組み合わせて疑似流水紋を施したもの、途切れた直線紋のため、一見、簾状紋のようにみえる直線紋を施したもの、直線紋の上に扇形紋を重ねて施し

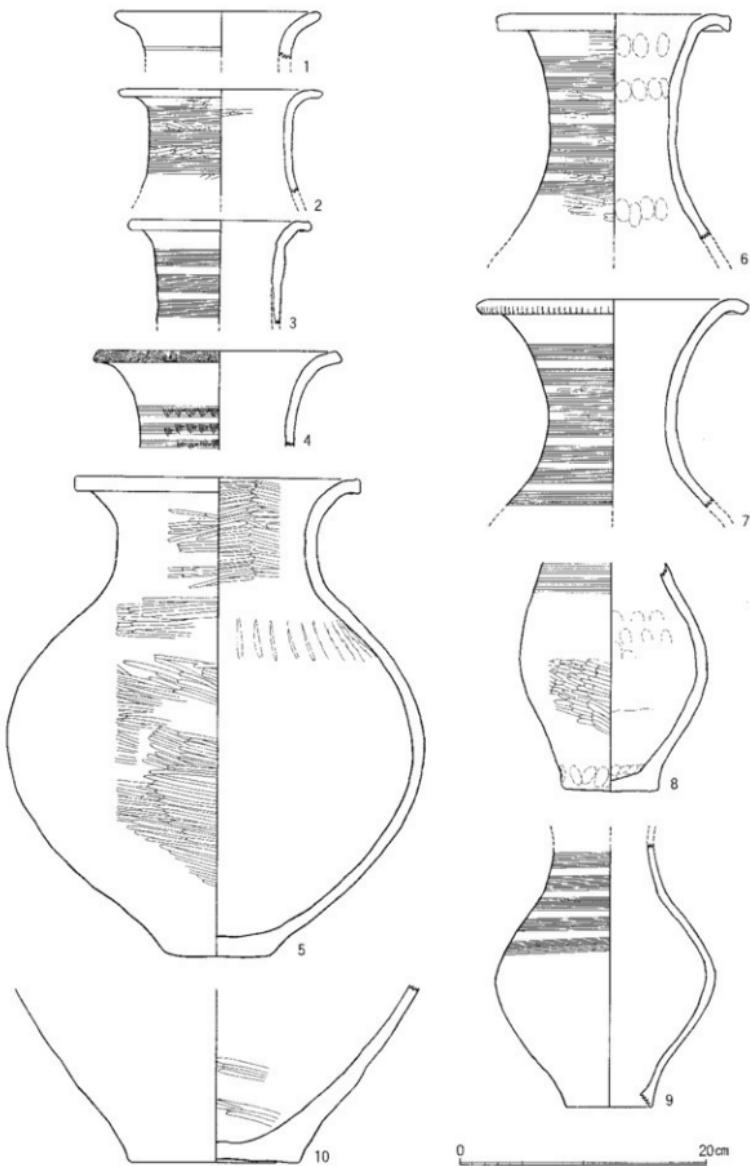


図5 弥生土器(第Ⅰ様式・第Ⅱ様式広口壺、底部)

たものと直線紋だけを組み合わせて施したものほかに無紋のものがある。

壺用蓋（図版9、図6：22, 23）

壺用蓋には天井部が丸みをもつもの(22)と扁平なもの(23)がある。ともに天井部中央に小さなつまみが付されている。2孔1対の紐穴が相対する位置にあけられている。

壺用蓋（図6：24～26）

壺用蓋は口縁部が残存のもの(24)と天井部が残存のもの(25, 26)がある。後者のつまみ部には頂部が大きく張り出すものと張り出さないものがある。

甕（図版10, 11・図7, 8：27～61）

甕には在地製作のものほかに、生駒西麓産の胎土をもつもの、結晶片岩を含む紀伊産の胎土をもつもの、人和からもたらされたものがある。これらのうち大和形の甕については、ある程度まとまって出土したことと、形態的にも、製作技術的にも他の甕と比べて特殊であることから、別に項目をもうけて記述する。

甕は口径から3形式（甕A～甕C）に分類できる。甕Aは口径16cm以下の小型のもの(27, 28, 30, 31, 33, 34, 44～46, 48, 52)、甕Bは口径17～26cmの中型のもの(29, 32, 35～43, 47, 49)、甕Cは口径27cm以上の大型のもの(51, 53～61)である。これらの甕には大きさに関わりなく、口縁部に刻み目の施されるものがある。これらの刻み目は、はっきりと深く刻まれるもの(43)もあるが、大半は細い線状の浅い刻み目(46, 58)として施されている。中には(56)のように口縁下端部にだけ、線状に浅く施される例もある。

甕Aには口縁が短く折り返された程度のもの(27, 28)、胴部から外反させて開くものの(30, 31)、屈折して開くもの(44～46)、「く」の字状に開くもの(33, 48)がある。胴部はまったく膨らまないものの(27, 28, 30)、胴中央部で最も膨らむものの(31, 48, 52)、わずかに胴中央部で膨らむだけのもの(46, 47)、胴上部で膨らむもの(44, 45)がある。底部は胴部と底部の境で絞られて、その部分で径が小さくなるものの(48)とほぼ同じ大きさで底部に至るものの(52)がある。調整は削り調整が施されたもの(30, 31)、削り調整のあと刷毛目調整が施されたもの(46)、刷毛目調整の施されたもの(45)、ヘラミガキ調整の施されたもの(48)がある。これらのうち(30, 31)は形態的にも調整技法からも紀伊産の甕と似るが、胎土の中に結晶片岩が認められなかった。

甕Bには口縁が短く折り返されたもの(29, 38)、胴部から外反させて開くものの(32, 36, 39)、屈折して開くもの(40, 42, 43)、「く」の字状に開くもの(35, 37, 41, 49)がある。胴部はまったく膨らまないものの(29)、胴中央部で最も膨らむものの(35, 36, 37, 40, 41, 43)、わずかに胴中央部で膨らむものの(42, 47)、胴上部で膨らむもの(49)がある。底部は胴部と底部の境で絞られることなく、ほぼ同じ大きさで底部に至るもの(43)、胴部から徐々に小さくなって底部に至るもの(49, 50)がある。調整は刷毛目調整の施されたもの(29)、ヘラミガキ調整の施されたもの(49)がある。

なお、甕Bのうち(49, 50)は底部に円孔があけられている。

甕Cには口縁が胴部から外反させて開くもの(53, 61)、屈折して開くもの(54, 56, 58)、「く」の字状に開くもの(51, 55, 57, 59, 60)がある。胴部は全く膨らまないものの(53)、胴中央部で最も

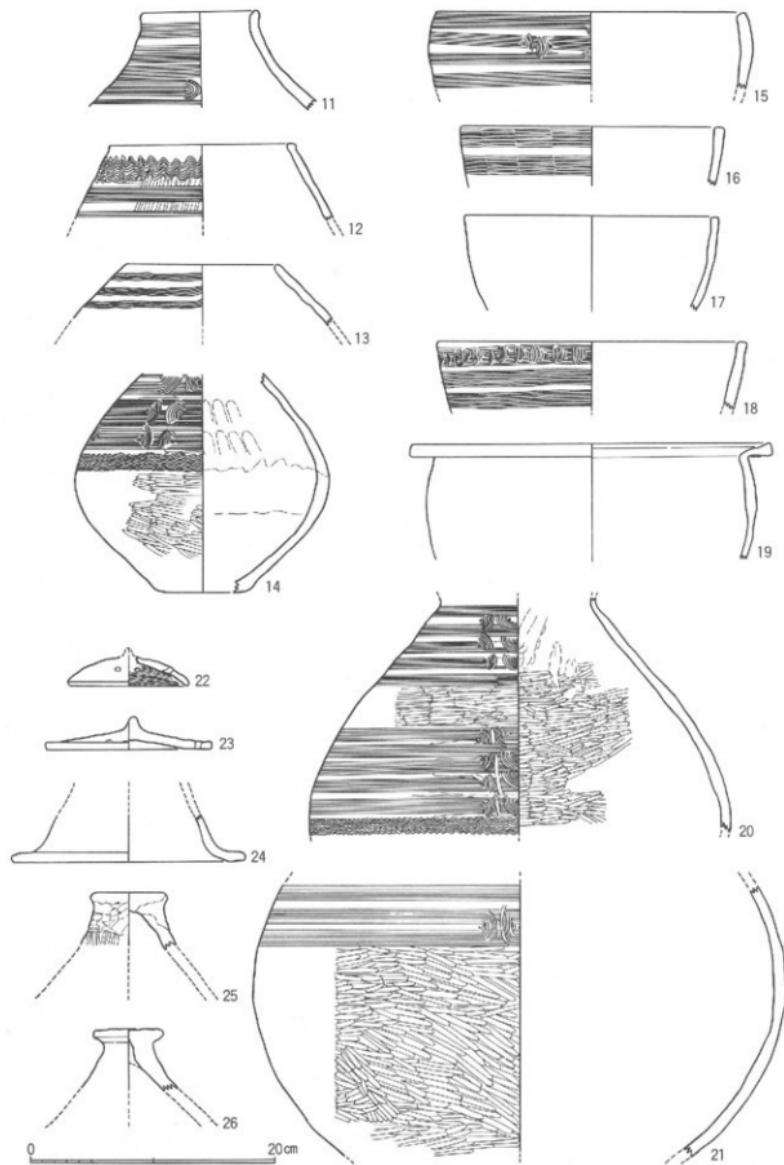


図6 弥生土器(第II様式広口壺, 無頸壺, 鉢, 壺用蓋, 壺用蓋)

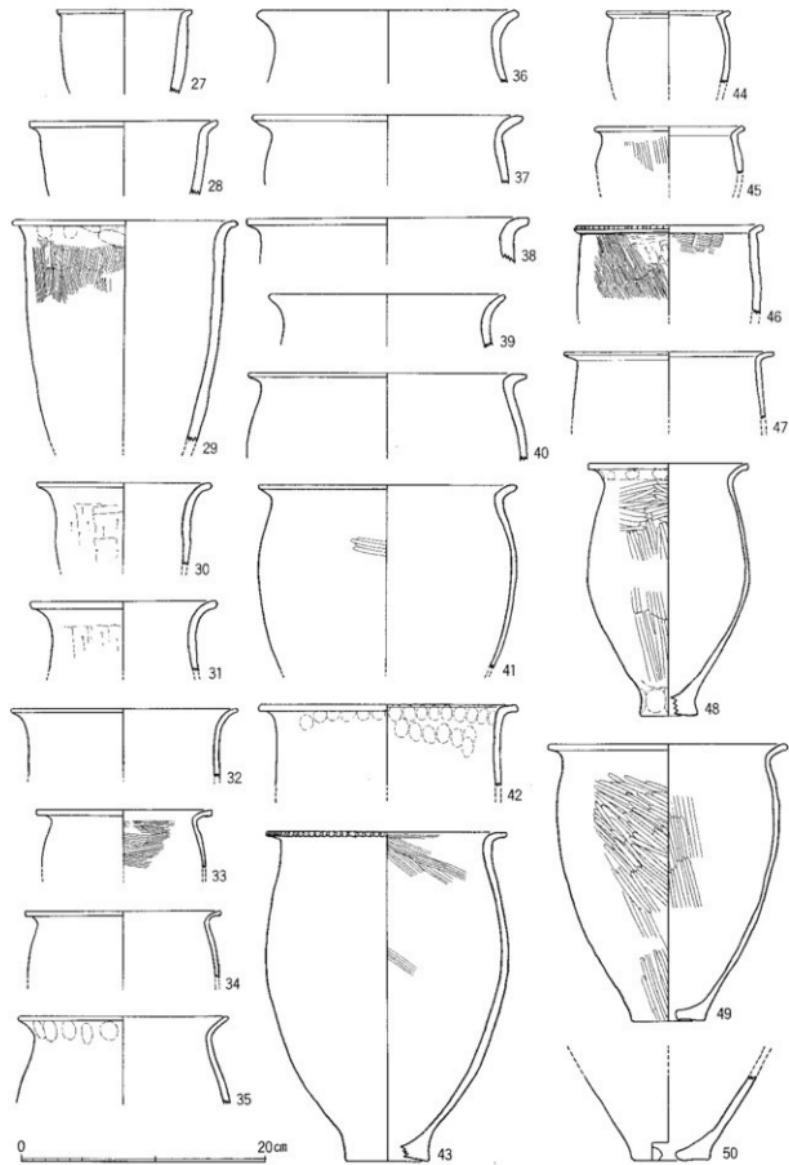


図7 弥生土器(第II様式壺)

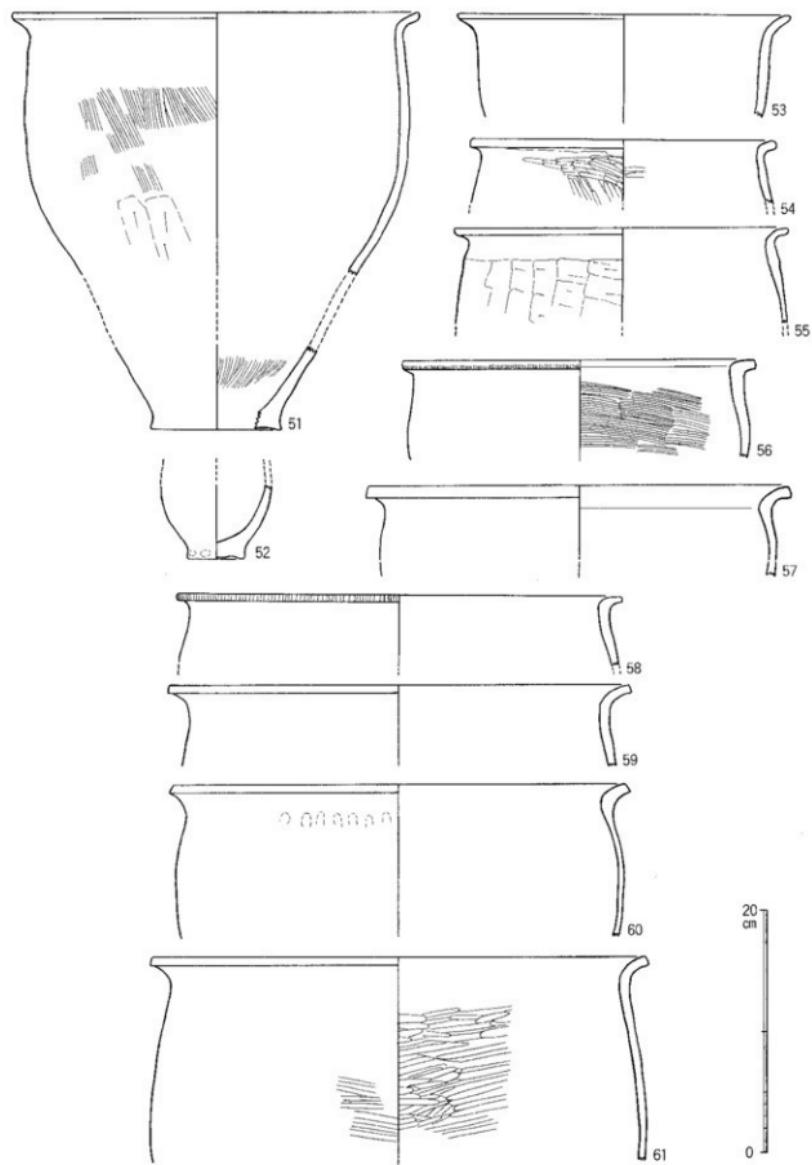


図8 弥生土器(第II様式壺)

膨らむもの(54, 55)、わずかに胴中央部で膨らむもの(51, 58~61)、胴上部で膨らむもの(56, 57)がある。底部は胴部と底部の境で絞られることなく、ほぼ同じ大きさで底部に至るが、接地面でわずかに張り出すもの(51)がある。調整は刷毛目調整と削り調整の施されたもの(51)、削り調整の施されたもの(55)、刷毛目調整の施されたもの(56)、ヘラミガキ調整の施されたもの(54, 61)がある。

大和形の壺 (図版11・図9 : 62~68)

大和形の壺は口径17~26cmの中型のもの(65, 67)と27cm以上の大型のもの(62~64, 68)の2形式に分類できるが、後者の方が多い。巻き込むような口縁部と倒鐘形の体部という形態に、外間に縦方向の粗い刷毛目、口縁部内面に横方向の粗い刷毛目で調整し、口縁部には刷毛目と同じ調整工具で刻み目を施すものを典型とする。

口縁は下端で巻き込むように垂下するもの(62~64, 68)と外湾するだけで、ほとんど巻き込まないもの(65, 67)がある。前者の胴部は口縁部の境でいったん絞り込むように径が小さくなつた後、胴中央部に向かって大きく張り出しが、後者の胴部は口縁部の境で絞り込むようなことは行わず、またそれほど張り出ことなく、胴中央に向かって除々に膨らんでいく。口縁部の刻み目は外間に大きく深く施されたもの(62)、線状に刻み目を施したもの(65)、口縁部外面の上下端にそれぞれ刻み目を施し、その間を刷毛工具で条線を施したもの(63, 68)、刷毛工具を使って、まるで櫛描列点紋で飾るかのように施したもの(64)がある。これらのうち(62, 63)は口縁部内面にも刷毛工具で櫛描列点紋のような紋様を施している。なお、(67)は外外面とも粗い刷毛目が施されているが、口縁部に刻み目が施されていない。

底部には縦方向の粗い刷毛目の施された(66)がある。それによると胴部と底部の境が区別できないように、除々に底部にむかって小さくなる、極めて薄い作りの底部であることがわかる。

第Ⅲ様式 (図版9, 11・図10~14)

広口壺、細頸壺、無頸壺、鉢、高壺、甕などが出土している。

紋様構成は相変わらず直線紋が多く用いられるが、列点紋、波状紋、扇形紋、簾状紋、縦線紋、刻み目など種類が豊富になる。ここで扱うものは『河内Ⅲ-1・2様式』のすべてにわたる。

広口壺 (図版9, 11・図10~12 : 69~112)

広口壺は口縁の形態から2形式(広口壺A、広口壺B)に分類できる。広口壺Aは大きく開く口縁部をもつ。広口壺Bは受け口状の口縁部をもつ。広口壺Aは頸部の長さからさらに2形式(広口壺A-a, 広口壺A-b)に細分できる。

広口壺A-a(69~82)は長い頸部に大きく開く口縁部をもつ。口縁端部はほとんど拡張しないものの(73)、下方にわずかに肥厚するもの(69~71, 74~76, 78)、上下に肥厚するもの(72, 77, 79, 81)、下方に拡張するもの(80, 82)がある。口縁下端部には刻み目が施されるものが多い。また、口縁部外面には波状紋、直線紋が施されるものもある。頸部は直線紋で加飾するものが多いが、無紋のものも認められる。

広口壺A-b(97~112)は短い頸部に開く口縁部をもつ。口頸部は筒状の頸部から開くもの(97, 99~104, 106~108)となだらかに外傾して開くもの(98, 105, 109~112)がある。口縁端部はほと

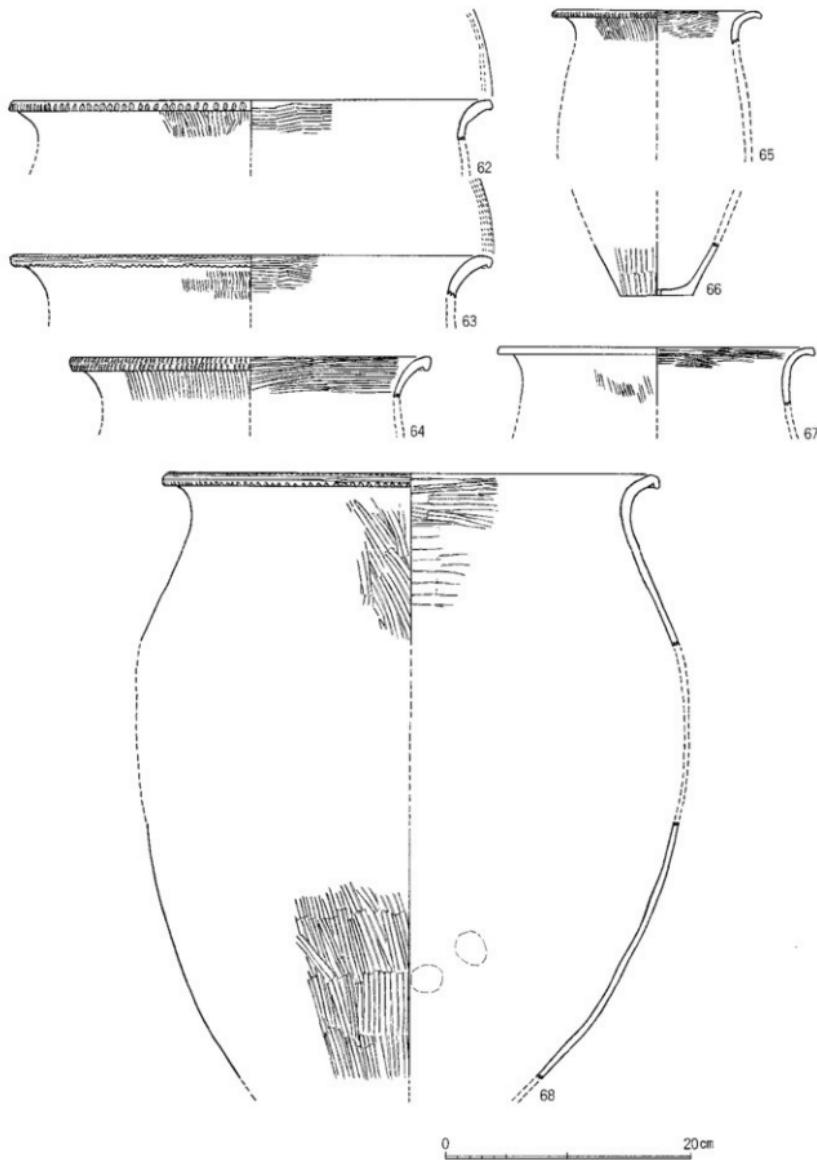


図9 弥生土器(大和型壺)

んど拡張しないもの(97, 110)、下方に拡張するもの(99~102, 106, 111, 112)、上下に肥厚するもの(98, 105, 107~109)がある。この広口壺は口径15~20cm程度の大きさのものが主流をしめるが、口径15cm以下の中型のものも認められる。また、口頸部は頭高率50%程度のものを一般的な長さとすると、25%程度の短いもの(109~111)もある(註)。紋様構成は口縁部に波状紋、簾状紋、列点紋、刻み目、頸部から体部にかけては直線紋を施すものが多い。また、無紋のものも多く認められる。なお、加飾された広口壺の中で、(107)は施紋櫛工具の実体がわかる例である。すなわち、頸部と肩部の境に施された列点紋と頸部の直線紋が同じ工具で行われているのがわかることから、これらの施紋工具を詳しく調べてみると、まず、列点紋は外径1.2mm、内径1.0mmの円孔を刺突していることから、ストロー状の工具を使用していたことが推測できる。さらに列点紋と直線紋の工具の施紋間隔が同じであることから、直線紋も小さな孔のあけられたストロー状の工具を10本束ねて描かれていたと推測できる。のことから櫛工具には板工具だけでなく、植物の茎のようなストロー状のものも候補にあげることができる。

広口壺B(83~96)は受け口状の口縁部をもつ。口頸部は筒状の頸部から開くもの(88, 90, 91, 92, 95, 96)、なだらかに外傾もしくは外反して開くもの(83~87, 89, 93, 94)がある。口縁部は上方に大きく、下方に小さく拡張するもの(83, 85, 87, 91~96)、上下ともほぼ同じぐらい拡張するもの(89)、上方に拡張するもの(84, 86, 88)がある。この広口壺には口径20cm以下の小型品(86~90)、21~30cmの中型品(83~85)、31cm以上の大型品(91~96)がある。口頸部は頭高率55%前後のものを一般的な長さとすると、30%以下の短いもの(95)もある。口縁部の成形は2種類ある。ともに広口壺A-bの口縁部に粘土を貼りたして作り出しているが、一つはほとんど拡張しない口縁端部に粘土板を貼りつけたもの(83)と、あと一つは下方に拡張した口縁端部の上面に粘土を貼りつけたもの(84, 89, 91, 93~96)が認められる。紋様構成は口縁部に簾状紋、扇形紋、波状紋、縦線紋、列点紋、刻み目、頸部から肩部にかけては直線紋が多いが、頸部と肩部の境には凸帯の貼りつけられたものも認められる。また、頸部は無紋のものもある。

広口壺Bの中に2例、口頸部に円孔の穿たれたもの(93, 94)がある。ともに広口壺Bの中でも大型品であるが、穿孔位置からみて蓋用の孔とは考えられず、また、複数あけられた状況から考えあわせて補修用の孔と考えておきたい。

(註) 頭高率とは口径に対する頸の長さの割合。(頭高+口径×100)

細頸壺

細片のため図示できなかったが、口縁部上端が内湾する細頸壺がある。

無頸壺(図12: 113~115)

口縁部の形態から2形式(無頸壺A、無頸壺B)に分類できる。無頸壺A(115)は内傾する口縁部をもつ。無頸壺B(113, 114)は外反する口縁部をもつ。ともに口縁端部は丸くおさまり、拡張するものはない。無頸壺Aは口縁部に、無頸壺Bは口縁部と肩部の境である屈曲部に2孔1対の紐孔が穿たれている。

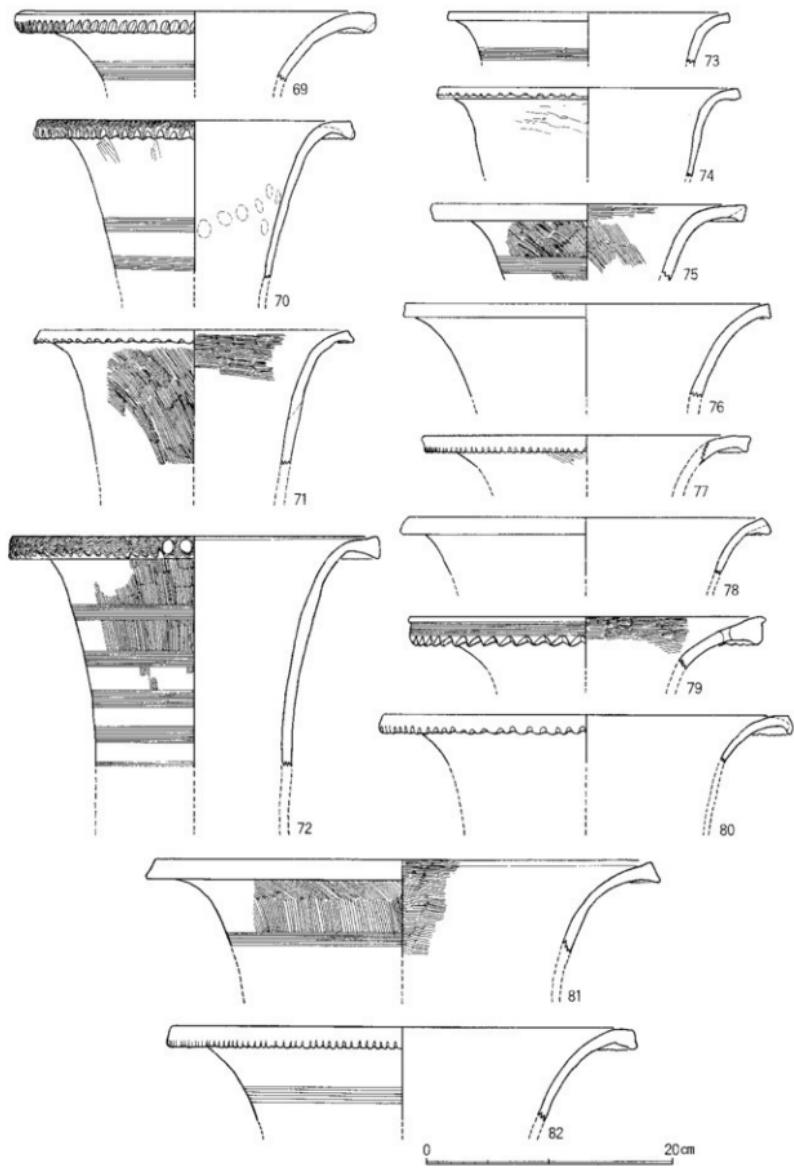


図10 弥生土器(第III様式広口壺)

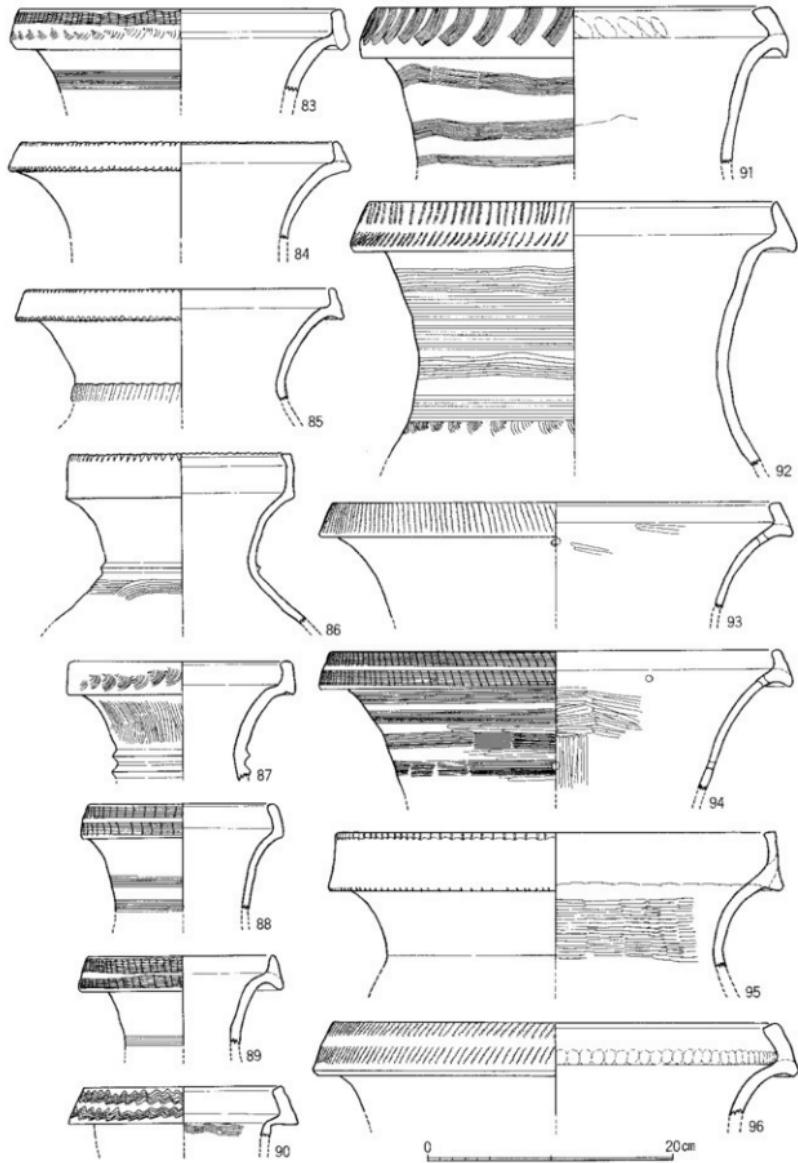


图11 弥生土器(第Ⅲ様式広口壺)

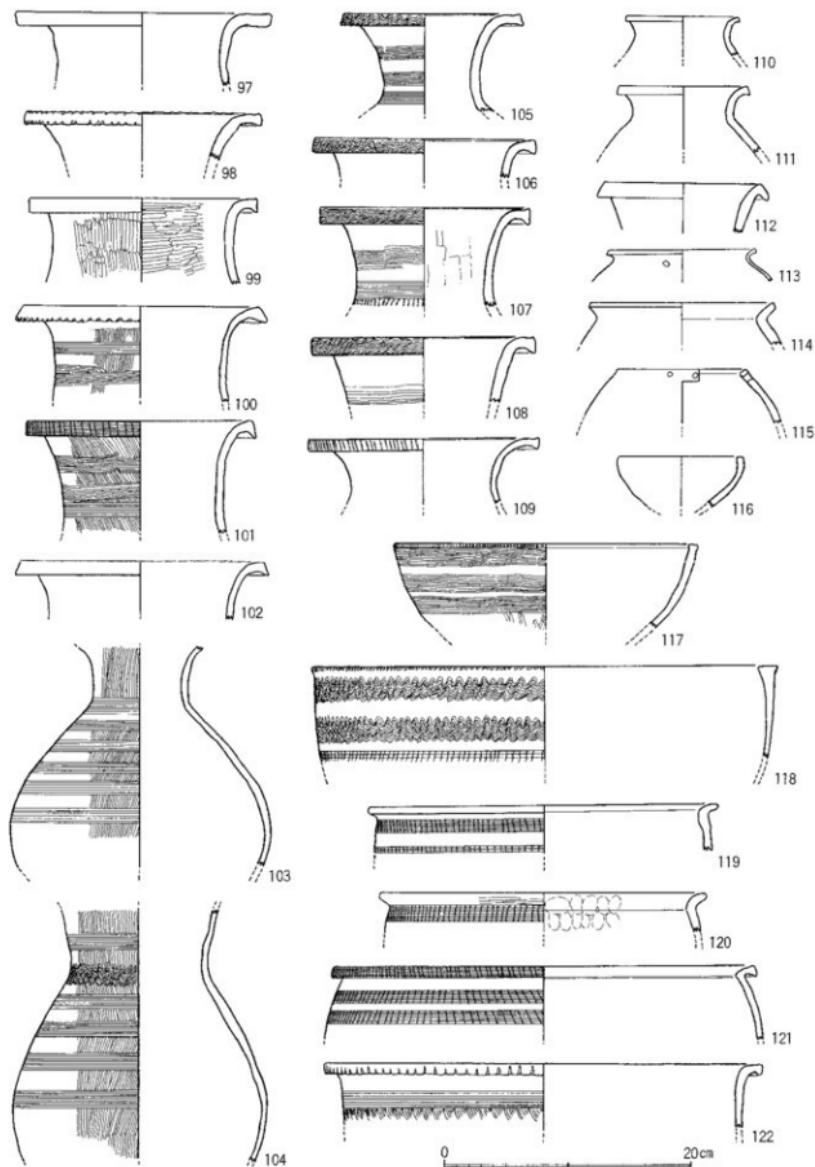


図12 弥生土器(第III様式広口壺、無頸壺、鉢)

鉢（図版11・図12：116～122）

口縁の形態から2形式（鉢A、鉢B）に分類できる。鉢A（116～118）はほぼ直立する口縁部をもつ。口縁端部は上端が平坦な面をもつが、内外に拡張しないもの（116）、わずかに肥厚するもの（117）、拡張するもの（118）がある。全体の形状は半球形を呈すが大きさはいろいろある。鉢B（119～122）は外反する口縁部をもつ。口縁端部は丸くおさまるもの（119、120）、下方にわずかに拡張するもの（121、122）がある。体部は全体に膨らみをもちながら、下半部で最大径をもつような形態が主流をしめる。（122）は体部に膨らみをもたない。大きさは口径25～30cm程度ものが多い。

紋様構成は鉢Aでは口縁部に刻み目、体部に直線紋、波状紋の施される例が多い。鉢Bでは簾状紋の使用頻度が多くなっている。

高坏（図13：123～135）

口縁の形態から2形式（高坏A、高坏B）に分類できる。高坏Aは図示できなかったが、ほぼ直立する口縁部に浅い椀状の体部をもつ。高坏B（123～125）は水平にのびた後、垂下する口縁をもつ。垂下の度合いはいろいろあるが、（123）のようにわずかに垂下するもの、（124）のように大きく垂下するもののほか、図示できなかったがほとんど垂下せず、下方に拡張するという表現の方がふさわしいものも認められる。

脚部は脚柱部の形態から3形式（脚部a～脚部c）に分類できる。脚部a（127、129、131）は柱実のもの、脚部b（128、130）は半柱実のもの、脚部c（126）は中空のものである。裾部は脚柱部からなだらかに開くものが多いが、屈折して開くもの（129）もある。裾端部は拡張することなく、丸くおさまるか、わずかに上方に肥厚する程度である。調整は外面に縦方向のヘラミガキが施されるものが多い。なお、（126）の坏底部は円盤充填法で形成された可能性が高い。

高坏の大きさは裾部径10～15cm程度のものが多いが、（133）のように10cm以下の小型品もある。（134）は高坏の中に分類したが、裾部の形態が特殊であることからみて、他の器種として認定し

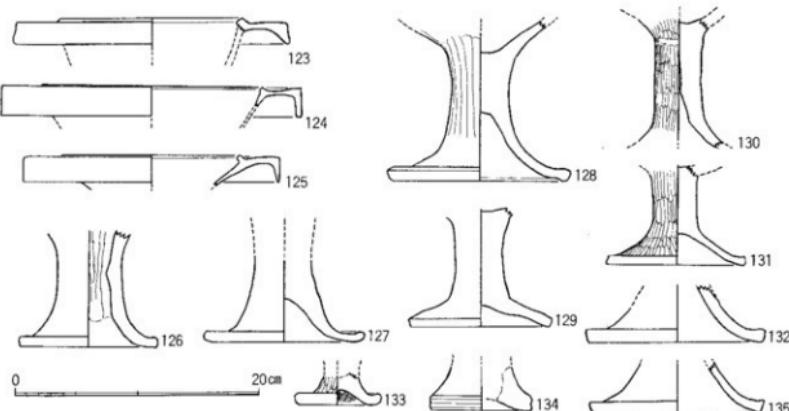


図13 弥生土器(第Ⅲ様式高坏)

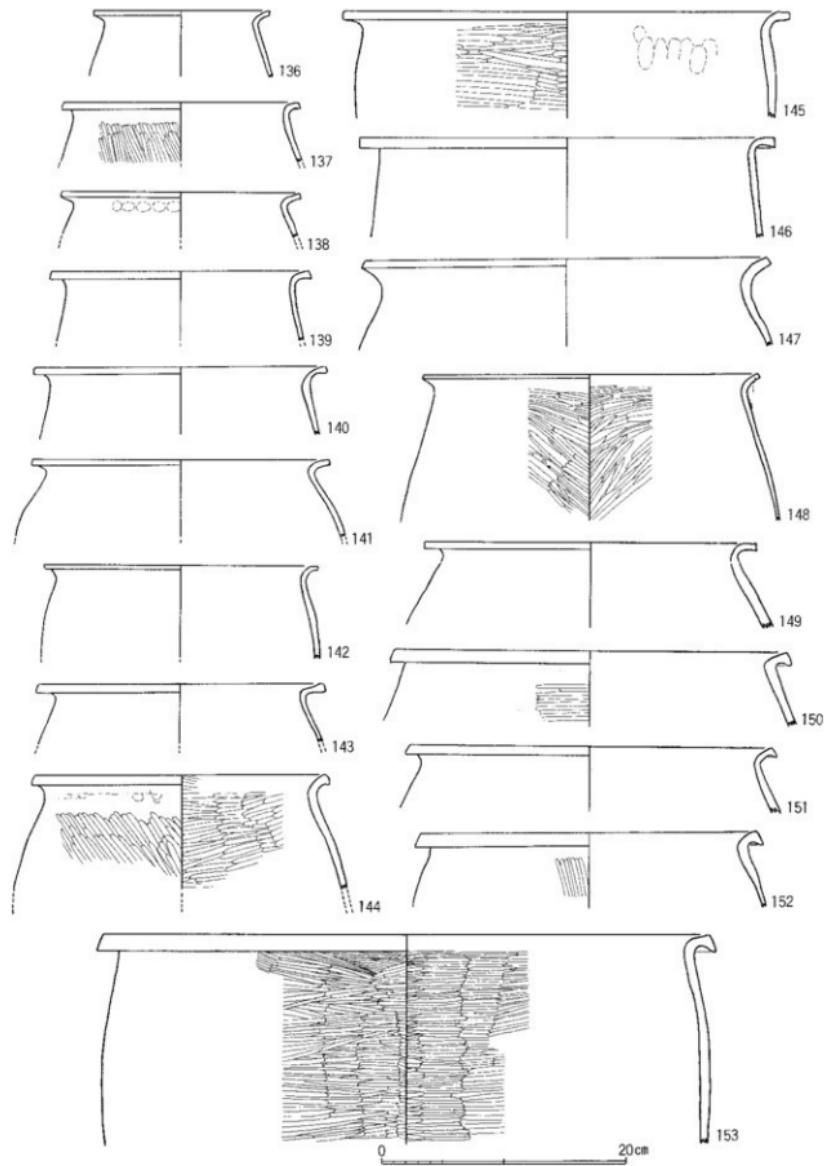


図14 弥生土器(第III様式甕)

た方がいいかもしれないが、特定できないことから便宜的にここに入れた。

甕 (図14 : 136~153)

甕には生駒西麓産の胎土で作られたものを除いて、搬入品として区別できるものはない。

甕は口径から3形式(甕A~甕C)に分類できる。甕Aは口径16cm以下の小型のもの(136)、甕Bは口径17~26cmの中型のもの((137~144)、甕Cは口径27cm以上の大型のもの(145~153)である。

甕Aの口縁は「く」の字状に開く。全体の形状は倒鐘形を呈す。

甕Bの口縁は「く」の字状に開くもの(137~141, 144)が最も多いが、屈折して大きく開くもの(143)もある。口縁端部はほとんど拡張しないもの(138, 141, 142)、下方にわずかに肥厚するもの(137, 139, 140, 144)、上下にわずかに肥厚するもの(143)がある。全体の形状は倒鐘形を呈すものが多いが、(141, 144)のように胴部中央で大きく膨らむものも認められる。

甕Cには口縁が「く」の字状に開くもの(148, 151)、胴部から外反させて開くもの(145, 147)、屈折して開くもの(146, 149)、短く上方へ折り返される程度のもの(150, 152, 153)がある。大半の口縁端部は拡張することなく、平坦面を呈しておさまるが、わずかに下方に肥厚するもの(146)や下外方に拡張するもの(150~153)もある。全体に大型品ほど口縁が短く上方に折り返されて、下外方に拡張するという傾向がある。

甕の調整は大きさに関係なく、ヘラミガキ調査の施されたものが多い。

第IV様式 (図版9・図15, 16)

広口壺、大型細頸壺、無頸壺、水差し、鉢、高杯、甕などが出土している。この時期には原体幅が広く、施紋間隔の狭い簾状紋と、凹線紋の使用をメルクマールとしてあげることができる。ただこの時期に認められるはずの器台の出土は確認できなかった。しかし、他の要素も合わせ考えるに『河内IV-1~4様式』のすべての時期のものが存在するといえる。

なお、搬入品には生駒西麓産以外に瀬戸内地方からのものも加わる。

広口壺 (図版9・図15 : 154~167)

口頸部の形態は基本的には第III様式と大きな変化はないが、第III様式で多く出土した長頸の広口壺は減少する。第III様式の広口壺と同じように口縁の形態から2形式(広口壺A, 広口壺B)に分類でき、さらに広口壺Aについては頸部の長さから(広口壺A-a, 広口壺A-b)の2形式に細分できる。

長い頸部をもつ広口壺A-a(154)は第III様式と比べて出土量が大幅に減少している。口頸部はなだらかに外反して開くが、口縁端部は下外方に拡張する。口縁部外面は簾状紋と刻み目が施されている。

広口壺A-b(155~163)は筒状の頸部をもつもの(156, 160, 162)もあるが、なだらかに外反して大きく開くもの(155, 157~159, 161, 163)が主流になる。口縁端部は下外方に拡張するもの(155~157, 161, 163)、上下に同じ程度、拡張するもの(158, 160, 162)、上方に小さく、下方に大きく拡張するもの(159)がある。この広口壺は口径16~25cmのものが主流をしめるが、口径15cm以下の小型品(160~163)も認められる。紋様は簾状紋の使用頻度が高くなるほか、円形浮紋、凹線

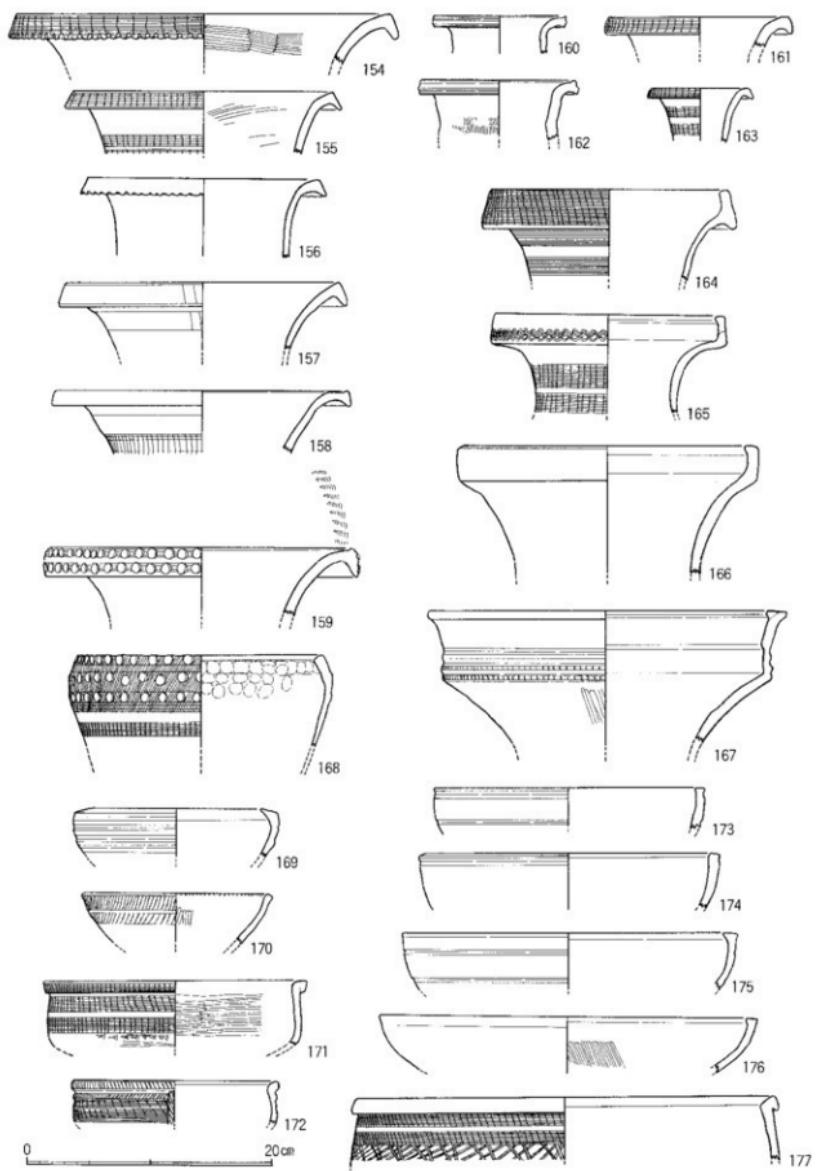


図15 弥生土器(第IV様式広口壺, 大型細頸壺, 鉢)

紋、直線紋、刻み目が施されている。

広口壺B(164～167)は筒状の頸部をもつもの(165)もあるが、なだらかに外反して開く頸部をもつもの(164, 166, 167)が主流になる。口縁部は上方に大きく、下方に小さく拡張するもの(164)と頸部から上方に立ち上がるもの(165～167)がある。この広口壺は口径20cm以下の小型品(164, 165)と口径21～30cmの中型品(166, 167)がある。紋様は簾状紋、波状紋、直線紋、凹線紋、刻み目が施されている。

大型細頸壺(図15:168)

大型細頸壺(168)は内傾する口縁部をもつ。口頸部外面には列点紋、円形浮紋、簾状紋が飾られている。

無頸壺

細片のため図示できなかったが、口縁部が段状に肥厚して面をもつものがある。

水差し

把手の破片が出土している。

鉢(図15, 16:169, 170～172, 177, 181, 182)

鉢は脚台部のつくものとつかないものがある。

鉢は口縁部が内湾するもの(169)、外傾するもの(170)、段状に肥厚して面をもつもの(171, 172, 177)がある。このうち(170)のような外傾する形態のものには把手のつくものもある。また、段状の口縁部のものは脚台部のつくものも認められる。紋様は列点紋、簾状紋、扇形紋、斜格子紋、凹線紋、棒状浮紋などが施されている。なお、口縁部が内傾し、凹線紋で飾られる(169)は形態からみて、瀬戸内地方からの搬入品と思われる。このタイプの鉢は(169)が出上しただけである。

脚台部は太い脚柱部から裾部にむかってなだらか外反しながら開くもの(181)、外傾して開くもの(182)がある。前者の裾端部は上外方に拡張し、外面は刺突紋が施されている。後者は外面に凹線紋が施され、円孔が穿たれている。

高坏(図15, 16:173～176, 178～180)

高坏は直立する口縁部をもつ。口縁端部は拡張しないもの(173, 174)と内外にわずかに肥厚するもの(175, 176)がある。紋様は凹線紋の施されるものが多いが、無紋のものもある。

脚部は中空の脚柱部に大きく外反して開く裾部をもつ。裾端部は上方に拡張するものが多いが、上下に拡張して、比較的広い面をもつものもある。後者は裾部に三角形の刺突紋が施されている。この三角形の刺突紋の施紋は1例認められるだけで、瀬戸内地方から搬入された可能性が高い。

壺(図16:183～193)

壺は口径から2形式(壺B, 壺C)に分類できる。壺Bは口径17～26cmの中型のもの(183, 184)、壺Cは口径27cm以上の大型のもの(185～193)である。

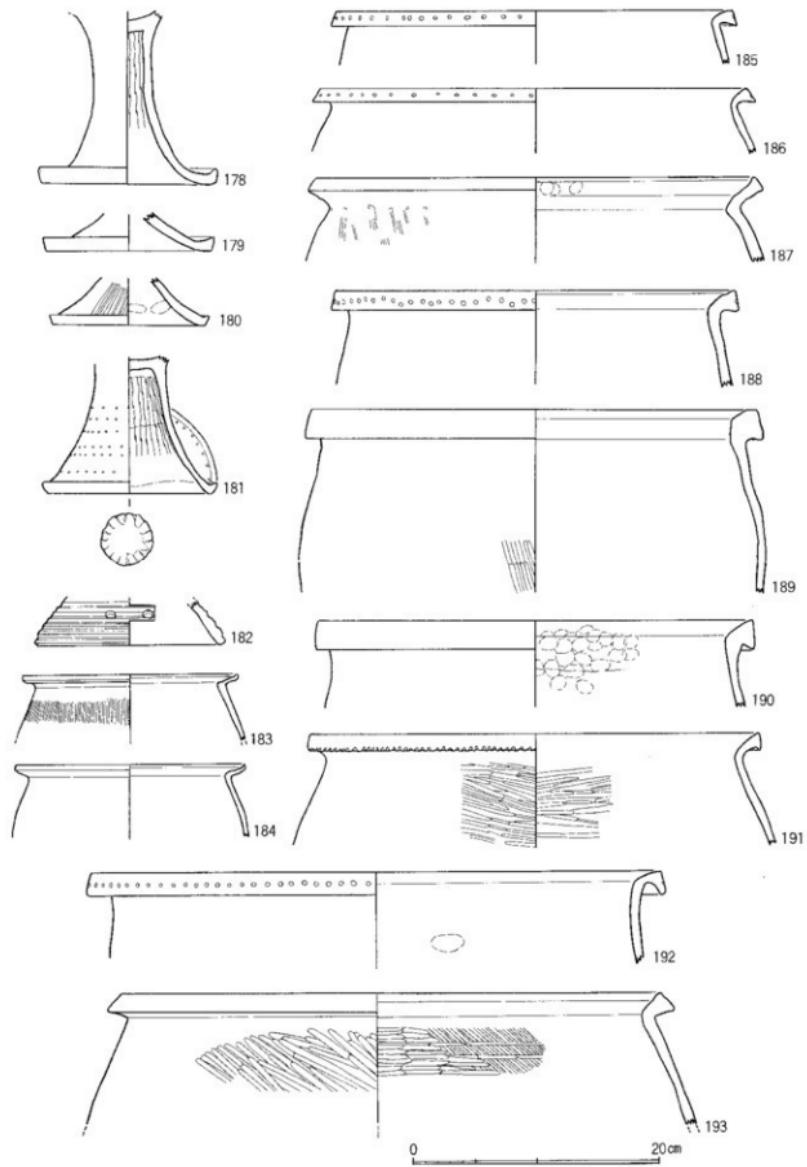


図16 弥生土器(第IV様式高坏、台部、壺)

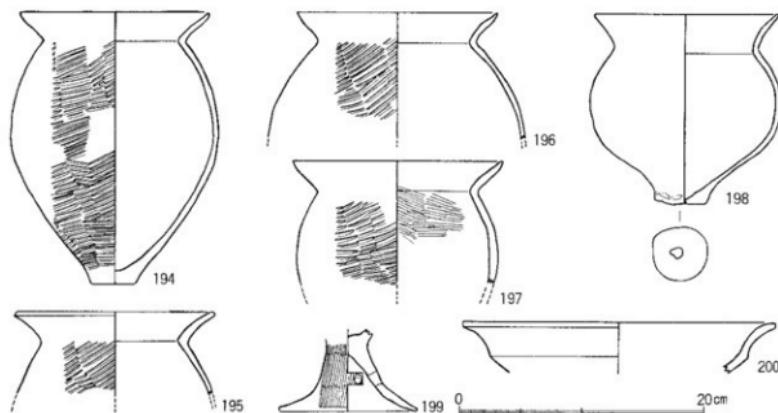


図17 弥生土器(第VI様式壺、高坏)

壺Bは「く」の字状に開いたのち、上方にわずかにつまみ上げる口縁部をもつ。胴部は中央部で膨らむ。調整は刷毛目調整が施されている。

壺Cは「く」の字状に開いたあと、下方に肥厚するもの(185, 186)、上下にわずかに肥厚するもの(187, 188)のほか、折り返すように外折したあと、下方へ拡張して幅広い面をもつもの(189~192)、外折したあと、そのまま広い面をつくりだすもの(193)がある。このタイプのものは口縁部の幅広い面に刺突紋を施すものが多い。調整はヘラミガキ調整が施されるものが多いが、刷毛目調整も認められる。

第VI様式（図版10・図17）

高坏、壺が出土している。出土量は少ない。壺など他の器種の出土状況は明確にできなかった。なお、所属時期は第VI様式でも後半の『河内VI-2様式』である。

高坏（図17：199, 200）

高坏は浅い坏部に外反して聞く口縁部をもつ。脚部は中空の脚柱部から屈折して聞く裾部をもつ。脚柱部に円孔が穿たれている。調整はヘラミガキ調整が施されている。

壺（図版10・図17：194~198）

壺は胴部中央に最大径をもつものが多い。口縁端部は丸くおさまるものが多いが、端部が平坦な面をもつものもある。口径は15cm前後の大きさのものが多い。さらに(196, 198)のように球形化のすんだものもある。調整は外面はタタキ調整が施されている。底部に円孔の穿たれたもの(198)も認められる。

探査番号	回復番号	番号	出土土	層位	基種	口径(cm)	蓋高(cm)	輪部径(cm)	技法(内面)	技法(外面)	絞様	色調	沙礫割合	備考
5	11	1	溝2	第2層	広口盃	14.0	(3.9)		唇底のため調整不明	唇底のため調整不明	沈線1条	褐色	5%	
5	2	2	溝2	第2層	広口盃	14.5	(8.5)		口縁部横なび、頭部:横方向のへらミガキ	口縁部横なび、頭部:横方向のへらミガキ	頭部:直線紋3条(原体10本/1.4cm)	明赤褐色	10%	生駒西難産
5	3	3	溝2	第2層	広口盃	14.1	(8.4)		唇底のため調整不明	唇底のため調整不明	頭部:直線紋3条(原体13本/1.4cm)	褐色	10%	生駒西難産
5	11	4	土壤2		広口盃	18.9	(7.8)		口縁部横なび、頭部:横なび	口縁部横なび、頭部:横なび	口縁部横なび、頭部:横なび	に赤い 黄褐色	20%	スヌ付有
5	9	5	土壤3 溝2		広口盃	22.6	39.2		口縁部横なび、頭部:横なび、頭部:横方向へらミガキ 脣部:斜めへらミガキ、脣部:斜めへらミガキ	口縁部横なび、頭部:横なび、脣部:斜めへらミガキ	頭部:直線紋7条(原体8本/1.3cm)	褐色	20%	黒斑
5	6	6	土壤2 溝2		広口盃	16.1	(18.7)		口縁部横なび、頭部:横なび、頭部:横方向へらミガキ	口縁部横なび、頭部:横なび、頭部:横方向へらミガキ	頭部:直線紋7条(原体8本/1.3cm)	明赤褐色	5%	
5	7	7	土壤5		広口盃	19.7	(17.1)		唇底、側面のため調整不明	唇底、側面のため調整不明	頭部:直線紋7条(原体10本/1.4cm)	に赤い 褐色	5%	生駒西難産
5	9	8	土壤2		広口盃		(18.6)		体部:横なび、指紋圧痕、底部:指紋圧痕、	体部:横方向のへらミガキ、底部:指紋圧痕、	体部:直線紋2条(原体8本/1.3cm)	褐色	10%	黒斑
5	8	9	上溝2 溝2	第1層	広口盃		(21.8)		唇底、側面のため調整不明	唇底、側面のため調整不明	頭部:直線紋5条(原体11本/1.3cm)	褐色	10%	黒斑
5	10	10	土壤2				(14.2)		底部:へらミガキ	唇底のため調整手引 へら引りの後		浅黄褐色	25%	黒斑
6	11	11	土壤2		無縁盃	9.4	(7.7)		唇底、側面のため調整不明	唇底、側面のため調整不明	頭部:直線紋4条(原体11本/1.1cm)、直線紋と扇形紋を組合せた螺旋流水紋1条	赤褐色	20%	
6	12	12	溝2	第2層	無縁盃	15.0	(6.3)		側面、唇底のため調整不明	側面:横なび、横方向の崩毛目	頭部:直線紋3条(原体10本/1.0cm)	褐色	10%	
6	13	13	土壤2		無縁盃	12.1	(5.6)		側面のため調整不明	側面:横なび	頭部:直線紋3条(原体10本/0.9cm)	に赤い 褐色	5%	
6	9	14	第4層		広口盃		(17.8)		体部:横なび、指紋圧痕	体部:横方向のへらミガキ	頭部:直線紋と扇形紋を組合せた螺旋流水紋1条(原体11本/1.3cm)	褐色	20%	生駒西難産
6	15	15	第1層	鉢		25.0	(6.3)		口縁部から体部:横なび、指紋圧痕	口縁部から体部:横なび	口縁部から体部:横なび	褐色	10%	生駒西難産
6	16	16	溝2	第2層	鉢	21.3	(4.8)		唇底、側面のため調整不明	唇底、側面のため調整不明	頭部:直線紋4条(原体10本/1.3cm)	明赤褐色	10%	生駒西難産、黒斑
6	17	17	溝2	第2層	鉢	20.5	(7.8)		唇底のため調整不明	口縁部から体部:横なび		に赤い 褐色	20%	
6	18	18	土壤2		鉢	24.8	(5.7)		口縁部から体部:横なび、指紋圧痕	口縁部から体部:横なび	口縁部:直線紋の後、扇形紋付加1条、底部:直線紋2条(11本/1.3cm)	に赤い 褐色	5%	生駒西難産
6	19	19	溝2	第2層	鉢	28.9	(9.8)		唇底、側面のため調整不明	唇底、側面のため調整不明	頭部:直線紋と扇形紋を組合せた螺旋流水紋1条(原体8本/1.2cm)	明赤褐色	10%	
6	20	20	溝2 土壤2	第2層	広口盃		(19.3)		体部:横方向のへらミガキ	体部:横方向のへらミガキ	頭部:直線紋と扇形紋を組合せた螺旋流水紋1条(原体10本/1.1cm)	褐色	5%	生駒西難産
6	21	21	土壤2 溝2	第1層	壺		(21.2)		唇底、側面のため調整不明	体部:横方向のへらミガキ	体部:直線紋と扇形紋を組合せた螺旋流水紋2条(原体8本/1.2cm)	浅黄褐色	10%	黒斑
6	9	22	第3層	壺蓋		9.6	(2.4)		前方向の崩毛目	唇底、側面のため調整不明		褐色	20%	内孔:2孔1列

表6 土器観察表(1)

標印番号	図版番号	番号	出土地点	層位	器種	D(径) (cm)	H(高) (cm)	幅部(横) (cm)	枝法(内面)	枝法(外面)	紋様	色調	沙埋 割合	備考
6	9	23		第5層	盞蓋	13.3	2.7		唇減、削減のため調整不 明	唇減、削減のため調整不 明		褐色	10%	円孔2孔1列
6		24		第3層	盞蓋	18.9	(3.9)		削減、磨減のため調整不 明	削減、磨減のため調整不 明		に赤い 褐色	20%	炭化物付着
6		25	虎2	第1層	盞蓋		(4.3)		磨減のため調整不 明	天井部:なで、縦方向 のヘラ ¹ カキ		褐色	10%	
6		26	虎2	第1層	盞蓋		(5.0)		天井部:なで	天井部:なで		浅黄褐色	5%	黒斑
7		27	虎2	第2層	盞A	10.9	(7.0)		削減、磨減のため調整不 明	削減、磨減のため調整不 明		赤褐色	10%	
7		28	虎2	第2層	盞A	13.2	(6.0)		磨減のため調整不 明	磨減のため調整不 明		に赤い 褐色	10%	
7	10	29	土壤1, 土壤2	盞B		17.2	(18.0)		磨減、削減のため調整不 明	口縁部:指印圧痕, 体部: 縦方向の刷毛目		に赤い 褐色	20%	
7		30	虎6		盞A	14.1	(6.8)		口縁部:横なで, 体部: なで	口縁部:横なで, 体部: なで, 縦方向のヘラ ¹ カキ		に赤い 黃褐色	10%	
7		31		第5層	盞A	14.9	(5.7)		口縁部:横なで, 体部: なで	口縁部:横なで, 体部: 縦方向のヘラ削り		に赤い 褐色	10%	黒斑
7		32	虎2	第2層	盞B	18.4	(5.7)		唇減, 削減のため調整不 明	唇減, 削減のため調整不 明		淡褐色	25%	
7		33	虎2	第2層	盞A	14.2	(4.8)		口縁部:磨減のため調整不 明, 体部:横方 向の刷毛目	磨減のため調整不 明		淡褐色	5%	
7		34	虎2	第2層	盞A	15.8	(5.5)		口縁部:横なで, 体部: 削減のため調整不 明	口縁部:横なで, 体部: 削減のため調整不 明		暗赤灰色	10%	炭化物付着
7		35	土壤3	第1層	盞B	17.0	(7.3)		口縁部から背部: なで	削減, 磨減のため調整不 明, 刷毛目		浅黄褐色	10%	
7		36	虎2	第1層	盞B	20.7	(6.0)		磨減のため調整不 明	磨減のため調整不 明		に赤い 褐色	10%	
7		37	虎2	第2層	盞B	21.8	(5.3)		磨減, 削減のため調整不 明	磨減, 削減のため調整不 明		褐色	20%	
7		38	虎2	第2層	盞B	22.7	(3.7)		磨減のため調整不 明	口縁下端部:なで		に赤い 褐色	30%	
7		39	土壤2		盞B	18.9	(4.4)		口縁部:横なで, 体部: なで	口縁部:横なで, 体部: なで		褐色	5%	生駒西壁産
7		40	虎2	第3層	盞B	22.5	(7.0)		磨減のため調整不 明	磨減のため調整不 明	口縁部:刷毛目	浅黄褐色	5%	
7		41	虎1		盞B	21.0	(15.2)		磨減のため調整不 明	体部:縦方向のヘラ ¹ カキ		赤褐色	10%	
7		42	土壤2		盞B	20.6	(6.6)		口縁部:横なで, 体部: なで, 指印圧痕	口縁部:横なで, 体部: なで, 指印圧痕		暗赤褐色	10%	生駒西壁産
7	10	43		第5層	盞B	19.0	27.0		口縁上端部から体部: 縦方向の刷毛目	磨減, 削減のため調整不 明	口縁部:刷毛目	褐色	30%	炭化物付着
7		44	虎2	第1層 第2層	盞A	9.9	(6.0)		口縁部:横なで, 体部: 磨減のため調整不 明	口縁部:横なで, 体部: 磨減のため調整不 明		褐色	10%	生駒西壁産
7		45	虎2	第3層	盞A	12.0	(3.6)		磨減, 削減のため調整不 明	口縁下端部:横なで, 体部:縦方向の刷毛目		浅黄褐色	5%	炭化物付着
7		46	土壤2		盞A	15.0	(7.4)		口縁上部:横なで, 体部: 縦方向の刷毛目, なで		口縁端部:刷毛目	に赤い 黃褐色	20%	
7		47	虎1		盞B	17.0	(5.4)		削減, 磨減のため調整不 明			暗赤褐色	5%	生駒西壁産
7	10	48	虎2	第2層	盞A	12.6	21.0		磨減, 削減のため調整不 明	口縁部:横なで, 指印 圧痕, 体部:ヘラ削り の後上半横方向のヘラ ¹ カキ, 下半横方 向のヘラ ¹ カキ, 眼 窓削痕压痕		暗赤褐色	10%	炭化物付着

表6 土器観察表(2)

井名 番号	國名 番号	番号	山土 地名	層位	岩種	11徑 (cm)	高さ (cm)	船形深 (cm)	技法(内面)	技法(外面)	級様	色調	砂利 割合	備考
7	10	49	上塙1		變B	19.0	22.9		口縁部: 塗なで、体部: 体方向(左上り)の ヘラ(ガキ)、底部: なで しガキ、底部: なで	口縁部: 塗なで、体部: 体方向(左上り)の ヘラ(ガキ)、底部: なで しガキ、底部: なで	明赤褐色	5%	底面中央に円孔1 (直径0.9cm)、黒泥 炭化物付着	
7		50	清1		底部		(7.0)		底部: なで	底部: なで	浅黃褐色	5%	底面中央に円孔1 (直径1.1cm)、黒泥	
8		51		第5層	變C		(6.7)		底部: 縦方向のヘラ 削り	底部: 縦方向のヘラ 削り	に赤い 褐色	5%		
8		52	清2	第2層	變A		(6.1)		底部: なで	底部: 塗減のため調 整不規、底面: 指捺痕 底部: なで	浅黃褐色	20%		
8		53		第5層	變C	26.6	(8.5)		口縁部: 塗なで、体部: 横方向と縦方向のな で	口縁部: 塗なで、体部: なで	灰白色	5%		
8		54		第4層	變C	24.1	(5.3)		口縁部: 塗なで、体部: 横方向のヘラ(ガキ)	口縁部: 塗なで、体部: 横方向のヘラ(ガキ)	暗赤褐色	5%	生糞西蟹座、次化 物付着	
8		55	清2	第1層	變C	26.8	(7.8)		口縁部: 塗なで、体部: なで	口縁部: 塗なで、体部: 横方向のヘラ(ガキ)	浅黃褐色	30%		
8		56	清2	第1層	變C	28.1	(8.1)		口縁部: 塗減のため 調整不規、(体部)新方 向の削毛目	口縁部: 塗なで、その他の 底部: 塗減のため調 整不規	口縫底部: 刻み目	に赤い 黃褐色	5%	
8		57	清2	第2層	變C	33.6	(7.5)		口縁部: 塗なで、体部: 体部: なで	口縁部: 塗なで、体部: 横方向のヘラ(ガキ)	明赤褐色	20%		
8		58	清2	第1層	變C	35.6	(5.8)		口縁部: 塗減のため 調整不規、(体部)新方 向の削毛目	口縁部: 塗なで、体部: 横方向のヘラ(ガキ)	に赤い 黃褐色	5%		
8		59	清2	第1層	變C	37.3	(6.7)		塗減、剥離のため調 整不規	塗減、剥離のため調 整不規	褐色	10%		
8		60	清2	第2層	變C	36.4	(12.7)		口縁部: 塗なで、そ の後に調整不規	口縁部: 塗なで、(体 部)調整工具の止め跡 か?	褐色	20%		
8		61	土塙2		變C	40.2	(16.9)		口縁部: 塗なで、脣部 から体部: 横方向の ヘラ(ガキ)	体部: 横方向のヘ ラ(ガキ)、その他のは 塗減のため調整不規	明赤褐色	20%	生糞西蟹座	
9	11	62	清2	第1層	變	38.7	(3.2)		口縁部: 橫方向の削 毛目	口縫下端部、横方向 の削毛目	口縫下端部、横方向 の削毛目	暗赤褐色	10%	大和型
9	11	63	土塙3		變	39.0	(3.5)		口縁部: 橫方向の削 毛目	口縫部、横方向の削 毛目	口縫下端部、口縫下 端部: 削毛目	に赤い 褐色	5%	大和型
9	11	64	清2	第2層	變	28.0	(3.4)		口縁部: 橫方向の削 毛目	口縫部: 橫方向の削 毛目	口縫部: 削毛目	黃褐色	15%	大和型
9	11	65		第5層	變	15.0	(2.7)		口縁部: 橫方向の削 毛目	口縫部: 橫方向の削 毛目	口縫部: 削毛目	浅黃褐色	5%	大和型
9		66		第4層			(4.4)		磨減のため調整不規	底部: 削毛目、底面: 塗 減のため調整不規	に赤い 褐色	10%	人和型の靴足か? 底面中央に円孔1 (直径0.6cm)	
9		67	土塙2		變	25.3	(4.8)		口縁部: 橫方向の削 毛目、(底面)底部: 塗 減のため削毛目	口縫部: 塗減のため 調整不規、(底面)底 部: 塗減のため削毛目	底部: 削毛目	灰白色	10%	人和型
9	11	68	清2 土塙2	第1層	變	38.9			口縫部: 橫方向の削 毛目、(底面)底部: 塗 減のため削毛目	頭部から体部: 橫方 向の削毛目	口縫底部: 直線状紋(底 体3本/0.4cm) 口縫上: 下端部: 削毛 目	に赤い 褐色	20%	人和型
10		69	清1		広口壺 A-a	28.8	(5.7)		磨減のため調整不規	磨減のため調整不規	口縫底部: 利々口、強 度直線紋1条(底体1 本/1.5cm)	明赤褐色	10%	生糞西蟹座
10		70	清2	第1層	広口壺 A-a	24.9	(12.9)		口縫部: なで、(底 部)底面から脣部: な で、指捺汗痕	頭部: 橫方向のヘラ (ガキ)	口縫底部: 削毛目、底 部: 強度直線紋1条(底 体1本)	に赤い 褐色	5%	牛糞西蟹座
10		71	清2	第1層	広口壺 A-a	24.9	(11.0)		口縫部: 塗なで、(底 部)底面から脣部: な で、指捺汗痕	口縫部: 塗なで、(底 部)底面から脣部: な で、指捺汗痕	口縫底部: 削毛目	に赤い 褐色	5%	
10		72	清2	第1層 第4層	広口壺 A-a	29.2	(19.0)		口縫部: 塗なで、(底 部)底面から脣部: な で	口縫部: 塗なで、(底 部)底面から脣部: な で	口縫底部: 弧状紋(底 体3本)の上に円形 浮出	に赤い 褐色	5%	黑漆

表6 土器観察表(3)

標名 番号	版番 番号	番号	出土 地點	層位	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	施部徑 (cm)	技法(内面)	技法(外面)	紋様	色調	砂糖 割合	備考	
10	73	溝2	第2層	広口壺 A-a	22.5	(4.1)			磨滅のため調整不規 則部:なで	口縁下端部:横なで 頭部:直線紋1条(原 体3本/1.0cm)	灰青褐色	5%			
10	74	溝2	第3層	広口壺 A-a	23.9	(7.3)			磨滅のため調整不規 則部:なで	口縁端部:刺み目	に赤い 橙色	10%	粘土質の種 類が外面全体に ある		
10	75		第5層	広口壺 A-a	24.9	(6.2)			口縁上部:横なで、 口縁部:斜方線の削 毛目、施部:斜方線の 削毛目	口縁部:横なで、頭部: 斜方線、斜方線の削 毛目	頭部:直線紋1条(原 体3本/1.0cm)	明褐色	10%		
10	76	溝1		広口壺 A-a	29.2	(7.8)			剥離、磨滅のため調 整不規	剥離、磨滅のため調 整不規	に赤い 橙色	10%			
10	77	土壠2		広口壺 A-a	26.8	(2.4)			口縫部:横なで	口縁下端部:斜方線 の削毛目	口縁端部:刺み目	褐色	5%		
10	78	溝2	第2層	広口壺 A-a	28.6	(4.7)			磨滅、剥離のため調 整不規	磨滅、剥離のため調 整不規	に赤い 紫褐色	5%			
10	79	溝2	第2層	広口壺 A-a	28.5	(4.3)			口縁部:横方向のへ ラミガキ	磨滅のため調整不規 則部:刺み目(直線 紋)3条(原体8本/1. 0cm)	明赤褐色	20%	口縁部に円孔		
10	80	溝2	第2層	広口壺 A-a	32.8	(4.1)			磨滅のため調整不規	磨滅のため調整不規	浅黃褐色	5%			
10	81		第5層	広口壺 A-a	33.9	(7.5)			口縫部から頭部:横 方向の削毛目	口縫部:横なで、頭部: 斜方線の削毛目	頭部:直線紋1条(原 体3本/1.1cm)	赤褐色	5%	生駒西麓底	
10	82	溝2	第2層	広口壺 A-a	36.0	(7.7)			磨滅、剥離のため調 整不規	磨滅、剥離のため調 整不規	口縫部:刺み目、頭 部:直線紋1条(原体6 本/1.3cm)	明褐色	20%	生駒西麓底	
11	83	溝2	第2層	広口壺B	24.6	(6.9)			口縫部から頭部:な で	口縫部から頭部:な で	口縫部:横状紋(原 体8本/0.9cm),扇 形紋	褐色	10%	生駒西麓底	
11	84	溝2	第2層	広口壺B	25.8	(8.0)			口縫部から頭部:な で	口縫部:なで、その他 は磨滅のため調整不規	口縫部:上端部:扇 形紋	褐色	10%		
11	85	溝2	第2層	広口壺B	21.3	(9.2)			口縫部:横なで、頭部: なで	口縫部:横なで、頭部: なで	頭部:貼り付け凸帯 部:頭部:横状紋	に赤い 褐色	10%	炭化物付着	
11	86	溝2	第2層	広口壺B	17.5	(14.1)			口縫部:横なで、頭部: から頭部:剥離、剥離 のため調整不規	口縫部:横なで、口 縫部から頭部:剥離、 剥離のため調整不規	口縫部:頭部:剥離 部:頭部:横状紋	赤褐色	5%	黒斑	
11	87	溝2	第1層	広口壺B	17.5	(9.9)			口縫部:横なで、頭部: なで	口縫部:横なで、頭部: なで	口縫部:頭部:剥離 部:頭部:横状紋	浅黃褐色	5%		
11	88	土壠2, 溝2	第1層 第2層	広口壺B	14.6	(8.8)			口縫部:横なで、頭部: なで	口縫部:横なで、頭部: なで	口縫部:頭部:剥離 部:頭部:横状紋2条(原 体8本/1.0cm,頭 部:直線紋2条(原 体8本/0.8cm))	に赤い 褐色	20%		
11	89	溝2	第1層	広口壺B	14.6	(7.6)			口縫部から頭部:な で	口縫部から頭部:な で	口縫部:頭部:剥離 部:頭部:横状紋2条(原 体8本/1.1cm,頭 部:直線紋2条(原 体7本/0.8cm))	褐色	10%		
11	90	溝2	第2層	広口壺B	14.6	(4.2)			口縫部:横なで、頭部: 横なで	口縫部:横なで	口縫部:頭部:剥離 部:頭部:横状紋2条(原 体5本/1.0cm)	浅黃褐色	5%		
11	91	溝2	第1層 第2層	広口壺B	21.6	(18.0)			口縫部から頭部:な で、口縫部:指込上: 頭部:横	口縫部から頭部:な で、口縫部:指込上: 頭部:横	口縫部:剥離、頭部: 直線紋3条(原体12本 /1.4cm)	褐色	10%	生駒西麓底	
11	92	溝2	第2層	広口壺B	32.8	(21.2)			口縫部から頭部:な で	口縫部:剥離:へた削 毛目:後なで:剥離、頭 部:なで	口縫部:頭部:剥離 部:頭部:直線紋2条(原 体12本/1.1cm,頭部: 直線紋5条(原体3本 /1.0cm),扇形紋	褐色	10%	生駒西麓底	
11	93	ビット 33		広口壺B	36.0	(8.5)			口縫部:剥離のため 調整不規、剥離、接 合のヘラミガキ	口縫部:なで、頭部:剥 離のため調整不規	口縫部:頭状紋	褐色	20%	頭上端部に円孔、 生駒西麓底	

表6 土器観察表(4)

相模 県 考古 調査 報告 書 番 号	図版 番 号	出土 地 点	層位	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	輪郭径 (cm)	枝法(内面)	枝法(外面)	紋様	色調	砂糖 割合	備考
11	11	94	溝6	広口壺B	36.0	(11.5)		口縁部:横まで頸部、 横方向、横方向への うがき	口縁部:横まで、腹部、 なで、横方向へのう がき	口縁部:盤状紋2条 (原体12本/1.2cm), 輪郭:直線紋4条(原 体12本/1.2cm)	褐色	20%	頸部に円孔、生駒 西壁底
11		95	溝2	第2層 広口壺B	35.3	(11.3)		口縁部:残なで、頸部、 横方向の削毛目	口縁部:口縁下端部、 指紋压痕	口縁部:口縁下端部、 指紋压痕	浅黄褐色	10%	
11		96	溝2	第2層 広口壺B	35.6	(7.6)		口縁部:頸部から類似:な で、指紋压痕	口縁部:頸部のため調 整不明、口縁下端部、 頸部:なで	口縁部:口縁下端部、 頸部:判点紋2条 (原体7本/1.3cm)	褐色	10%	生駒西壁底
12		97	溝2	第2層 広口壺 A-b	33.5	(5.7)		口縁部:横なで、その 他の壓痕のため調整 不明	口縁部:横なで、その 他の調整不明	口縁部:口縁下端部、 削毛目	赤褐色	20%	生駒西壁底
12		98	溝2	第2層 広口壺 A-b	18.9	(3.9)		口縁部:横なで、その 他の压痕のため調整 不明	口縁部:横なで、その 他の調整不明	口縁部:口縁下端部、 削毛目	褐色	5%	
12		99	溝2	第2層 広口壺 A-b	18.2	(7.0)		口縁部:横なで、頸部、 横方向へのうがき	口縁部:横なで、口縁下端部、 指紋压痕、 頸部:横方向へのう がき	口縁部:口縁下端部、 指紋压痕	赤褐色	5%	生駒西壁底
12		100	溝2	第2層 広口壺 A-b	18.5	(7.9)		増減のため調整不規 則	口縁部:増減のため調 整不規則、頸部:横方 向の削毛目	口縁部:口縁下端部、 直線紋2条(原体8本/ 1.0cm)	淡黄褐色	5%	
12		101	溝2	第2層 広口壺 A-b	18.0	(9.4)		口縁部:横なで、頸部: なで	口縁部:横なで、頸部: 斜方向(左上がり)の 削毛目	口縁部:口縁下端部、 直線紋1条(原体11本/ 1.2cm), 輪郭:直線紋3条(原 体7本/1.3cm)	褐色	5%	
12		102	溝2	第2層 広口壺 A-b	19.7	(4.8)		増減のため調整不規 則	増減のため調整不規 則	増減のため調整不規 則	浅黄褐色	5%	
12		103	溝2	第1層 第2層 広口壺 A-b		(18.2)		増減のため調整不規 則	増減のため調整不規 則、から底部、腹方 向の削毛目、底部と 底部下部、増減のた め調整不規則	底部から体部:直線 紋2条(原体7本/1.2 cm)	赤褐色	5%	
12		104	溝2	第4層 広口壺 A-b		(20.8)		増減のため調整不規 則	底部から体部:直線 紋1条(原体15本/1.3cm), 頭部:直線紋5条 (原体15本/1.3cm)	褐色	10%		
12		105	溝2	第2層 広口壺 A-b	14.2	(7.9)		増減のため調整不規 則	口縁部:波状紋、頸 部:なで	口縁部:波状紋、頸 部:直線紋1条(12本/ 1.0cm), 直線紋1条 (12本/1.1cm)	褐色	10%	
12		106	溝2	第2層 広口壺 A-b	17.5	(2.3)		口縁部から類似:な で	口縁部:なで、頸部、 直線、削毛のため調整 不規則	口縁部:波状紋1条 (6本/1.0cm)	淡黄褐色	5%	
12		107	溝2	第2層 広口壺 A-b	16.7	(8.3)		口縁上端部:横なで 口縁部から底部:な で	口縁部から類似:な で	口縁部:波状紋1条 (10本/1.1cm), 頸部: 直線紋2条(10本/1.5 cm), 判点紋1条	淡黄褐色	5%	
12		108	溝2	第2層 広口壺 A-b	17.8	(5.4)		口縁部:横なで、頸部: なで	口縁部:横なで、頸部: なで	口縁部:波状紋1条 (8本/1.3cm), 頸部:直 線紋1条(8本/1.5cm)	淡黄色	5%	
12		109	溝2	第2層 広口壺 A-b	18.6	(5.4)		口縁部:横なで、頸部: なで	口縁部:横なで、頸部: なで	口縁部:口縁下端部、 削毛目	淡黄褐色	5%	
12		110	溝2	第1層 広口壺 A-b	9.0	(3.1)		増減のため調整不規 則	口縁部:横なで、頸部 から背部:なで		明褐色	10%	
12		111	溝2	第2層 広口壺 A-b	10.2	(5.5)		増減のため調整不規 則	増減のため調整不規 則、背部:増減のた め調整不規則		淡黄褐色	5%	
12		112		第4層 広口壺 A-b	12.7	(4.2)		口縁部:横なで、頸部: 增減のため調整不規 則	口縁部:横なで、頸部: 增減のため調整不規 則		赤褐色	5%	
12		113	溝2	第2層 無縫壺B	11.9	(2.8)		増減のため調整不規 則	増減のため調整不規 則		赤褐色	10%	底部に円孔、生駒 内壁底

表 6 土器観察表(5)

器物 番号	国宝 番号	番 号	出土 地点	層位	器種	口径 (cm)	添高 (cm)	幅断径 (cm)	技法(内面)	技法(外面)	紋様	色調	沙理 割合	備考
12		114	溝2	第2層	無鉢西B	14.8	(3.4)		口縁部から肩部・横 なで・底部・磨滅のた め調整不明			淡黄橙 色	5%	
12		115	溝2	第1層	無鉢東A		(4.4)		肩部・横なで	磨滅のため調整不明		に赤い 黄褐色	5%	肩部に円孔(2孔1 列)、生鉄西側底
12		116	溝2	第2層	鉢A	10.0	(4.0)		磨滅のため調整不明	磨滅のため調整不明		に赤い 黄褐色	5%	虫食・牛乳西側底
12		117		第4層	鉢A	24.4	(6.4)		磨滅のため調整不明	口縁部・横なで・底 部・模様紋2条(原体1 本/1.4cm)		に赤い 黄褐色	5%	黒斑
12		118	溝2	第1層	鉢A	37.3	(7.7)		磨滅のため調整不明	磨滅のため調整不明	口縁部・刻み目・体 部・模様紋2条(原体9 本/1.9cm)、縦状紋	淡黄橙 色	10%	
12	11	119	溝2	第2層	鉢B	23.2	(3.8)		口縁部・横なで・体部・ なで・指印压痕	口縁部・横なで・体部・ なで	体部・縦状紋2条(原 体3本/1.0cm)	淡黄橙 色	5%	
12		120	溝2	第2層	縫日	26.0	(3.3)		口縁部・横なで・体部・ なで・指印压痕	口縁下端部・横・模様 のヘリ・カギ	体部・縦状紋(原体8 本/1.3cm)	淡黄橙 色	5%	黒斑
12		121	溝2	第1層	鉢B	34.1	(6.1)		口縁部・横なで・体部・ なで	口縁下端部・なで・体 部・磨滅のため調整不 明	口縁部・縦状紋1条(原 体10本/1.0cm)、 体部・縦状紋2条(原 体10本/1.0cm)	褐色	10%	生鉄西側底
12		122		第5層	鉢B	35.8	(5.3)		磨滅のため調整不明	口縁下端部・指印压 痕	口縁部・刻み目・体 部・底端内側(2条/1.0cm)、 縦形紋	褐色	10%	
12		123	溝2	第1層	高杯B	22.4	(3.3)		磨滅・剥離のため調 整不明	磨滅・剥離のため調 整不明		明褐色	10%	生鉄西側底
12		124	ピット 73		高杯B	18.0	(3.6)		磨滅・剥離のため調 整不明	磨滅・剥離のため調 整不明		明褐色	10%	
12		125	溝2	第1層 第2層	高杯B	14.4	(3.5)		磨滅・剥離のため調 整不明	磨滅・剥離のため調 整不明		赤褐色	10%	
12		126	溝2	第2層	脚部C		(9.7)	10.8	磨滅・剥離のため調 整不明・縦柱形・紋り 目	磨滅・剥離のため調 整不明		深赤褐色	10%	
12		127	溝2	第2層	脚部a		(6.8)	15.0	脚柱部・横なで・脚部 磨滅・剥離のため調 整不明	磨滅・剥離のため調 整不明		淡黄褐色	5%	
12		128	溝2	第2層	脚部b		(13.3)	13.8	脚下端部・横なで・脚 柱部・紋り目	脚柱部・横・方向のヘ リ・カギ、その他は なで		明褐色	20%	牛乳西側底
12		129	溝2	第2層	脚部a		(9.7)	11.1	磨滅・剥離のため調 整不明	磨滅・剥離のため調 整不明		赤褐色	20%	
12		130	溝1		脚部b		(10.6)		脚柱部・なで	脚柱部・横・方向のヘ リ・カギ、その他は なで		淡黄褐色	5%	
12		131	溝2	第1層	脚部a		(8.2)	10.9	磨滅のため調整不明	脚柱部・横・方向のヘ リ・カギ、縦・横・横 なで		褐色	10%	皮化物村谷
12		132	溝2	第1層	脚部		(4.8)	13.5	脚柱部・横なで・脚下端 部・横なで	脚柱部・横なで・その他 は磨滅・剥離のため調 整不明		褐灰色	5%	皮化物村谷
12		133		第5層	脚部		(2.4)	6.9	脚柱部・乳毛目・宿部 磨滅のため調整不明	脚柱部・横・方向のヘ リ・カギ、縦・横・横 なで		に赤い 黄褐色	5%	
12		134	溝2	第3層	脚部		(3.6)	7.9	磨滅のため調整不明	磨滅のため調整不明		褐色	10%	
12		135	溝2	第2層	脚部		(4.3)	13.0	磨滅・剥離のため調 整不明	磨滅・剥離のため調 整不明		橙色	5%	

表6 土器観察表(6)

被認 識番 号	固密 度番 号	当土 地点	種類	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	縦部厚 (cm)	技法(内面)	技法(外側)	枚数	色調 分類	備考	
14	136	満2	第2層	甕A	14.3	(5.5)		磨滅、削離のため調整不明	口縁下端部、横など、その他は磨滅のため調整不明		赤色	10%	
14	137	満1		甕B	19.0	(5.0)		磨滅、削滅のため調整不明	口縁部、横など、脣部: 脱方向のへらしがき		赤褐色	10%	生駒西麓産
14	138	満1		甕B	19.1	(3.3)		口縁部、横など、脣部: なで	口縁部: 横など、脣部: なで、指傾正復		褐色	10%	炭化物付着
14	139	満2	第3層	甕B	20.8	(5.8)		磨滅のため調整不明	口縁部から脣部: なで		明褐色	10%	牛駒内麓産
14	140	満2	第2層 第4層	甕B	23.6	(5.6)		磨滅、削離のため調整不明	磨滅、削離のため調整不明		灰白色	20%	炭化物付着
14	141		第4層	甕B	24.0	(6.3)		磨滅のため調整不明	磨滅のため調整不明		オリーブ色	5%	生駒西麓産
14	142	土壤		甕B	22.2	(7.7)		口縁部から体部: なで	口縁部: なで、脣部から体部: 磨滅のため調整不明		明赤褐色	5%	生駒西麓産
14	143	土壤		甕B	23.9	(4.9)		口縁部から脣部: なで	口縁部: 横など、脣部: 磨滅のため調整不明		明灰褐色	10%	
14	144	満2	第3層	甕B	23.3	(9.4)		口縁部: 横など、脣部から体部: 脱方向のへらしがき	口縁部: 横など、口縁下端部から脣部: 脱方向脱: 脱方向(左上がり)のへらしがき		明褐色	10%	牛駒西麓産
14	145	満2	第1層	甕C	36.0	(8.8)		磨滅のため西歪不明、指傾正復	口縁下端部から体部: 脱方向のへらしがき		にぶい褐色	5%	
14	146		第4層	甕C	35.5	(8.3)		口縁部: 横など、その後は磨滅のため調整不明	口縁部: 横など、その他は磨滅のため調整不明		明赤褐色	5%	生駒西麓産
14	147	満2	第2層	甕C	32.4	(7.3)		磨滅のため調整不明	磨滅のため調整不明		浅赤褐色	10%	
14	148	土壤		甕C	27.1	(12.1)		口縁部: 横など、脣部から体部: 脱方向(右上がり)のへらしがき	口縁部: 横など、脣部から体部: 脱方向(右上がり)のへらしがき		明赤褐色	5%	生駒西麓産
14	149	満2	第3層	甕C	27.1	7.0		磨滅のため調整不明	口縁下端部: 横など、磨滅のため調整不明		褐色	10%	生駒西麓産
14	150	満2		甕C	31.7	(6.2)		口縁部: 横など、その他は調整不明	口縁部: 磨滅のため調整不明、口縁下端部: 横など、脱方向のへらしがき		褐色	5%	
14	151	満2	第3層	甕C	29.4	(5.1)		磨滅のため調整不明	磨滅のため調整不明		灰白色	5%	
14	152	満2	第3層	甕C	27.4	(6.3)		口縁部: 横など、脣部: なで	口縁部: 横など、脣部: なで、指傾正復のへらしがき		にぶい黄褐色	5%	牛駒内麓産
14	153	満2	第3層	甕C	49.1	(17.3)		口縁部: 横など、脣部から体部: 脱方向のへらしがき	口縁部: 横など、脣部から体部: 脱方向のへらしがき		明赤褐色	10%	
15	154	満2	第3層	広口甕 A-a	30.2	(4.2)		口縁部: 横など、頭部: 脱方向のへらしがき	口縁部: 横など、頭部: なで	口縁部: 刻み目、箇状	灰黃褐色	10%	生駒西麓産
15	155	満2	第1層	広口甕 A-b	21.1	(5.1)		口縁部: 横など、頭部: 脱方向(右上がり)の頭毛口	口縁部: 横など、頭部: 脱方向(右上がり)の頭毛口		にぶい褐色	5%	生駒西麓産
15	156	満2	第3層	広口甕 A-b	18.8	(6.5)		磨滅のため調整不明	剥離のため調整不明	口縁部: 刻み目	浅赤褐色	5%	
15	157		第4層	広口甕 A-b	22.0	(5.6)		磨滅のため調整不明	磨滅のため調整不明	口縁部: 頭部: 簾状	にぶい黄褐色	5%	生駒西麓産

表6 土器観察表(7)

測定番号	城壁番号	基号	出土地点	層位	基盤	口径(cm)	底高(cm)	側面深(cm)	技法(内面)	技法(外面)	枚数	色調	砂糖割合	備考
15	158	廣2	第2層	広口壺A-b		23.5	(5.2)		磨滅、削離のため調整不明	輪形・縦状紋(原体不明)		褐色	5%	
15	159		第4層	広口壺A-b		24.5	(5.5)		口縁部・横なで・底部:なし	口縁部・横なで、	口縁上端部:列点紋、口縁底部:次様の上に円形浮紋	に赤い 黄褐色	5%	
15	160	廣2	第1層	広口壺A-b		10.6	(3.0)		口縁部:横なで・底部:磨滅のため調整不明	口縁部:横なで、底部:磨滅のため調整不明	口縫端部:凹線紋2条	褐色	5%	
15	161	廣2	第2層	広口壺A-b		14.8	(2.5)		磨滅のため調整不明	口縁部:横なで、口縁下端部:指押し板	口縫端部:輪状紋2条(原体4本/0.6cm)	褐色	10%	
15	162	廣2	第2層	広口壺A-b		12.8	(5.0)		口縫部:横なで・底部:なし	口縫部から頸上端部:横なで・底部:表面方向の刷毛目	口縫端部:凹線紋2条	褐色	5%	
15	163	廣2	第2層	広口壺A-b		7.5	(4.4)		磨滅のため調整不明	磨滅のため調整不明	口縫端部:輪状紋(原体不明)	に赤い 褐色	10%	生狗西體座
15	164	廣2		広口壺B		18.6	(7.5)		口縫部から頸部:なし	口縫部から頸部:なし	口縫端部:輪状紋2条(原体12本/1.6cm)、脚部:波紋紋2条(原体4本/1.6cm)	明褐色	10%	生狗西體座
15	165	廣2	第2層	広口壺B		18.1	(8.1)		磨滅、削離のため調整不明	磨滅、削離のため調整不明	口縫端部:波状紋、頸部:輪状紋	褐色	10%	
15	166	廣2	第2層	広口壺B		23.0	(10.4)		磨滅、削離のため調整不明	磨滅、削離のため調整不明		浅黃褐色	20%	
15	9	167	廣2	第2層	広口壺B	28.6	(10.9)		口縫部:横なで、その他の磨滅、削離のため調整不明	口縫部:横なで、その他の磨滅、削離のため調整不明	口縫端部:凹線紋2条、削み目	褐色	5%	
15	168	ピット	165	大型細頸壺		19.6	(7.6)		磨滅、削離のため調整不明	磨滅、削離のため調整不明	口縫部から頸部:斜線紋の上に円形浮紋、脚部:輪状紋1条(原体1本/1.2cm)	に赤い 黄褐色	5%	生狗西體座
15	169		第4層	鉢		14.7	(4.0)		磨滅、削離のため調整不明	磨滅、削離のため調整不明	口縫部から体部:凹線紋	に赤い 黄褐色	5%	
15	170	廣2	第2層	鉢		14.8	(4.2)		口縫部:磨滅、削離のため調整不明、体部:表面方向へのラミガキ	口縫部から体部:なし	口縫端部:削み目、口縫部から体部:列点紋	明褐色	5%	生狗西體座
15	171	廣2	第2層	鉢		20.9	(5.3)		口縫部:横なで・体部:機方向へのラミガキ	口縫部:横なで・体部:機方向へのラミガキ	口縫端部:輪状紋1条(原体7本/1.7cm)、脚部:輪状紋(原体3本/1.5cm)、扇形紋	に赤い 黄褐色	20%	生狗西體座
15	172	廣2	第2層	鉢		16.4	(3.6)		磨滅、削離のため調整不明	磨滅、削離のため調整不明	口縫部:削み目、体部:輪状紋、輪状紋	褐色	20%	牛飼西體座
15	173		第4層	高杯		21.8	(3.3)		口縫部から底部:なし	口縫部:横なで・底部:なし	底部:凹線紋2条	褐灰色	5%	黒斑
15	174	廣2	第1層	高杯		24.1	(4.1)		磨滅、削離のため調整不明	口縫部:横なで・底部:なし		に赤い 褐色	5%	
15	175		第4層	高杯		26.7	(4.8)		口縫部から底部:なし	口縫部から底部:なし	底部:凹線紋2条	に赤い 黄褐色	5%	黒斑
15	176	廣2	第2層	高杯		30.4	(4.4)		口縫部:磨滅、削離のため調整不明、底部:表面方向へのラミガキ	口縫部:横なで・底部:磨滅のため調整不明		に赤い 黄褐色	5%	炭化物付着
15	177		第4層	鉢		33.6	(5.4)		磨滅、削離のため調整不明	磨滅、削離のため調整不明	体部:輪状紋2条(原体1本/1.0cm)、斜格子紋	黒褐色	5%	黒斑
16	178	廣2	第2層	脚部		(14.2)	13.3		磨滅、削離のため調整不明、柱軸部:剥り目	磨滅、削離のため調整不明		に赤い 黄褐色	5%	炭化物付着、円錐充満

表6 土器観察表(8)

件号	図版番号	番号	出土地点	層位	基種	口径(cm)	底高(cm)	脚部深(cm)	技法(内面)	技法(外面)	枚種	色調	砂礫割合	備考
16	179	溝2		第2層	脚部		(3.9)	13.2	磨滅のため調整不明	磨滅のため調整不明		淡赤褐色	5%	
16	180			第1層	脚部		(3.9)	12.3	磨滅のため調整不明 指紋压痕	脚部:構なで、脚柱部から脚部:縦方向のヘラミガキ		にぶい 黄褐色	5%	
16	181	ピット150		脚台部		(11.0)	13.1	縦溝:なで、脚柱部:校り目	脚部:構なで、その他は磨滅、削離のため調整不明	脚柱部:削突紋	明赤褐色	10%	生駒西難産	
16	182			第4層	脚台部		(3.7)	14.9	縦溝:なで	脚部:横	灰褐色	5%	裏面、縦部に円孔	
16	183	溝2		第5層	甕B	17.2	(5.6)		口縁部から肩部:なで	口縁部:なで、肩部:縦方向の柳毛目		黄褐色	5%	
16	184	溝2		第3層	甕B	18.3	(6.0)		磨滅のため調整不明	口縁部:構なで、その他は磨滅のため調整不明		浅黄褐色	5%	
16	185	溝2		第1層	甕C	31.9	(4.4)		磨滅のため調整不明	口縁部から肩部:構なで	口縁部:削突紋	黒褐色	5%	
16	186	溝2		第1層	甕C	34.6	(5.3)		磨滅のため調整不明	口縁部:構なで、肩部:なで	口縁部:削突紋	にぶい 黄褐色	10%	
16	187	溝2		第2層	甕C	35.3	(7.3)		磨滅のため調整不明 指紋压痕	口縁部:磨滅のため調整不 ^明 肩部:縦方向の削毛目		浅黄褐色	5%	
16	188	溝2		第1層	甕C	37.1	(7.6)		口縁上端部:構なで、 口縁部から肩部:なで	口縁部:構なで、その他は調整不明	口縁部:削突紋	淡黄褐色	5%	
16	189			第4層	甕C	36.0	(14.4)		口縁部:接なで、その他は調整不明	口縁部:構なで、肩部: 縦方向のヘラミガキ		暗赤褐色	10%	生駒西難産、炭化物付着
16	190			第4層	甕C	34.9	(7.3)		口縁上端部:構なで、 口縁部から肩部:なで、 指紋压痕	口縁部:構なで、肩部: 縦方向のヘラミガキ		にぶい 褐色	5%	
16	191	溝2		第5層	甕C	36.3	(9.3)		口縁部:構なで、 縦方向のヘラミガキ	口縁部:構なで、肩部: 縦方向のヘラミガキ	口縁部:削み目	灰褐色	10%	生駒西難産
16	192	溝2		第1層	甕C	46.0	(7.8)		磨滅のため調整不明 指紋压痕	磨滅のため調整不明	口縁部:削突紋	にぶい 褐色	5%	生駒西難産
16	193	溝2		第1層	甕C	16.7	(10.3)		口縁部:構なで、肩部: から体部:縦方向の ヘラミガキ	口縁部:構なで、肩部: から体部:縦方向の タタキ目		褐色	5%	
17	10	194	溝2	第1層 第2層	甕	15.0	22.4		磨滅、削離のため調 整不明	口縁部:及び底部:磨 滅のため調整不明、 肩部から体部:縦方向 のタタキ目		明褐色	5%	
17		195	溝2	第1層	甕	15.8	(6.8)		口縁部:構なで、肩部: なで	口縁部:構なで、肩部: 縦方向(右上がり)の タタキ目		にぶい 褐色	5%	
17		196	溝2	第1層 第2層	甕	16.0	(16.4)		磨滅、削離のため調 整不明	口縁部:磨滅、削離の ため調整不明、肩部 から体部:縦方向(右上 がり)のタタキ目		褐色	5%	
17	10	198	溝2	第1層	甕	14.6	15.5		磨滅のため調整不明	磨滅のため調整不明		明赤褐色	5%	底面部に円孔
17		199	溝2	第2層	脚部		(6.8)	10.8	磨滅のため調整不明	脚柱部から脚部:縦 方向のヘラミガキ		浅黄褐色	5%	脚柱部に円孔(4 方向)
17		200	溝2	第1層	高杯	25.1	(4.1)		磨滅のため調整不明	磨滅のため調整不明		にぶい 褐色	5%	

表 6 土器観察表(9)

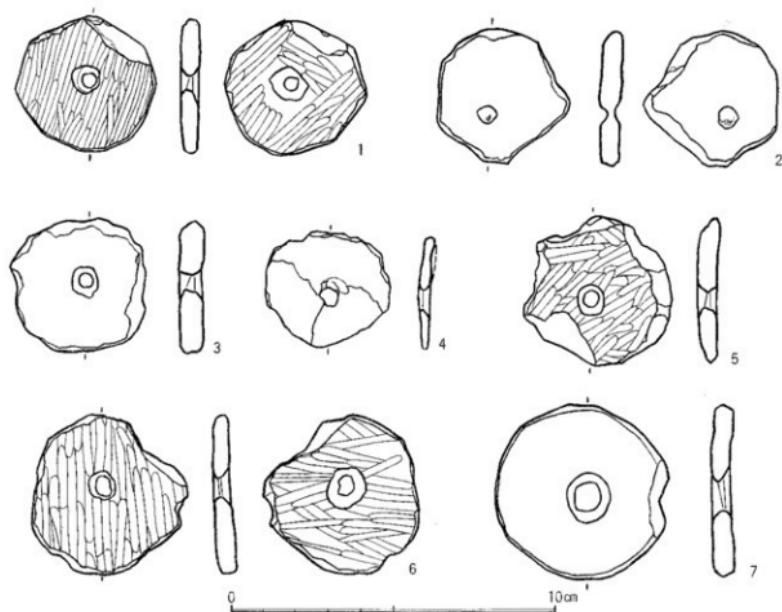


図18 弥生土器(紡錘車)

(2) 土製品

紡錘車・円盤(図18、19: 1~7)

紡錘車と円盤が出土している。紡錘車(1~7)は7点、円盤(8~43)は36点ある。

紡錘車は直径37.9~48.7cmのものがあるが、直径45cm前後のものが最も多い。重量は4.6~18.5gのものがあるが、最も軽い4.6gの(4)は剥離が著しいため本米の重量を示していない。それを除くと15g前後のものが紡錘車の平均的な重量と考えられる。紡錘車の穿孔は焼成後におこなわれたものばかりであることから、破損土器の再生品でしめられていたことが推測できる。円盤は直径28.6~60.1cmのものがある。重量は4.4~31gのものがある。個々の法量および詳細は表7の紡錘車・円盤観察表を参照されたい。

さて、従来から円盤の機能については紡錘車の未成品という位置づけがなされることが多かった。しかし、すべてをそのように解釈することに疑問もたれはじめている。図19は紡錘車と円盤の厚さ指数(厚さ/直径)と重量の相関関係を示したグラフである。それによると紡錘車の分布は前述の剥離の著しい(4)を除くと、重量は約13~18g、厚さ指数は約2~8の範囲に集中する。それに対して円盤は重量約4~22g、厚さ指数は約9~44とばらつきが大きい。また、もし円盤が紡錘車の未成品であるなら重量は紡錘車より重くなければならない。しかし、円盤の約半数は紡錘車より軽い。このことは円盤を紡錘車の未成品と考えるだけではなく、別の用途も考える必要を示唆している。なお、今回出土した紡錘車の法量が集中しているのは対象とする糸の材質が、かなり限定されていたと考える必要があるかもしれない。

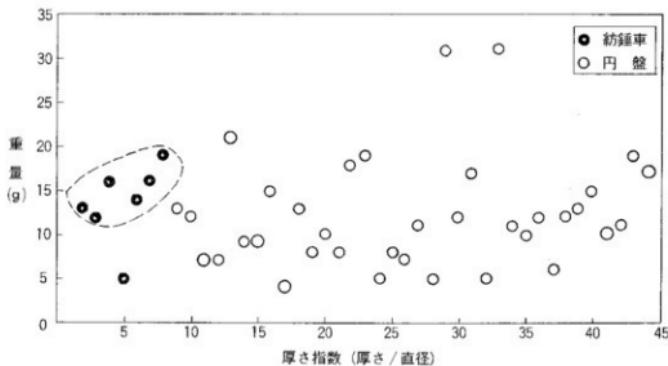


図19 紡錘車と円盤の厚さ指数と重量の相関

拂岡番号	図版番号	番号	種類	出土地名・層位	直徑(mm)	直徑(mm)	厚さ(mm)	穴徑(mm)	重積(g)	備考
18	25	1	纺錘車	溝2・第1層	43.5	44.0	5.7	4.5	13.0	生駒西縫座、ヘラミガキ
18	25	2	纺錘車	溝2・第2層	41.4	41.0	6.1	5.2	12.0	穿孔途中
18	25	3	纺錘車	溝2・第2層	41.3	44.0	7.8	4.3	15.8	
18	25	4	纺錘車	溝2・第2層	37.9	38.0	2.8	6.1	4.6	生駒西縫座
18	25	5	纺錘車	溝2・第2層	47.4	47.0	5.9	5	14.1	生駒西縫座
18	25	6	纺錘車	溝2・第2層	48.7	49.0	5.9	6.4	16.4	生駒西縫座
18	25	7	纺錘車	溝2・第2層	54.9	55.0	6.4	9.6	18.5	
	8	土壌			50.5	51.0	5.7		13.0	生駒西縫座
	9	円盤			39.1	39.0	7.0		12.1	生駒西縫座
10	円盤			溝2・第2層	33.5	34.0	6.0		7.0	生駒西縫座
11	円盤			溝2・第2層	34.9	35.0	6.7		6.6	
12	円盤			溝2・第2層	48.1	48.0	8.0		20.7	
13	円盤			溝2・第2層	41.6	42.0	5.2		8.6	
14	円盤			溝2・第2層	43.4	43.0	5.2		9.1	
15	円盤			溝2・第2層	39.6	40.0	9.2		14.6	生駒西縫座
16	円盤			溝2・第2層	28.6	29.0	5.0		4.4	生駒西縫座
17	円盤			溝2・第2層	41.5	42.0	7.6		13.3	生駒西縫座
18	円盤			溝2・第2層	34.9	35.0	6.3	5.5	8.3	穿孔途中
19	円盤			溝2・第2層	40.6	41.0	6.5		9.8	
20	円盤			溝2・第2層	37.6	38.0	6.3		7.9	
21	円盤			溝2・第2層	46.5	47.0	9.0		17.9	生駒西縫座、直縫状
22	円盤			溝2・第2層	50.7	51.0	6.2		19.2	生駒西縫座
23	円盤			溝2・第2層	39.1	39.0	6.2		5.1	
24	円盤			溝2・第2層	35.8	36.0	5.8		7.6	
25	円盤			溝2・第2層	33.1	33.0	7.6		7.0	
26	円盤			溝2・第2層	43.3	43.0	5.3		11.2	生駒西縫座
27	円盤			溝2・第2層	31.7	32.0	5.0		4.6	
28	円盤			溝2・第1層	54.2	54.0	10.1		31.4	生駒西縫座
29	円盤			溝2・第2層	41.9	42.0	6.5		12.1	
30	円盤			溝2・第1層	45.2	46.0	7.4		17.2	生駒西縫座、鉢の破片か?
31	円盤		表保		34.5	35.0	3.8		4.5	
32	円盤		表保		60.1	60.0	7.0		31.0	生駒西縫座
33	円盤		溝2・第2層		38.3	39.0	7.4		10.7	
34	円盤		第4層		39.8	40.0	6.1		10.1	生駒西縫座
35	円盤		第4層		38.6	39.0	7.8		12.0	
36	円盤		第4層		33.9	34.0	5.1		6.1	
37	円盤		第4層		42.9	43.0	6.5		12.1	生駒西縫座
38	円盤		第4層		43.4	43.0	8.4		13.3	
39	円盤		第4層		41.9	42.0	8.0		15.2	生駒西縫座
40	円盤		溝2・第2層		30.9	31.0	9.9		9.8	
41	円盤		第4層		42.2	42.0	5.6		10.7	
42	円盤		土壤2		50.6	51.0	6.7		19.2	
43	円盤		土壤2		50.8	51.0	6.7		16.7	

表7 紡錘車・円盤観察表

(3) 石器

出土した石器資料はサヌカイト製の打製石器、剥片、石核、原石、粘板岩製の磨製石鎌、結晶片岩製の石包丁、円盤、砂岩製の石皿、砥石、ハンマーなどがある。総数61箱のうち、サヌカイト製の石器資料は約58箱あるのに比べて、砂岩製のものは3箱弱、結晶片岩、粘板岩を含むその他の石器資料は1箱に満たない。

今回出土したサヌカイト製の石器資料の大半は剥片と石核であるが、時間的な制約のため、十分な整理作業をおこなうことができなかった。しかし、これらの資料の一部に打製石剣と接合する資料が含まれていたことから、この種の石器の製作工程を連続的に復元できる手がかりを得ることができた。そこで今回の報告では、これらの資料のうち打製石剣製作時に関わるものにだけ焦点をあてて中間報告をおこなう。すなわち、剥片については打製石剣の素材となりうるもの、または製作時に生じるものを取り上げるだけにとどめる。なお、石核についてはもっとも大きいものだけを取り上げる。

以下、打製石器から順に記述していく。

サヌカイト製打製石器

サヌカイト製の打製石器には石鎌56点、石槍50点、石剣205点、石錐45点、石小刀4点、削器223点、ハンマー4点がある。

サヌカイト製の打製石器については個々の石器の観察表をつけた。なお、ここで使用する用語については山中に従う（山中,1978）。

石鎌(図版12, 13・図20, 21: 1~27)

尖頭器のうちで器軸方向長が55mm以下、重量が10g未満のもの、もしくは基部形態が凹基式あるいは有茎式のものについては器軸方向長が100mm未満のものまでを石鎌と呼ぶ。ただし、石鎌の製作途中品については石槍と分類困難なものがあり、今回は整形状況、および基部形態に応じて便宜的に分類しているが、分類上問題を残したままであることも事実である。

石鎌は56点出土している。基部形態別に記述すると凹基式3点、半基式4点、円基式5点、凸基無茎式16点、凸基有茎式15点、不明13点である。これらの中には整形が不十分であることから、製作途中品と認定したもの(2, 10, 34, 35, 37, 43)も含まれる。

石鎌は素材面の残しているものが27点あり、その内の16点は横形剥片、4点は剥片である。横形剥片を素材にしているものはすべて最大幅を石鎌の器軸方向に、剥片を素材にしているものはすべて素材の打面を基部側に、最大長を器軸方向に設定して製作されている。原面を残しているものは8点あり、残存位置の内訳は表面中央が4点、尖端部が2点、表面基部が1点、基礎部が1点である。器体の整形はすべて平形および薄形細部調整でおこなわれていて、角度の高い細部調整は認められない。

刃部側線を鋸歯状に仕上げたものはない。基部側線を磨りおとしているものは1点(29)認められる。

なお、個々の石鎌の詳細は表8を参照されたい。

種別	図版	番号	出土地点・層位	基部型式	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(t)	素材	中央断面形	原面	調整	整形	折損	備考	
20	12,13	1	溝2・第2層	凹基式	37.1	22.8	4.1	2.3	—	平凸形	×	両面	非板	片脚部		
20	12,13	2	溝2・第2層	凹基式	42.7	18.9	4.5	2.5	—	両凸形	×	両面	非板	尖端・片脚部		
20	12,13	3	溝2・第2層	凹基式	46.9	28.0	7.3	11.3	—	両凸形	×	両面	非板	×	製作途中品	
20	12,13	4	第5層	平基式	20.3	14.9	4.1	1.3	—	両凸形	×	両面	非板	尖端部		
20	12,13	5	第4層	平基式	34.5	13.2	3.5	1.4	横形剥片	両凸形	×	×	非板	×		
20	12,13	6	溝2・第2層	平基式	60.9	11.9	4.4	2.1	横形剥片	平凸形	×	×	非板	×		
20	12,13	7	溝2・第2層	平基式	44.2	16.8	6.1	3.6	—	両凸形	×	両面	非板	尖端部		
20	12,13	8	第4層	凹基式	50.4	23.7	8.7	7.6	横形剥片	両凸形	×	片面	非板	尖端部		
20	12,13	9	第4層	凹基式	41.9	27.7	7.0	6.5	剥片?	両凸形	×	片面	非板	尖端部		
20	12,13	10	第5層	円基式	43.2	20.9	6.1	6.9	横形剥片	平凸形	×	×	非板	×	製作途中品	
20	12,13	11	溝2・第2層	円基式	35.8	15.3	6.5	2.9	剥片	両凸形	×	片面	非板	基部		
20	12,13	12	第5層	凸基式	29.3	11.5	3.1	1.1	剥片	両凸形	×	片面	非板	尖端部		
20	12,13	13	第5層	凸基式	37.3	13.3	2.8	1.3	—	両凸形	×	両面	非板	尖端部		
20	12,13	14	溝2・第2層	凸基式	39.2	13.6	5.3	2.5	—	両凸形	×	両面	非板	尖端部		
21	12,13	15	第4回	凸基式	57.2	21.8	6.8	5.7	—	両凸形	×	両面	非板	×		
21	12,13	16	土壌5	凸基式	46.3	15.3	4.5	2.9	—	両凸形	×	両面	非板	尖端部		
21	12,13	17	溝2・第2層	凸基式	34.0	15.1	4.3	1.9	—	両凸形	×	両面	非板	尖端部		
21	12,13	18	溝2・第2層	凸基式	37.9	13.4	3.5	1.6	横形剥片	両凸形	×	×	非板	×		
21	12,13	19	溝2・第1層	有茎式	34.8	12.5	3.4	1.6	横形剥片	平凸形	×	×	非板	尖端部		
21	12,13	20	落込み1	有茎式	36.1	10.5	4.0	1.2	横形剥片	平凸形	×	×	非板	×		
21	12,13	21	溝2・第2層	有茎式	39.8	14.5	5.8	2.4	—	両凸形	中央	片面	非板	尖端部		
21	12,13	22	第3層	有茎式	47.7	15.7	7.5	5.0	—	両凸形	×	両面	非板	×		
21	12,13	23	溝2・第2層	有茎式	42.2	19.9	6.2	4.9	横形剥片	平凸形	中央	×	非板	尖端部		
21	12,13	24	溝2・第2層	有茎式	43.8	22.8	6.6	4.3	横形剥片	両凸形	×	×	非板	尖端部		
21	12,13	25	溝2・第1層	有茎式	37.0	5.6	9.4	8.9	—	両凸形	×	両面	非板	×		
21	12,13	26	第4層	有茎式	56.7	29.8	5.6	7.7	横形剥片?	平凸形	×	×	非板	×		
21	12,13	27	第4層	有茎式	38.6	25.5	6.5	8.1	—	両凸形	×	両面	非板	尖端部		
28				凸基式	38.3	17.0	5.3	3.0	—	両凸形	×	両面	非板	×		
29				第5層	凸基式	28.8	15.6	4.4	1.8	横形剥片	両凸形	×	両面	非板	尖端・中央部	基部側縫研磨
30				溝2・第2層	凸基式	36.9	20.0	5.1	3.8	—	両凸形	×	両面	非板	尖端・基部	
31				溝2・第1層	—	30.4	21.5	6.1	4.5	—	両凸形	×	両面	非板	尖端・基部	
32				溝2・第1層	—	25.6	12.5	4.1	1.5	—	両凸形	×	両面	非板	尖端・基部	
33				溝2・第2層	—	21.8	9.8	2.2	0.6	—	三角形	尖端部	片面	非板	中央・基部	石礫事故剥片
34				第3層	—	37.5	21.9	7.2	7.4	—	両凸形	基端部	両面	非板	尖端部	製作途中品
35				ピット26	有茎式	43.5	21.2	10.0	6.5	横形剥片	四角形	×	×	非板	×	製作途中品
36				溝2・第1層	—	24.8	10.6	2.6	0.6	—	三角形	片面	非板	尖端	某部	製作途中品
37				溝2・第1層	—	6.3	14.6	2.6	0.5	—	三角形	片面	非板	中央	基部	
38				溝2・第2層	円基式	44.4	19.3	6.2	5.9	剥片	内凸形	×	両面	非板	尖端部	尖端部が削減
39				溝2・第1層	有茎式	36.8	24.9	8.9	8.6	—	両凸形	片面	非板	尖端・基部		
40				溝2・第1層	円基式	26.8	14.1	5.7	1.5	—	両凸形	中央	片面	非板	尖端・中央部	
41				溝2・第2層	—	21.7	14.6	2.6	8.9	—	両凸形	中央	両面	非板	尖端・基部	
42				溝2・第1層	—	62.2	11.8	4.7	1.5	横形剥片	平凸形	×	×	非板	尖端・基部	
43				溝2・第1層	—	41.3	22.8	8.9	8.0	—	両凸形	片面	非板	尖端・基部	製作途中品	
44				溝2・第1層	凸基式	27.8	16.3	4.2	1.9	—	両凸形	片面	非板	尖端・基部		
45				第4層	凸基式	26.6	16.1	6.1	1.9	—	両凸形	片面	非板	尖端・中央部		
46				溝2・第2層	—	13.4	10.5	4.2	0.5	—	両凸形	両面	非板	尖端・基部		
47				溝2・第2層	—	6.3	4.8	2.3	0.1	—	両凸形	片面	非板	中央	基部	
48				溝2	凸基式	41.0	24.6	2.8	4.1	横形剥片	四角形	基部	×	非板	尖端部	
49				第3層	—	23.6	17.2	4.6	2.2	—	両凸形	片面	非板	尖端・基部		
50				ピット71	—	15.9	10.6	3.7	0.3	—	三角形	片面	非板	中央・基部		
51				第4層	凸基式	38.3	14.6	5.9	3.2	—	両凸形	片面	非板	側縫部		
52				第3層	凸基式	34.6	14.2	4.5	1.9	横形剥片	両凸形	片面	非板	尖端部		
53				第4層	有茎式	39.4	16.1	4.7	3.0	横形剥片	両凸形	片面	非板	—		
54				第4層	有茎式	41.2	17.9	9.0	5.1	—	両凸形	片面	非板	尖端部		
55				溝2・第2層	有茎式	31.3	21.1	6.2	4.1	—	両凸形	片面	非板	尖端部	有舌尖圓器に類似	
56				第4層	有茎式	42.7	17.1	5.0	2.8	—	両凸形	片面	非板	—		

表8 石鎚観察表

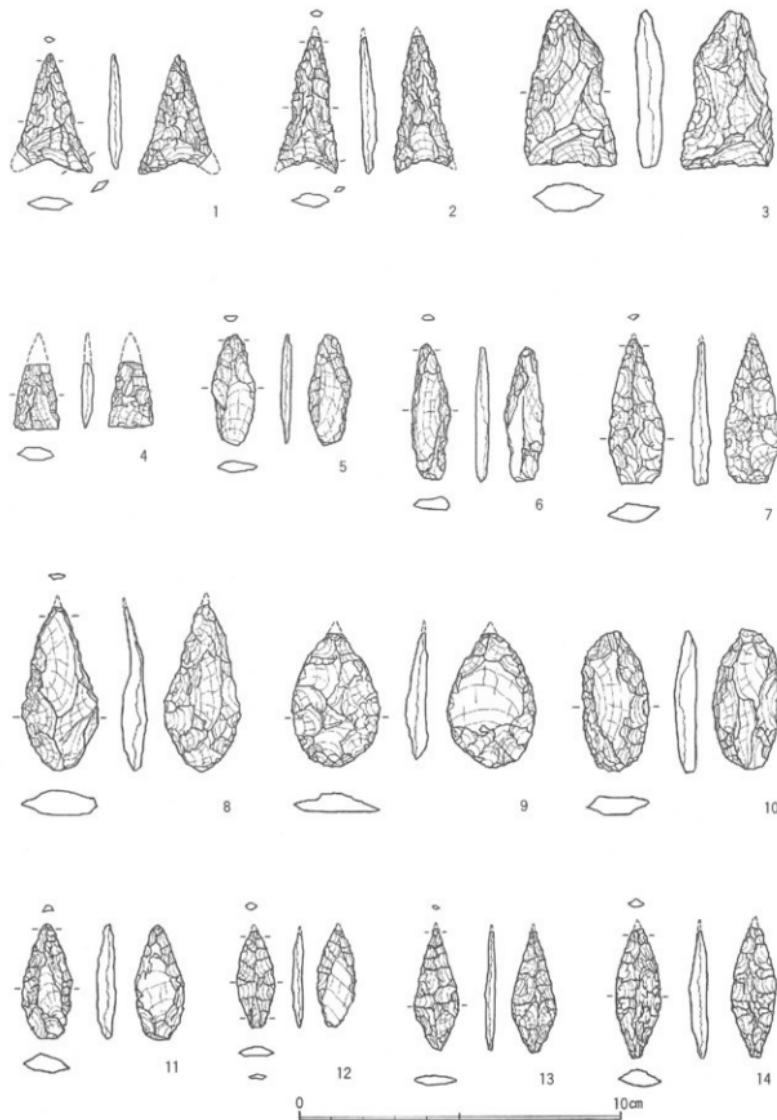


図20 石器(打製石鏹)

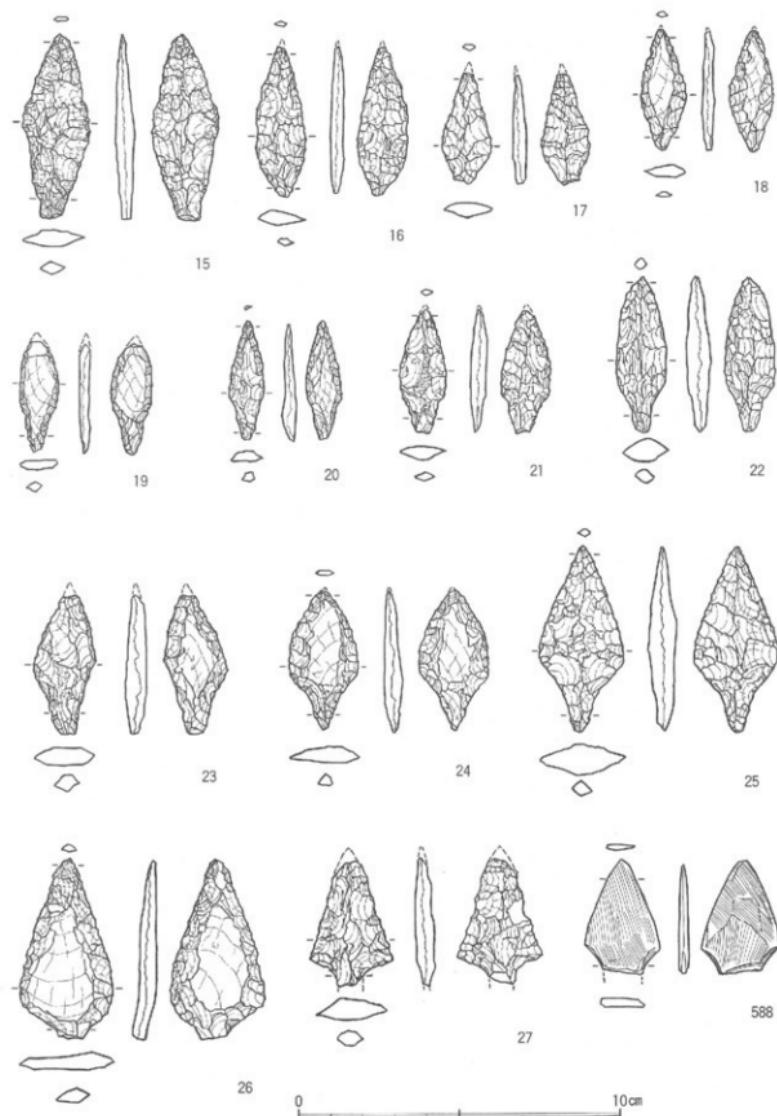


図21 石器(打製石鎚、磨製石鎚)

石槍(図版14, 15・図22, 23: 60~78)

尖頭器のうちで器軸方向長が56mm以上、110mm未満のものを石槍と呼ぶ。石槍の中には製作途中品も含まれているが、それらの中にはさらに細部調整を施すと石鎧と呼ばなければいけないものも含まれているかもしれない。

石槍は50点出土している。素材面を残しているものが25点ある。素材の内訳は横形剣片が21点、剣片が1点、礫が3点である。原面を残しているものは27点ある。器体の整形は平形および薄形細部調整でおこなわれているものが多いが、厚形細部調整でおこなわれているものもある。

なお、個々の石槍の詳細は表9を参照されたい。

種別	図版	番号	出土地點・層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	素材	中央断面	原面	調整	整形	折損	備考
	57	第4層		55.3	28.3	13.3	21.6	—	両凸形	×	両面	非極	基部	
	58	溝2・第2層		54.0	39.6	12.1	20.1	横形剣片	両凸形	○	片面	非極	×	
	59	溝2・第2層		90.0	56.3	22.9	96.8	礫	両凸形	○	片面	非極	×	
22	14,15	60	第4層	56.2	17.7	9.6	8.0	横形剣片	両凸形	×	片面	非極	尖端部	
22	14,15	61	溝2・第2層	44.4	14.0	6.4	3.7	—	両凸形	×	両面	非極	尖端部	
22	14,15	62	溝2	61.4	17.4	7.2	6.9	—	両凸形	×	両面	非極	尖端部	
22	14,15	63	溝2・第1層	58.6	15.0	7.0	5.1	—	両凸形	×	両面	非極	尖端部	
22	14,15	64	溝2・第2層	60.8	24.5	9.8	9.6	—	両凸形	×	両面	非極	基部	
22	14,15	65	第4層	54.5	24.3	11.1	12.3	横形剣片	両凸形	×	片面	非極	×	
22	14,15	66	第4層	59.6	27.4	8.9	11.2	横形剣片	両凸形	×	片面	非極	×	
22	14,15	67	溝2・第1層	69.8	30.6	0.3	18.3	—	両凸形	×	両面	非極	×	
23	14,15	68	溝2・第1層	63.4	31.4	9.1	15.5	—	両凸形	×	両面	非極	×	
23	14,15	69	第4層	58.5	27.1	8.7	10.3	横形剣片	両凸形	×	両面	非極	×	
23	14,15	70	溝2・第1層	73.1	28.4	12.4	21.3	—	両凸形	中央	両面	非極	×	
23	14,15	71	落込み1	73.4	13.7	28.7	18.8	—	両凸形	×	両面	非極	×	
23	14,15	72	第4層	80.3	30.0	7.6	18.5	—	両凸形	×	両面	非極	側縁	
23	14,15	73	第4層	78.6	27.6	10.8	20.1	—	両凸形	中央	両面	非極	×	
24	14,15	74	溝2・第1層	74.0	38.3	12.9	34.0	—	両凸形	×	両面	非極	尖端	
24	14,15	75	溝2・第2層	90.6	28.4	13.3	30.8	横形剣片	両凸形	尖端・側縁	×	非極	×	
24	14,15	76	溝2・第2層	74.8	27.6	11.3	20.8	—	両凸形	側縁	両面	非極	×	
24	14,15	77	第4層	80.4	38.2	10.0	30.4	—	両凸形	基端部	両面	非極	×	
24	14,15	78	溝2・第1層	89.1	46.0	18.8	63.6	横形剣片	両凸形	尖端	片面	非極	×	製作途中品
24	14,15	79	溝2・第2層	56.1	29.7	10.6	15.0	横形剣片?	両凸形	×	両面	非極	基部	
	80	溝2・第2層		84.7	35.0	12.2	31.7	横形剣片?	不等辺・角形	側面	×	平・海	基部	製作途中品
	81	溝2・第2層		40.7	20.2	7.2	7.1	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・基部	人型石鎧か?
	82	第4層		51.2	27.8	9.5	12.1	—	両凸形	中央	両面	非極	×	
	83	第4層		51.5	30.6	6.5	10.2	横形剣片	不等辺・角形	側面	×	平・海	×	
	84	第4層		48.5	21.8	6.2	6.0	—	両凸形	×	両面	非極	基部	
	85	溝2・第2層		52.0	27.6	10.3	14.7	横形剣片	両凸形	基部・茎端部	両面	非極	尖端部	
	86	溝2・第2層		57.2	37.0	11.9	20.6	横形剣片	両凸形	基端部	片面	非極	尖端・中央	
	87	第4層		55.7	33.4	11.9	18.1	横形剣片	両凸形	基端部	×	非極	尖端部	
	88	第3層		66.0	30.6	15.3	28.5	横形剣片	両凸形	側面・基部	片面	非極	基部	
	89	溝2・第2層		78.5	34.1	19.0	46.2	横形剣片?	両凸形	片面	×	非極	尖端部	
	90	第4層		86.4	49.2	17.2	69.4	横形剣片	両凸形	基礎面	片面	非極	尖端部	製作途中品
	91	溝2・第2層		77.1	40.4	16.0	47.6	—	両凸形	縫合外縫縫	片面	非極	×	
	92	溝2・第2層		56.7	32.4	11.7	22.4	横形剣片	両凸形	基端部	×	非極	尖端部	
	93	溝2・第1層		59.3	24.1	9.3	12.1	—	両凸形	—	両面	非極	尖端部	
	94	溝2・第2層		62.6	35.0	14.0	22.5	—	両凸形	縫合外縫縫	片面	非極	尖端部	
	95	溝2・第2層		57.6	28.8	14.6	18.9	—	両凸形	×	両面	非極	尖端部	
	96	第4層		54.9	27.2	13.6	17.8	横形剣片	両凸形	尖端側面・ 基部側面・ 基端部	片面	非極	尖端部	

表9 石槍観察表(1)

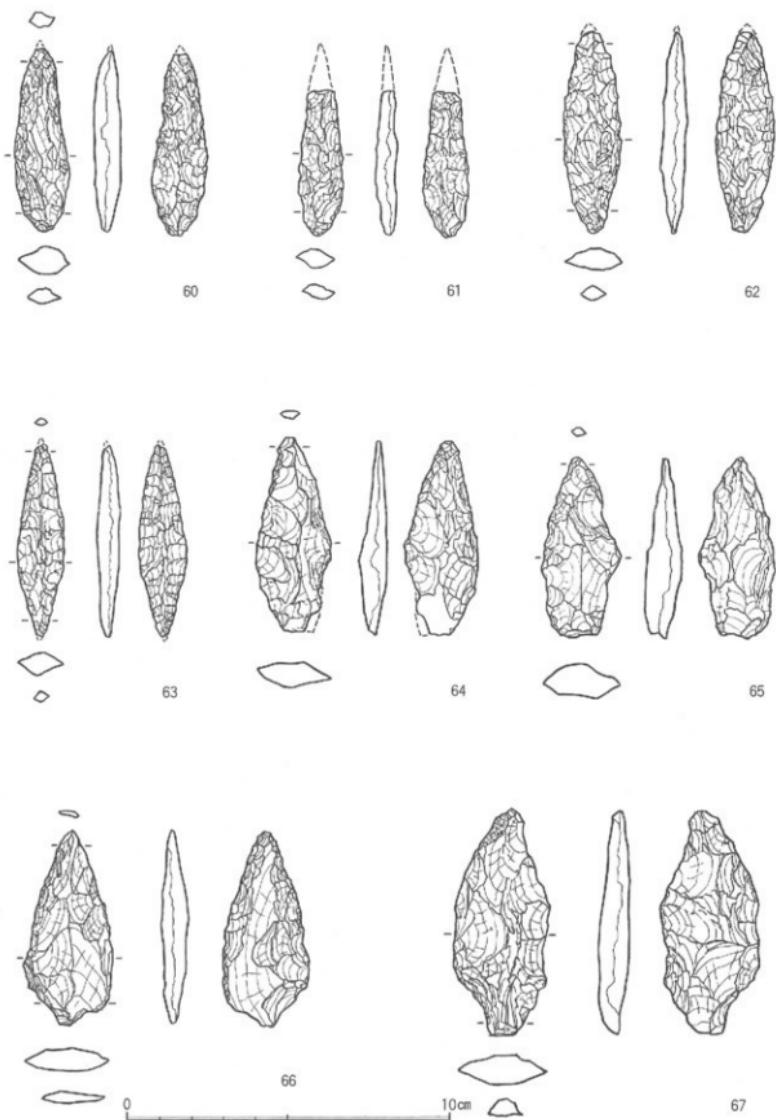
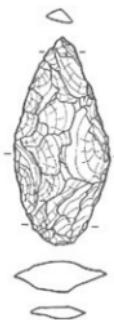


圖22 石器(打製石槍)



68



69



70



71



72

0

10cm



73

図23 石器(打製石槍)

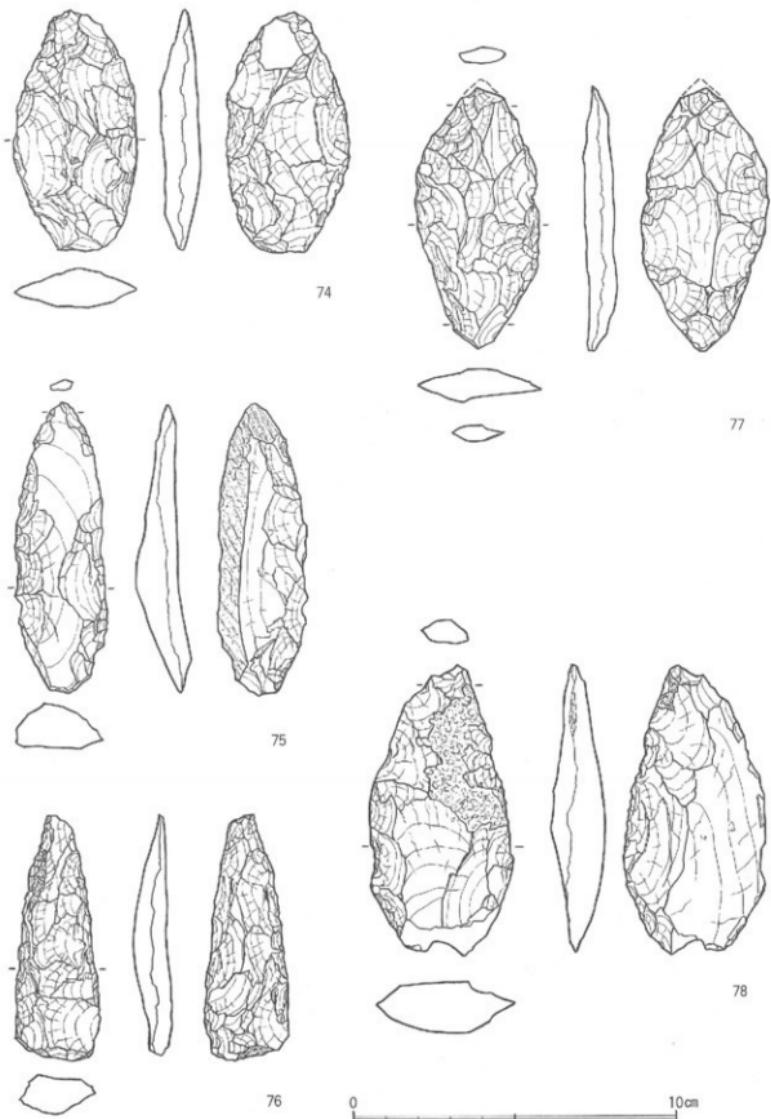


圖24 石器(打製石槍)

辨図	図版	番号	出土地点・層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	素材	中央断面	原面	調整	整形	折損	備考
		97	第4層	89.5	39.4	4.2	4.3	横形剝片	両凸形	基礎部	両面	非極	尖端部	
		98	土壤2	53.5	29.3	7.9	11.3	横形剝片	内凸形	×	片面	非極	尖端部	
		99	溝2・第1層	51.6	26.5	10.8	12.2	—	両凸形	基礎部	両面	非極	尖端部	
		100	溝2・第1層	51.4	31.0	12.6	16.2	—	両凸形	側面	両面	非極	×	
		101	溝2・第2層	56.9	31.8	10.5	14.4	横形剝片	内凸形	×	両面	非極	×	
		102	溝2・第2層	60.0	27.1	9.1	15.5	—	両凸形	×	片面	非極	×	
		103	第4層	57.4	22.8	10.4	12.9	内凸形	×	両面	非極	尖端部		
		566	溝2・第1層	66.1	40.3	10.3	27.2	鍍	両凸形	○	×	非極	×	
		567	溝2・第2層	104.6	59.7	26.5	140.0	鍍	両凸形	○	×	非極	×	
		568	第4層	98.3	22.0	17.2	43.1	剝片	四角形	○	片面	非極	×	

表9 石槍観察表(2)

石劍(図版16~20・図24~31:104~123)

尖頭器のうちで器軸方向長が110mm以上のものを石劍と呼ぶ。製作途中品については、石核と分類が困難なものもあるが、形態的には全体に側縁の平行する部位が長く認められるものが多いこと、製作技術からは両面におよぶ整形、尖頭部の作りだしを意識していることが認められるなどを基準にして石劍としている。

石劍は205点出土している。これらのほとんどが製作途中の事故品である。これらのうち完成品と確実に認定できるものは8点(104, 105, 108, 114, 145, 162, 182, 185)だけである。そのうち完形品として出土しているのは1点(105)だけで、残りの7点は折損している。

素材面を残しているものは40点ある。素材の内訳は横形剝片が33点、剝片が3点、石核が4点である。原面を残しているものは107点(52%)ある。このうち86%は両端面あるいは片端面を含む器表面端部に、8%は器表面中央部に、6%は側縁部に残っている。このことから石核から素材剝片を剥ぎ取るときにできるだけ大きな剝片を剥ぎ出そうとしている意識を読みとることができる。

器表面に平面的に施された中間研磨の認められたのは1点(106)だけである(栗田1995)。

刃部側縁を鋸歯状に仕上げたものは認められなかった。基部側縁の磨り落としたものは1点(185)だけである。

今回、石劍については製作状況のわかる接合資料が出土している。これについては図の都合上、後述する。なお、個々の石劍の詳細は表10を参照されたい。

辨図	図版	番号	出土地点・層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	素材	中央断面	原面	調整	整形	折損	備考
25	16,17	104	溝2・第2層	111.6	23.8	10.5	27.0	—	内凸形	×	両面	非極	尖端部	完成品の断片
25	16,17	105	溝2・第2層	123.9	26.4	9.8	40.1	—	内凸形	×	両面	非極	×	完成品
25	16,17	106	溝2・第1層	70.1	23.4	11.5	16.0	—	内凸形	×	両面	非極	中央・基部	片面中央研磨
25	16,17	107	溝2・第1層	96.2	29.0	14.2	40.6	—	内凸形	中央	両面	非極	尖端部	
25	16,17	108	溝2	60.0	32.2	9.3	21.7	—	内凸形	×	両面	非極	尖端・中央部	有むき面の剝離
26	16,17	109	溝2・第2層	170.7	33.9	20.4	112.0	—	内凸形	×	両面	非極	基部	
26	16,17	110	溝2・第2層	87.9	41.0	18.6	40.7	—	内凸形	基礎部	両面	非極	尖端・中央部	
26	16,17	111	溝2・第2層	229.9	41.8	13.9	149.1	横形剝片	内凸形	±鑿孔	両面	非極	×	製作途中品
27	16,17	112	溝2・第2層	161.9	40.1	19.3	135.2	—	内凸形	基礎面	両面	非極	尖端部	
27	16,17	113	溝2・第2層	73.4	39.7	19.7	66.2	—	内凸形	×	両面	非極	尖端部・基礎部	
27	16,17	114	溝2・第2層	72.7	41.9	13.1	31.4	—	内凸形	×	両面	非極	中央・基部	完成品の断片
27	18,19	115	溝2・第2層	86.5	43.6	15.7	69.1	—	内凸形	中央・量面	両面	非極	尖端・中央部	
27	18,19	116	第4層	67.7	35.7	14.9	45.7	—	内凸形	基礎面	両面	非極	尖端・中央部	
28	18,19	117	溝2・第2層	76.9	48.6	19.4	87.8	—	内凸形	基礎面	両面	非極	尖端・中央部	
28	18,19	118	第4層	82.5	55.0	23.0	98.2	—	内凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
28	18,19	119	第3層	83.1	62.9	149.8	75.0	横形剝片	内凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	

表10 石劍観察表(1)

標識	図版	番号	出土地点・銘柄	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	素材	中央断面	原面	調整	整形	折損	備考
29	18, 19	120	溝2・第2層	176.9	60.2	25.0	250.0	横形削片	両凸形	基部	片面	非極	尖端部	
29	18, 19	121	第3層	132.7	54.2	20.8	128.0	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端部	
30	18, 19	122	溝2・第2層	214.0	76.7	37.2	515.0	石核	不規・三角形	側面・基部	—	非極	×	第1工芸品
31, 32	20	123	溝2・第2層	226.2	96.3	66.1	565.0	横形削片?	両凸形	両端部	両面	非極	×	接合資料
	124	—	溝2・第2層	137.0	54.6	18.6	140.0	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	125	—	溝2・第2層	133.9	64.1	24.6	180.0	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	126	—	溝2・第2層	109.6	65.6	30.4	155.0	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	127	—	溝2・第2層	116.9	57.4	23.5	120.0	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・中央部	113に類似
	128	—	溝2・第1層	72.6	43.3	16.5	59.4	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・基部	
	129	—	溝2・第2層	114.6	50.2	21.7	115.0	—	両凸形	—	両面	非極	中央・基部	109の尖端削片に類似
	130	—	溝2・第2層	81.6	45.8	16.3	77.1	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	131	—	北側溝	78.5	52.5	22.1	90.7	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・中央部	
	132	—	溝2・第2層	112.6	65.0	25.1	130.0	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・中央部	
	133	—	南側溝	89.7	59.0	24.8	115.0	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	134	—	南側溝	56.6	49.5	17.5	59.5	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・基部	
	135	—	第4層	131.2	65.1	25.6	260.0	横形削片?	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	136	—	溝2・第2層	77.0	44.9	20.0	50.8	—	両凸形	—	両面	非極	中央・基部	108の尖端削片に類似
	137	—	第4層	49.6	35.8	16.8	34.9	—	両凸形	中央	両面	非極	尖端・基部	
	138	—	第4層	60.1	33.5	18.0	27.6	—	両凸形	中央	両面	非極	尖端・中央部	
	139	—	溝2・第2層	80.1	35.0	18.8	50.4	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	140	—	第4層	68.8	33.3	19.5	37.3	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	141	—	溝2・第1層	64.5	32.0	12.3	23.6	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・中央部	
	142	—	第4層	66.5	35.3	18.2	54.8	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・基部	
	143	—	第4層	37.9	31.5	15.3	25.7	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・基部	
	144	—	溝2・第1層	67.5	42.3	12.9	35.0	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	102に類似
	145	—	溝2・第1層	65.9	28.0	12.3	27.0	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・基部	完成品の折損品
	146	—	溝2・第2層	46.4	33.1	12.2	15.6	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	147	—	溝2・第2層	62.2	28.5	18.2	32.1	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・中央部	
	148	—	第4層	45.9	40.3	17.5	37.4	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	149	—	第4層	64.0	37.3	15.8	41.7	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・基部	
	150	—	第4層	61.1	35.7	12.2	24.6	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	151	—	溝2・第2層	47.2	39.6	14.3	28.6	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	152	—	溝2・第2層	65.4	41.5	17.0	48.6	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	153	—	溝2・第2層	49.9	36.9	18.7	39.5	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・基部	
	154	—	溝2・第2層	52.6	33.9	16.2	26.6	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・中央部	
	155	—	第4層	55.9	39.5	19.7	42.8	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・基部	
	156	—	南側溝	47.5	40.7	9.6	23.6	横形削片	平凸形	—	×	非極	尖端・中央部	
	157	—	溝2・第1層	40.5	39.0	10.4	22.9	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・中央部	
	158	—	溝2・第2層	55.7	25.2	15.6	22.9	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・中央部	
	159	—	表採	59.5	41.4	11.5	28.5	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・基部	
	160	—	第4層	42.3	44.3	11.2	23.2	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	161	—	第4層	47.4	28.1	12.0	15.3	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・中央部	
	162	—	第4層	37.1	19.1	10.0	6.4	—	両凸形	—	両面	非極	中央・基部	完成品の折損品
	163	—	第4層	46.2	44.4	13.4	27.8	横形削片	両凸形	—	片面	非極	尖端・中央部	
	164	—	溝2・第2層	45.1	33.0	14.4	15.7	—	両凸形	—	片面	非極	尖端・中央部	
	165	—	溝2・第2層	55.8	26.1	12.8	17.2	—	両凸形	—	両面	非極	中央・基部	
	166	—	溝2・第2層	42.8	27.9	11.6	16.1	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・基部	
	167	—	溝2・第1層	63.0	35.1	12.0	22.5	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・中央部	
	168	—	北側溝	31.4	44.9	11.9	16.4	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・中央部	
	169	—	溝2・第2層	12.4	42.5	21.1	97.1	横形削片?	両凸形	基部	両面	非極	×	
	170	—	溝2・第2層	60.3	44.2	18.6	56.0	—	両凸形	片面	片面	非極	尖端・中央部	
	171	—	溝2・第1層	122.0	37.2	26.6	145.0	石核	両凸形	片面	片面	非極	尖端部	
	172	—	第4層	46.0	47.2	14.1	38.9	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	173	—	溝2・第2層	65.8	39.4	19.1	50.7	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	174	—	溝2・第2層	53.4	37.4	15.0	34.3	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	175	—	溝2・第2層	41.0	34.8	13.7	22.9	横形削片	両凸形	—	両面	非極	尖端・基部	
	176	—	溝2・第2層	126.2	41.8	17.6	100.0	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端部	100通削片に類似
	177	—	溝2・第2層	62.9	29.8	14.4	33.5	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	
	178	—	第5層	48.8	22.0	7.8	8.8	—	両凸形	—	両面	非極	中央・基部	
	179	—	溝2・第2層	91.1	45.0	15.4	82.7	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・中央部	
	180	—	溝2・第2層	96.4	48.4	20.8	97.2	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・中央部	
	181	—	溝2・第2層	59.8	26.8	13.9	26.0	—	両凸形	—	両面	非極	尖端・基部	尖端に近い導出品
	182	—	溝2・第2層	46.1	18.8	9.5	6.2	—	両凸形	—	両面	非極	中央・基部	完成品の折損品

表10 石剣観察表(2)

地図	図版	番号	山土地点・層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	木材	中央断面	原面	調整	整形	折損	備考
183	清2・第2層	39.9	46.1	15.5	35.7	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・基部		
184	清2・第2層	96.4	48.4	20.8	97.2	—	—	両凸形	基部	両面	非極	中央・基部		
185	清2・第2層	57.2	30.5	14.4	35.1	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・中央部	断面に近い季節品	
186	清2・第2層	85.4	38.1	22.1	67.1	—	—	両凸形	片面中央	片面	非極	尖端・中央部		
187	清2・第2層	206.6	70.0	38.7	470.0	石核	—	両凸形	片面全面	片面	非極	×	第1工程品	
188	清2・第2層	57.3	25.7	12.8	21.1	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・基部	尖端部に近い季節品	
189	清2・第2層	35.6	28.1	10.8	8.4	—	—	両凸形	尖端部	両面	非極	中央・基部		
190	清2・第2層	51.7	33.1	8.4	12.3	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・基部	尖端部に近い季節品	
191	清2・第2層	45.5	52.4	14.9	25.7	剥片	—	両凸形	基部	片面	非極	中央・基部	削落かもしれない?	
192	清2・第2層	32.8	46.5	19.5	93.8	—	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部		
193	清2・第2層	117.7	54.4	23.9	141.0	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・中央部		
194	清2・第2層	71.8	49.6	20.0	83.2	—	—	両凸形	基端面	両面	非極	尖端・中央部		
195	清2・第2層	55.9	42.8	11.8	24.9	—	—	両凸形	基端面	両面	非極	尖端・中央部		
196	清2・第2層	83.7	46.6	20.0	70.7	—	—	両凸形	側縁	両面	非極	尖端・中央部		
197	清2・第2層	46.6	38.8	12.2	20.2	横形剥片	—	両凸形	側縁	両面	非極	尖端・中央部		
198	清2・第2層	99.0	47.3	20.2	72.5	—	—	両凸形	尖端面	両面	非極	中央・基部	刃先端部に類似	
199	清2・第2層	88.7	80.5	30.0	175.0	横形剥片	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・中央部		
200	清2・第2層	108.0	40.5	14.9	64.6	—	—	両凸形	尖端面	両面	非極	中央・基部	刃先端部に類似	
201	清2・第2層	62.5	41.8	10.8	38.0	—	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部		
202	清2・第2層	26.4	29.0	14.3	13.0	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・基部		
203	清2・第2層	69.3	49.0	19.2	60.4	—	—	両凸形	基端面	両面	非極	尖端・中央部	113に類似	
204	清2・第2層	92.7	57.5	25.9	141.0	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・基部		
205	清2・第2層	68.1	39.1	14.1	31.2	—	—	両凸形	尖端面	両面	非極	中央・基部	刃先端部に類似	
206	清2・第2層	41.9	35.1	13.2	42.3	—	—	両凸形	基端面	両面	非極	尖端・中央部	108に類似	
207	第4層	59.4	66.5	18.8	81.8	—	—	両凸形	×	両面	非極	中央・基部		
208	清2・第2層	80.0	56.1	20.8	94.0	横形剥片	—	両凸形	基部	片面	非極	尖端・中央部		
209	清2・第2層	44.0	38.0	8.3	16.7	剥片	—	両凸形	×	片面	非極	尖端・中央部		
210	第4層	61.4	41.0	16.6	41.4	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・基部		
211	清2・第2層	89.6	45.9	23.5	71.5	横形剥片	—	両凸形	×	片面	非極	尖端・中央部		
212	清2・第2層	69.5	35.3	18.7	36.1	—	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部		
213	清2・第2層	43.5	36.1	13.1	19.1	—	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部		
214	第4層	58.2	69.1	32.5	140.0	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・基部		
215	清2・第2層	78.5	40.3	14.3	55.1	—	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部	108に類似	
216	清2・第2層	83.2	33.2	16.3	49.1	—	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部		
217	清2・第2層	88.9	55.7	21.2	96.5	—	—	両凸形	基端面	両面	非極	尖端・中央部		
218	清2・第2層	52.4	44.5	11.4	28.9	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・基部		
219	清2・第2層	113.7	41.9	21.3	103.0	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・基部	104に類似	
220	清2・第2層	54.1	36.0	13.9	33.4	—	—	両凸形	基端面	両面	非極	尖端・中央部		
221	清2・第2層	92.3	38.8	15.5	53.2	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・基部		
222	清2・第2層	84.0	83.1	213.5	165.0	—	—	平行四辺形	側縁	両面	非極	尖端・中央部		
223	清2・第2層	111.3	33.3	14.9	67.8	—	—	両凸形	基端面	両面	非極	尖端・中央部		
224	清2・第2層	72.3	56.7	26.8	75.9	—	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部		
225	清2・第2層	57.5	51.3	19.5	81.2	—	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部		
226	清2・第2層	40.4	17.5	9.4	6.0	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・基部	尖端部に近い季節品	
227	清2・第2層	36.0	45.1	13.0	21.4	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・中央部		
228	清2・第2層	64.2	50.0	15.5	63.6	—	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部		
229	第4層	43.3	31.2	15.3	17.9	—	—	両凸形	尖端部	両面	北極	尖端・中央部		
230	清2・第2層	63.2	41.9	12.7	23.0	横形剥片	—	両凸形	×	片面	非極	中央・基部		
231	清2・第2層	45.4	50.2	14.8	31.7	横形剥片	—	両凸形	×	片面	非極	中央・基部		
232	清2・第2層	52.8	45.1	23.4	46.1	—	—	両凸形	×	片面	非極	中央・中央部		
233	清2・第2層	99.5	58.8	21.1	125.0	—	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部		
234	清2・第2層	67.9	32.3	13.1	27.7	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・基部		
235	清2・第1層	29.0	13.7	3.6	1.1	—	—	両凸形	×	両面	非極	中央・基部		
236	清2・第2層	71.9	45.8	20.9	35.0	—	—	両凸形	基部	両面	非極	尖端・中央部		
237	第4層	123.9	49.6	17.9	94.9	横形剥片	—	両凸形	片面縫隙	片面	非極	×		
238	清2・第2層	62.5	36.3	14.0	29.2	—	—	両凸形	×	両面	非極	中央・基部		
239	清2・第2層	55.3	47.4	19.7	59.3	横形剥片	—	両凸形	基部	片面	非極	尖端・中央部		
240	清2・第2層	50.5	46.4	15.9	49.4	横形剥片	—	両凸形	基部	片面	非極	尖端・中央部		
241	清2・第2層	61.8	50.2	10.0	52.9	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・中央部		
242	第4層	43.1	34.8	16.1	17.7	—	—	両凸形	×	両面	非極	尖端・中央部		
243	清2・第2層	44.7	50.0	17.8	35.9	—	—	両凸形	×	両面	非極	中央・基部		
244	清2・第2層	32.1	49.7	11.1	13.3	横形剥片	—	両凸形	×	両面	非極	中央・基部		
245	清2・第1層	33.9	42.3	11.6	22.9	横形剥片	—	両凸形	側縁	片面	非極	尖端・基部		

表10 石刻観察表(3)

掲区	図版	番号	出土地点・位別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重量(kg)	素材	中央断面	表面	調整	整形	折損	備考	
		246	溝2・第1層	40.1	36.7	9.5	14.2	横形削片	西凸形	片面	非極	中央・基部			
		247	土壤2	90.3	51.6	17.0	77.9	—	西凸形	片面・基部	片面	非極	尖端・中央	削れかじれない	
		248	溝2・第1層	68.7	43.3	17.4	40.8	—	西凸形	側縁	両面	非極	尖端	中央部	
		249	溝2・第1層	97.5	40.8	23.8	74.1	—	西凸形	片面	両面	非極	尖端・中央部		
		250	溝2・第2層	150.8	90.8	31.7	326.0	横形削片	西凸形	×	両面	非極	尖端	中央部	
		251	溝2・第5層	111.1	65.1	31.0	198.0	—	西凸形	片面	片面	非極	尖端部		
		252	溝2・第2層	108.1	47.0	17.3	73.5	横形削片	三角形	片面・基部	片面	非極	尖端	中央部	
		253	溝2・第2層	106.0	45.8	26.9	110.0	—	西凸形	片面の尖端	片面	非極	尖端	中央部	
		254	第4層	53.5	34.4	15.4	21.6	—	西凸形	尖端部	両面	非極	中央	基部	
		255	溝2・第2層	54.8	35.4	20.5	42.3	—	西凸形	×	両面	非極	中央	基部	
		256	第4層	49.2	30.3	8.2	12.9	—	西凸形	×	両面	非極	中央	基部	
		257	溝2・第2層	40.9	33.0	14.9	17.1	—	西凸形	×	両面	非極	尖端	基部	
		258	溝2・第1層	38.0	33.3	11.5	12.5	—	西凸形	×	両面	非極	中央	基部	
		259	溝2・第1層	38.9	23.9	9.7	7.0	—	西凸形	×	両面	非極	中央	基部	
		260	第4層	35.1	30.8	6.5	5.0	横形削片	西凸形	×	片面	非極	中央	基部	
		261	第4層	50.2	36.1	11.7	17.8	横形削片	等脚台形	片面中央	片面	非極	中央	基部	
		262	溝2・第2層	50.1	27.9	8.6	9.7	横形削片	西凸形	尖端部	片面	非極	中央	基部	
		263	溝2・第2層	35.5	36.0	9.0	9.2	横形削片	西凸形	×	片面	非極	中央	基部	
		264	溝2・第1層	43.2	33.7	8.6	15.6	—	西凸形	×	両面	非極	尖端	基部	
		265	第4層	62.8	70.3	16.9	99.7	横形削片	西凸形	片面	片面	非極	尖端	中央部	
		266	溝2・第2層	78.6	52.5	26.8	58.6	—	西凸形	尖端部	両面	非極	中央	基部	
		267	溝2・第1層	99.4	50.3	18.3	84.6	横形削片	西凸形	角脚中央	×	両面	尖端	中央部	
		268	溝2・第2層	78.9	35.8	26.5	69.7	—	西凸形	側縁	両面	非極	尖端	中央部	
		269	第4層	127.5	61.1	27.5	121.0	横形削片	西凸形	片面の尖端	両面	非極	尖端	中央部	
		270	第4層	49.9	26.9	46.3	57.2	—	西凸形	基部	両面	非極	尖端	中央部	
		271	溝2・第2層	47.6	37.7	11.5	18.9	堆形片状	西凸形	×	片面	非極	尖端	基部	
		272	溝1	55.1	59.4	24.0	65.4	—	西凸形	片端り	両面	非極	尖端	中央部	
		273	溝2・第2層	95.6	34.6	13.0	41.3	—	西凸形	尖端部	両面	非極	中央	基部	
		274	溝2・第2層	47.3	39.5	29.3	23.9	—	内凸形	片面片端	片面	非極	中央	基部	
		275	第4層	33.6	20.4	7.8	5.4	—	内凸形	×	両面	非極	中央	基部	
		276	溝2・第2層	101.8	70.0	33.5	229.0	—	内凸形	片面片端	両面	非極	尖端	基部	
		277	溝2・第1層	67.8	57.9	26.2	126.0	—	不規則・角形	片面・基部	両面	非極	尖端	中央部	
		278	溝2・第1層	79.3	50.8	14.9	94.7	—	不規則・角形	片面・基部	両面	非極	尖端	中央部	
		279	土壤5	49.9	60.5	21.6	53.9	—	不規則・角形	片面・基部	両面	非極	尖端	中央部	
		280	土壤5	68.1	45.6	13.2	34.7	—	山凸形	片端	両面	非極	中央	基部	
		281	溝2・第1層	49.0	49.9	20.0	56.3	—	西凸形	片面	片面	非極	中央	基部	
		282	溝2・第1層	63.0	34.2	14.7	37.2	横形削片	一角形	片面	非極	尖端	中央部		
		283	第4層	45.6	28.1	14.9	19.7	—	内凸形	基端面	両面	非極	尖端	中央部	
		284	溝2・第2層	47.9	33.6	12.9	24.2	—	不規則・角形	×	両面	非極	尖端	基部	
		285	溝2・第2層	37.2	40.9	14.1	19.3	—	内凸形	基部	両面	非極	尖端	中央部	
		286	溝2・第1層	48.8	37.3	13.4	19.2	—	内凸形	×	両面	非極	中央	基部	
		287	溝2・第1層	43.0	58.4	11.5	35.4	—	西凸形	基端面	両面	非極	尖端	中央部	
		288	第4層	36.9	19.5	10.0	13.9	—	内凸形	×	両面	非極	尖端	中央部	
		289	溝5	55.8	42.8	20.2	62.1	—	内凸形	×	両面	非極	尖端	中央部	
		290	溝2・第2層	34.1	44.8	25.8	46.7	—	山凸形	基礎面	両面	非極	尖端	中央部	
		291	第4層	51.0	31.5	16.0	12.4	—	内凸形	片面片端	片面	非極	尖端	基部	
		292	第4層	31.1	23.0	5.1	4.0	—	山凸形	×	両面	非極	中央	基部	
		293	第4層	43.5	20.5	7.1	6.3	—	内凸形	×	両面	非極	中央	基部	
		294	溝2・第2層	56.3	62.2	23.2	33.9	—	内凸形	片面中央	片面	非極	尖端	基部	
		295	溝2・第1層	43.1	30.0	10.7	13.5	—	内凸形	×	両面	非極	中央	基部	
		296	溝2・第1層	52.5	31.4	10.1	15.5	—	内凸形	×	両面	非極	尖端	基部	
		297	第4層	31.7	24.2	8.6	5.5	—	内凸形	×	両面	非極	中央	基部	
		298	溝2・第2層	47.1	35.0	11.2	19.6	—	内凸形	×	両面	非極	中央	基部	
		299	溝2・第2層	36.6	34.5	6.0	6.2	—	内凸形	×	両面	非極	中央	基部	
		300	溝2・第2層	84.7	39.0	16.3	42.2	—	内凸形	尖端部	両面	非極	中央	基部	
		301	溝2・第2層	188.0	68.4	35.7	440.0	石核	三角形	尖端・基部	両面	非極	×	第1工程品	
		302	第4層	41.5	35.8	15.4	19.0	—	内凸形	×	両面	非極	尖端	中央部	
		303	溝2・第1層	60.8	46.9	15.8	50.4	剥片?	内凸形	片面	非極	尖端	基部		
		304	溝1	59.3	53.1	15.7	42.0	—	内凸形	×	両面	非極	尖端	基部	
		305	第4層	58.0	45.4	13.4	31.1	—	内凸形	×	両面	非極	尖端	基部	
		306	土壤2	79.3	65.0	22.0	76.5	横形削片	内凸形	○	片面	非極	尖端	中央	
		307	土壤2	72.0	44.6	—	—	—	内凸形	×	両面	非極	中央	基部	
		308	溝2・第5層	60.5	35.3	—	11.1	19.4	横形削片?	二角形	×	片面	非極	中央	基部

表10 石刻観察表(4)

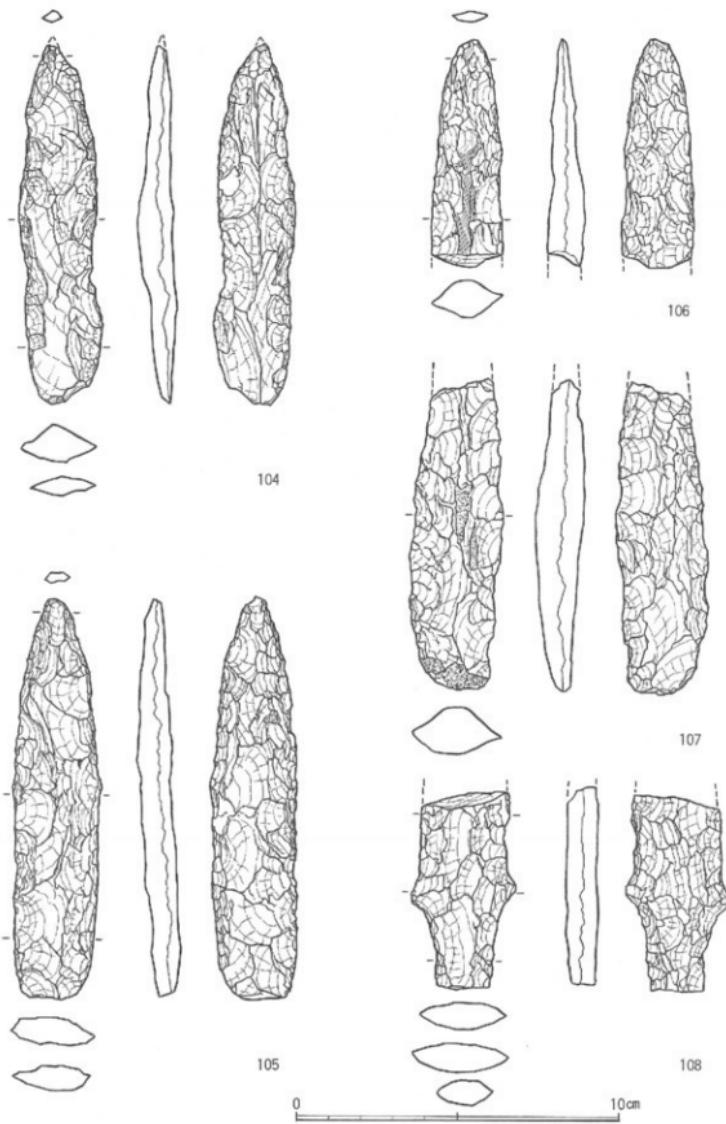
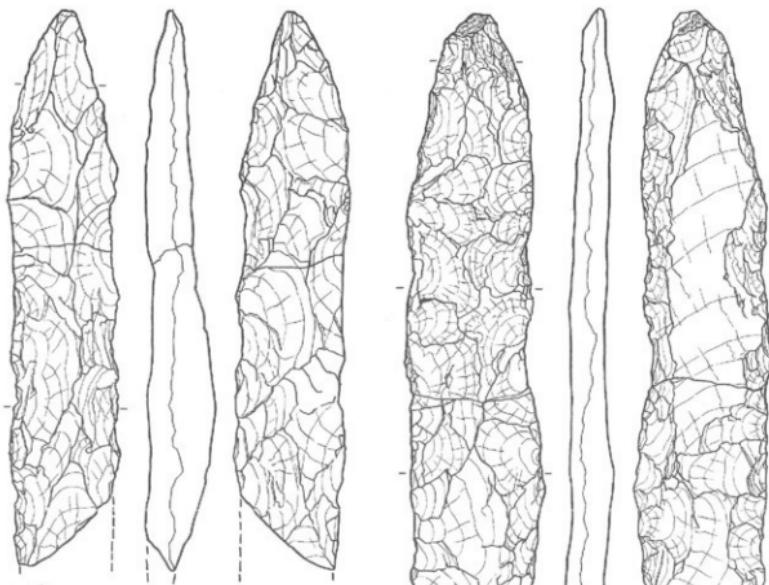
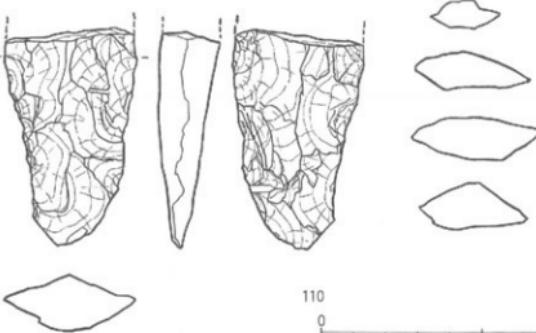


图25 石器(打製石劍)



109



110

10cm

図26 石器(打製石劍)

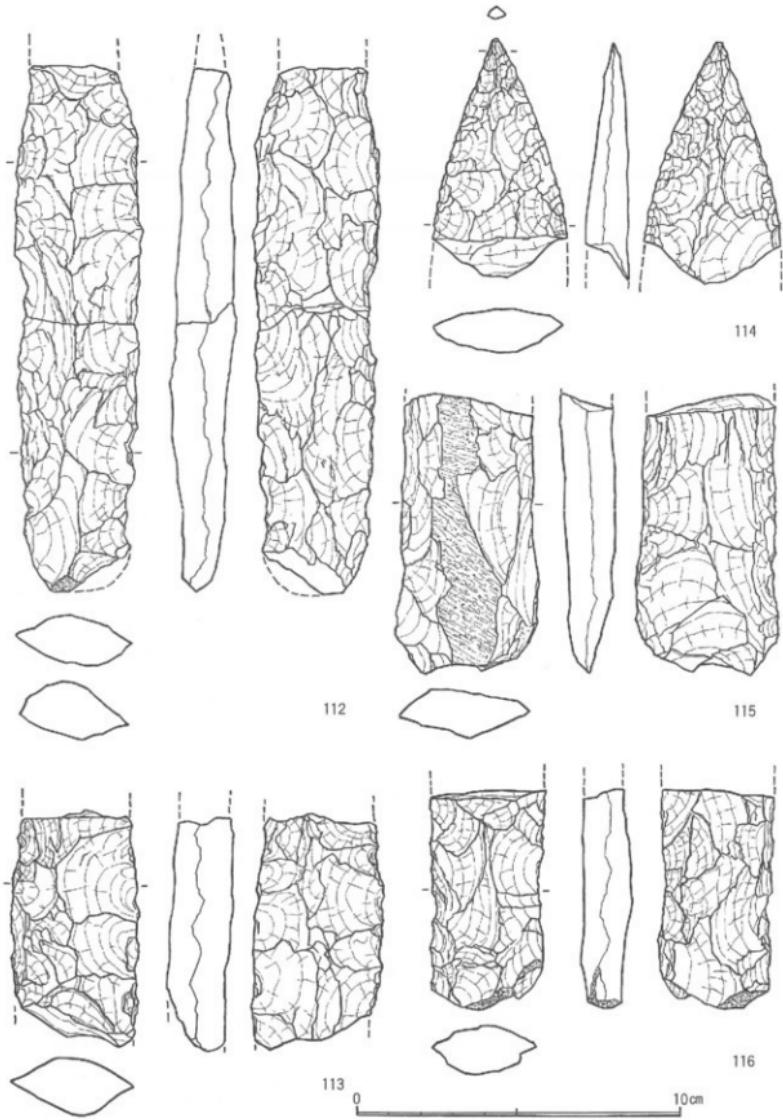
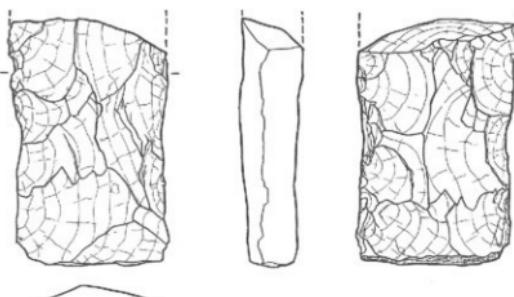
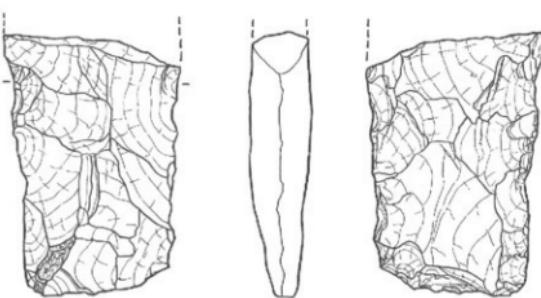


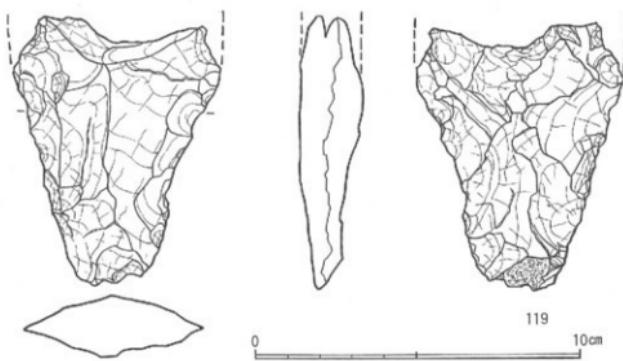
図27 石器(打製石剣)



117



118



119

10cm

図28 石器(打製石剣)

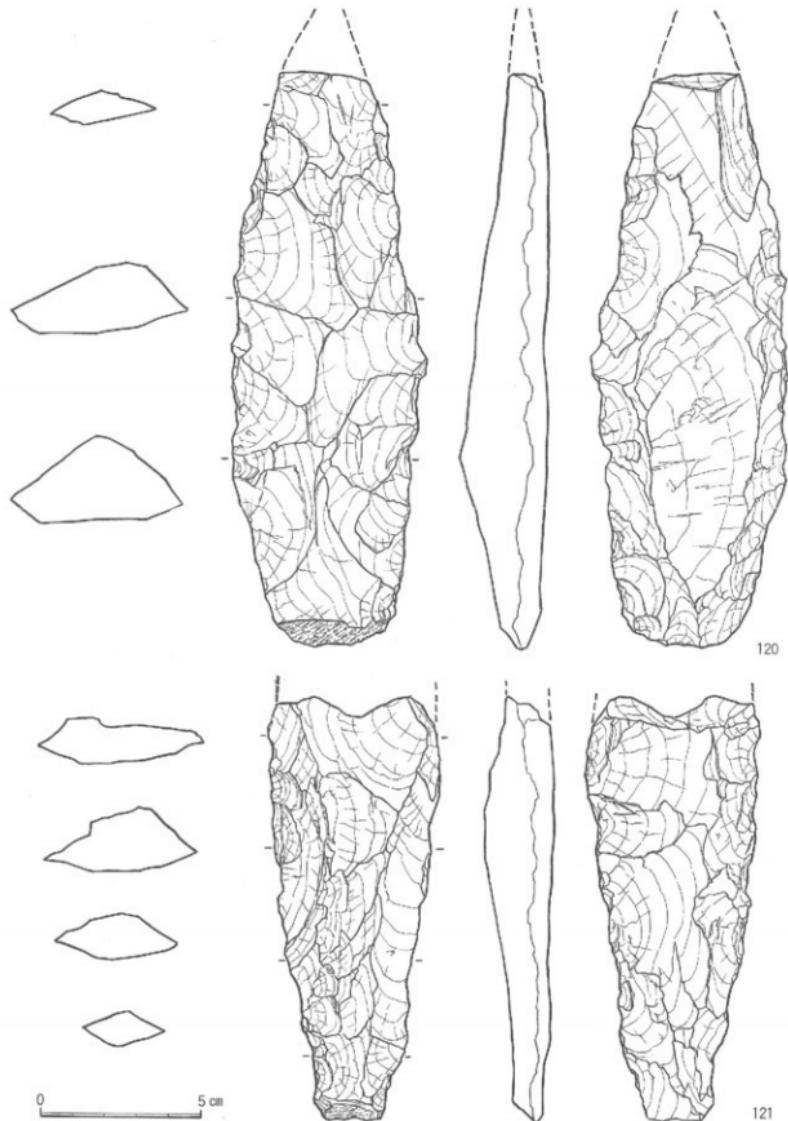


図29 石器(打製石劍)

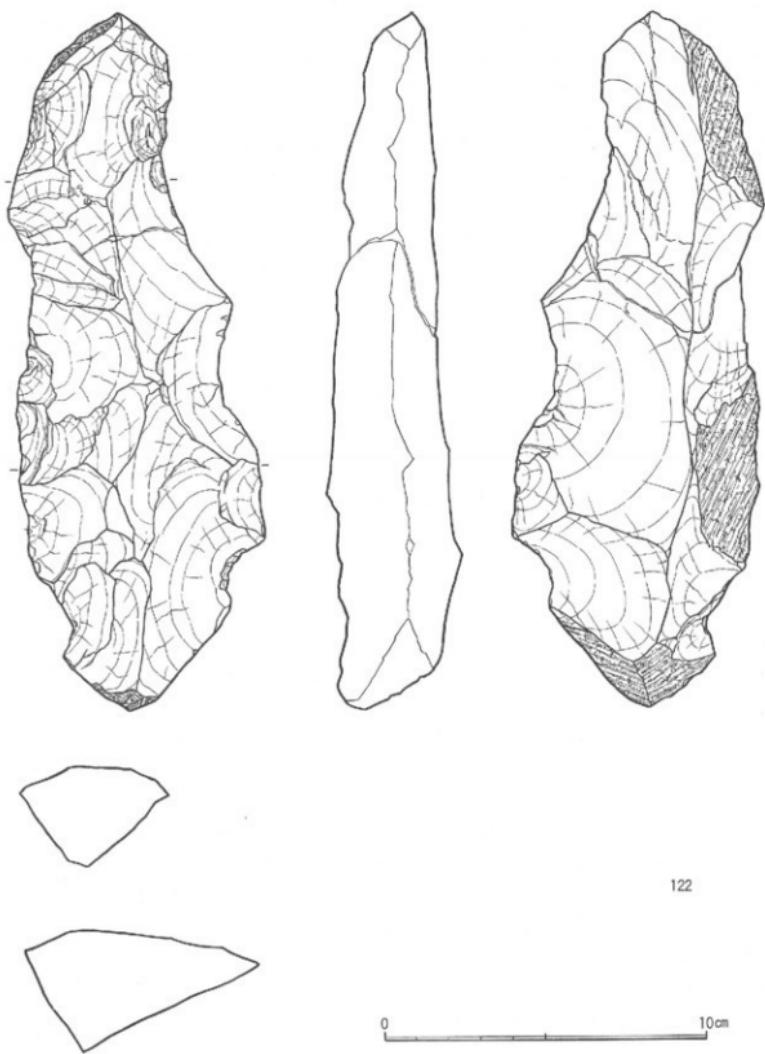


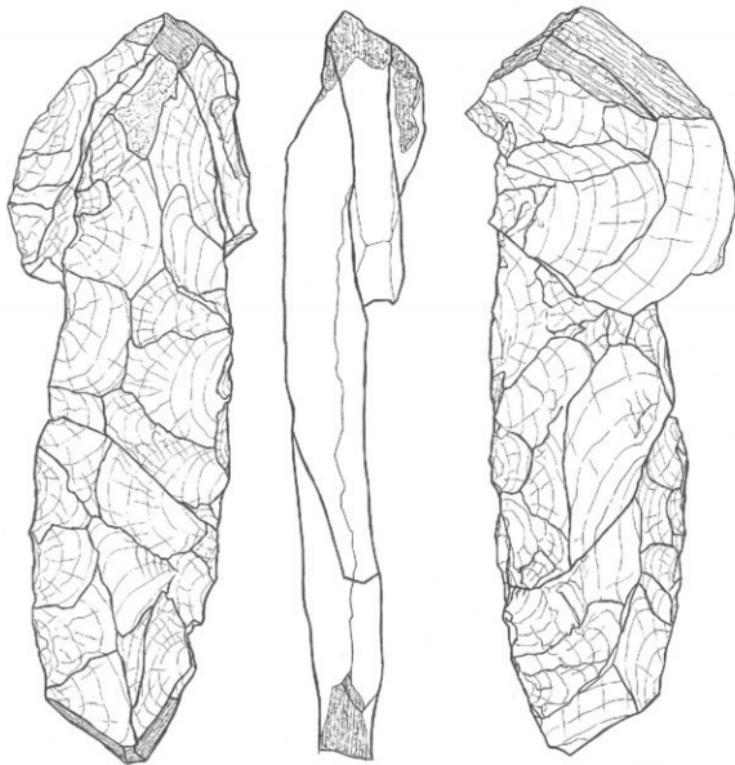
圖30 石器(打製石劍)

打製石剣接合資料（図版20・図31, 32 : 123）

この打製石剣(123)の事故品は両端部と表面の一部に原面を残していることから、その素材はおそらく180mm×120mm×(50mm以上)の周辺側面に原面をもつ平面菱形の板状剝片であったと推測できる。そしてこの板状剝片であったときの主剝離面は(図32 : 123-1, 123-2)の右側の図の原面と隣り合う周辺部の剝離面として残っている。この剝離状況を見ると、この打製石剣の素材を割り取るにあたって、原礫の長さが完成させる打製石剣の長さに生かせるように長軸両端の対角をなす原面の側面を残して削ぎだしていることが観察できる。

素材を削ぎだした後は、まず厚みを減らすことを目的にした剝離をおこなっている。なぜなら素材として厚みの残る部分をいかにうまく取り除くことができるかが最終形態の良し悪しに影響するからである。この打製石剣の場合、素材を削ぎだした時の打面に約50mm以上の厚みがあったことが推測できることから、いかにこの厚みを取り除くかが重要になってくる。そのため、厚みを減らすために素材を削ぎ出した時と同じ打面を次の剝離のための打面にして剝離をおこなっている。それが(123-2)の右側の図の中央下に残る剝離面である。その後、打点位置をずらしながら剝離をおこなっている(123-1)。なお、この剝片(123-1)の打面が原面打面であることから、素材剝片の打面も原面であった可能性が高い。この後、(123-1)と同方向の剝離を同じような目的で数回おこなった後、その時に生じた面を打面にして素材剝片時の打面を取り除く剝離をおこなっている。この剝離によって素材剝片の時にはほぼ三角形であった断面形が凸レンズ状を意識した台形状にまで作り変えられている。さて、対縁側の剝離については残った資料を見る限りでは、素材剝片の主剝離面の先端部を打面にして剝離をおこない、凸レンズを意識しながら厚みを減らしていっている。(123-2)の左側の図の左縁に残る数枚の剝離面がそれにあたる。これらの剝離と前述の剝離(素材の打面側の剝離)の先後関係は、(123-2)に残された先端面の剝離面からみて、これらの剝離の方が後でおこなわれたと推測できる。この後、これらの剝離面を打面にして大きく厚みを取り除く剝離がおこなわれている。(123-2)の剝片がそれである。この剝片は最大長77.4mm、最大幅98.1mm、最大厚31.9mmを測る横形剝片で先端部は折れている。打面の平面形は三角形状で、打面縁部は凸形を呈す。打面幅90.6mm、打面厚25.0mmを測り、打撃角は140度で、打面は主剝離面側に傾斜している。打点位置は左寄りである。バルブはやや発達し、フィッシャーも明瞭に認められる。この剝離の結果、原面がかなりの範囲で取り除かれている。この剝離と前後して、同じように大きく厚みを取り除く剝離がおこなわれている。切り合い関係がないので先後関係は不明であるが、(123-4)の右側の図の右下に認められる剝離面とそれに続く(123-3b)の右側の図の右上の剝離面がそれである。これらの大刻み厚みを取り除く剝離はともに素材剝片の先端側を打面に、主剝離面を作業面にしておこなわれている。これらの剝離の後、このような大きく厚みを取り除く剝離はおこなわれていない。打製石剣の周縁に残る剝離面は長くても最大長30mm程度であることから、平面形態を整えることに比重をおきながら、厚みを減らす剝離をおこなっていると推測できる。

この段階になるとすでに全体の平面形態も打製石剣としてかなり整いはじめている。断面形も両凸レンズ状に近づき、尖端部が作りだされ、基端面を除いて周縁部に平坦面が認められなくなる。(123-4)+(123-3a)+(123-3b)がそれである。この後の剝離は縁部を叩いて裏面側に、主剝離面の内湾する薄身の剝片を削いで、厚さと幅を減少させていかなければならない。そうしないと厚さが減少せず、幅だけが減少するだけでなく、周縁部に再び平坦面を作り出してしまいうからである。そ



123



図31 石器(打製石剣接合資料ーその1)

んな剝離の一つに(123-3a)の剝離がある。(123)の右側の図の左下の3面が接合する部分で、縁部にきわめて近い場所を打面にして、引っかけるように裏面側の剝片を剥いでいる。この剝離は両凸レンズ状の断面形を作り出すことを目的にしたため、主剝離面を大きく内湾させるようにおこなっている。それについては目的どおり断面両凸レンズ状で、幅と厚みを同時に減らす剝離であったが、先端縁部を予定より取り込みすぎて、いわゆるウットルバセのものになっている。さらに重大な失敗はこの剝離と同時に(123-3b)も取り去られてしまったことである。このことによってこの打製石剣の製作が放棄される結果になってしまったのである。(123-3a)は大きさが最大長58.6mm、最大幅108.0mm、最大厚20.8mmを測る横形剝片である。打面の平面形は四角形状で打面幅19.8mm、打面厚5.7mmを測る。打面は調整打面で口唇状を呈している。打点位置はほぼ中央にある。(123-3b)は大きさが現存最大長38.3mm、最大幅73.0mm、最大厚13.1mmを測る。(123-3a)の剥ぎだし時に同時に取れたため打点はない。(123)の打製石剣はここまで製作されただけであるが、これよりさらに製作が進んだ例の接合資料として(図26: 109, 111)がある。(109)は全体が残っていないが、(111)は完成間近まで剝離が進んでいたが、サスカイトに含まれた白色の不純物が打撃の際の傷になって折れたため製作が放棄されたらしい。この打製石剣には素材が横形剝片であったことを推測させる大きな剝離面が尖端部近くに認められ、また、両端には原面が残されたままである。

さて、今回の調査では以上のように打製石剣の製作工程を連続的に復元できる資料を得ることができたが、さらに注目すべきものとして打製石剣の製作中に生じる特殊な剝片をあげることができる。例えば(123-3a)がそれにあたるが、これに類似する剝片だけでなく、さらに製作が進んだ段階で生じるものなどたくさん出土している。これについては検討しなければならない問題が多くあるが、ここでは整理の都合上、中間報告として代表的な例を紹介するにとどめる。

打製石剣の製作で生じる剝片（図版21・図33）

(123-3a)は打製石剣の製作工程から考えると先端縁部を取り込みすぎて、いわゆるウットルバセになってしまい失敗した例であるが、他の例でみると打面部の形態、先行剝離面の状況、主剝離面の内湾状況は(123-3a)と類似していても先端部がフェザーに終わり、剝離が成功したと考えられるものも認められる。これらは剝片としては大きいことから、打製石剣の製作工程から考えると初期の段階の剝片と推測できる。これらの他に大きさがもう少し小さく、作業工程から考えると(123-3a)の次の段階で生じる剝片と思われるものがある。(図33: 625~628)がそれである。これらの剝片は基本的には(123-3a)と類似する。すなわち、剥ぎ取られた打面の縦断面形は底が突き出したようになり、口唇状と呼ばれる形態になる。また、これらの剝片の先行剝離面は打製石剣の調整途中の器表面が取り込まれるために複数認められ、それらの剝離方向は主剝離面と同方向だけでなく、相対する方向や斜方向なども認められるという特徴がある。さらに重要な特徴としては、この剝片が断面両凸レンズ状を生み出すためになされていることから、主剝離面が内湾することをあげることができる。これらの剝片は「ポイントフレイク」と呼ばれている。このような特徴をもつ剝片である(625~627)を典型的なポイントフレイクとしてあげができるが、このほかに打面形態が口唇状を呈さないものの、主剝離面が大きく内湾し、複数の先行剝離面の認められるもの(628)もある。この種の剝片は打製石剣の断面形が両凸レンズ状の完成された形態になる前の段階、すなわち打製石剣の表面はかなり剝離が進んでいるが、側縁部に平坦面がまだ残されたままのときに、そ

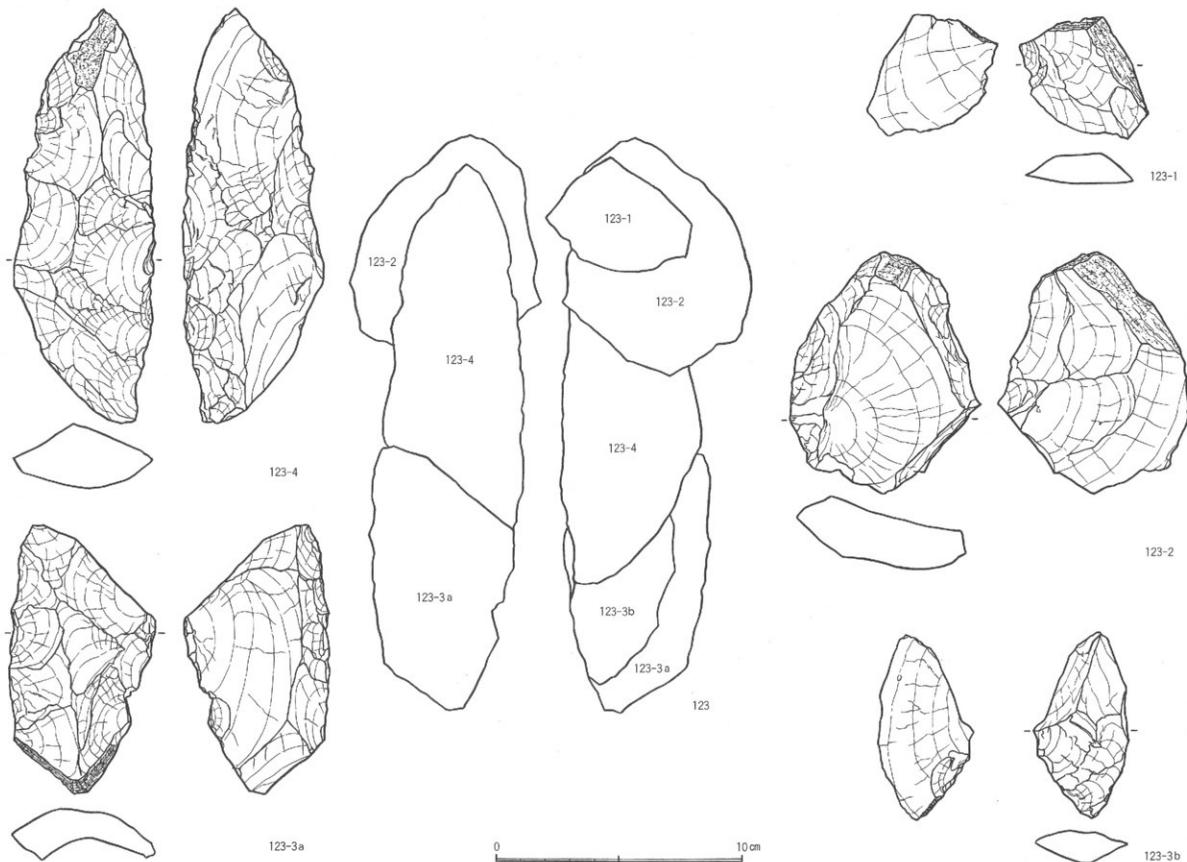


図32 石器(打製石剣の接合資料—その2)

の平坦な垂直面を打面にしてその面を取り除くとともに、表面形態を凸レンズ状に調整しようという意図のもとで剥がされた剝片である。このほか図示できなかったが類似の剝片として、同じような形態を呈しながら、打撃時に事故を起こして打面がハジケ飛んだものもある。これらの剝片はいずれにしても剝片が剥がされたときの打製石剣の完成度の違いが生じさせた差異であって作り手の意識のなかには両凸レンズ状の表面形態をもつ打製石剣を完成させようとする意図を読みとることができる。

さて、以上のように打製石剣から生じる剝片の特徴をみてきたが、ここで問題として残るのは、弥生時代の打製石器が、削器などの一部の石器を除いて、基本的に両面調整の石器で占められ、石器を断面両凸レンズ状にするという意味では、すべて同じ意識のもとで作られていることである。そのため石鎚や石小刀を作るときも、打製石剣を作るときと同じような調整がおこなわれる。その結果、ごく小さな剝片については、それらのうちのどの石器の製作時に剥ぎだされたものか区別がつかないという問題が残されている。しかし、打製石剣が弥生時代の打製石器の中で最も大きな石器であることが、この問題を解決する糸口になる。つまり、打製石剣と他の石器の製作の比較的初期の段階で生じる剝片では、その大きさに違いができるからである。このことを考慮すると、(123-3a, 625~628)で示した剝片の大きさは、石鎚などの小型の石器から剥ぎだされることのない大きさであることから、打製石剣から剥ぎだされたものとして評価できるであろう。

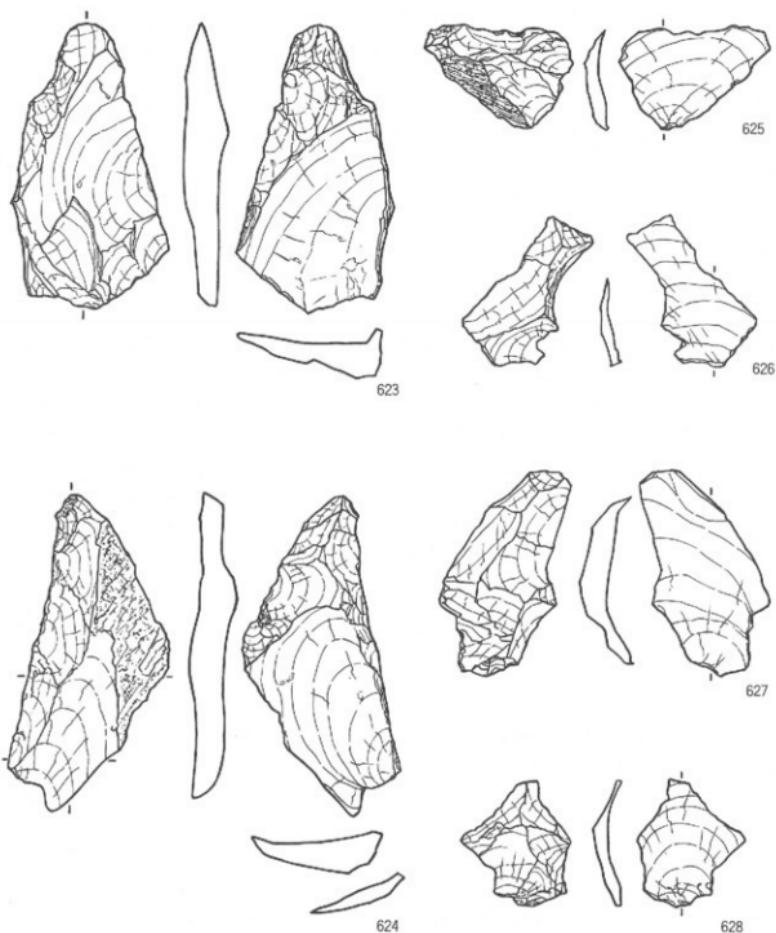
なお、以上の他に打製石剣の製作で生じる剝片として、事故剝片の存在もあげておかなければならない。(623, 624)がそれで、この剝片は尖端刃部の作りだしの際に生じており、尖端部が大きく取り除かれすぎたものである。(623)は最大長45.5mm、最大幅88.5mm、最大厚14.6mm、重量48.9gを測る。打面は剥離面打面で、打面形態は二角形状を呈し、打面幅18.4mm、打面厚2.7mmである。この剝片を生じさせた打製石剣は、断面形がまだ完全な両凸レンズ状にはなっていないらしい。なぜならポイントフレイクと同じように裏面縁部を叩いて、主剥離面の内湾する剝片を剥ぎだしてはいるが、打面側の先行剝離面に平坦面に近い厚みをもつ剝離面が取り込まれているからである。(624)は最大長54.3mm、最大幅98.5mm、最大厚13.5mm、重量37.2gを測る。打面は剥離面打面で、打面形態は不等辺三角形を呈す。打面幅10.2mm、打面厚3.4mmで、打点は左端に認められる。

石核（図版26・図34 : 629）

図示した石核(629)は大きさが140.4×122.2×109.7mmで、重量2640gを測る。角礫で、出土した石核の中では大きい部類になる。作業面は3面ある。他の面はすべて原面でおおわれている。剝離の方向は1面は3方向、1面は2方向、あと1面は1方向である。2方向ある面はこの2方向が切り合ひ関係はない。

剝片（図版26・図34 : 630）

前述したポイントフレイクの他に多量の剝片が出土している。図示した剝片(630)は出土した剝片の中で最も大きい。最大長85.6mm、最大幅223.3mm、最大厚34.6mm、重量442gを測る。打面は剥離面打面で、打面形態は四角形、打面幅83.0mm、打面厚36.8mmを測り、打撃角は130度である。打点は左端に近い位置にある。先行剝離面は1枚で主剥離面と90度転回した方向にあり、打面と先行剝離面の間に原面が残る。この剝片は石核から剥ぎ出される時の事故で垂直割れをおこして捨てられたものが接合した例である。なお、このサイズの大きさがあれば打製石剣の素材として利用できる。



0 10cm

図33 打製石剣の製作で生じた剝片と尖端刃部作りだし時の事故剝片

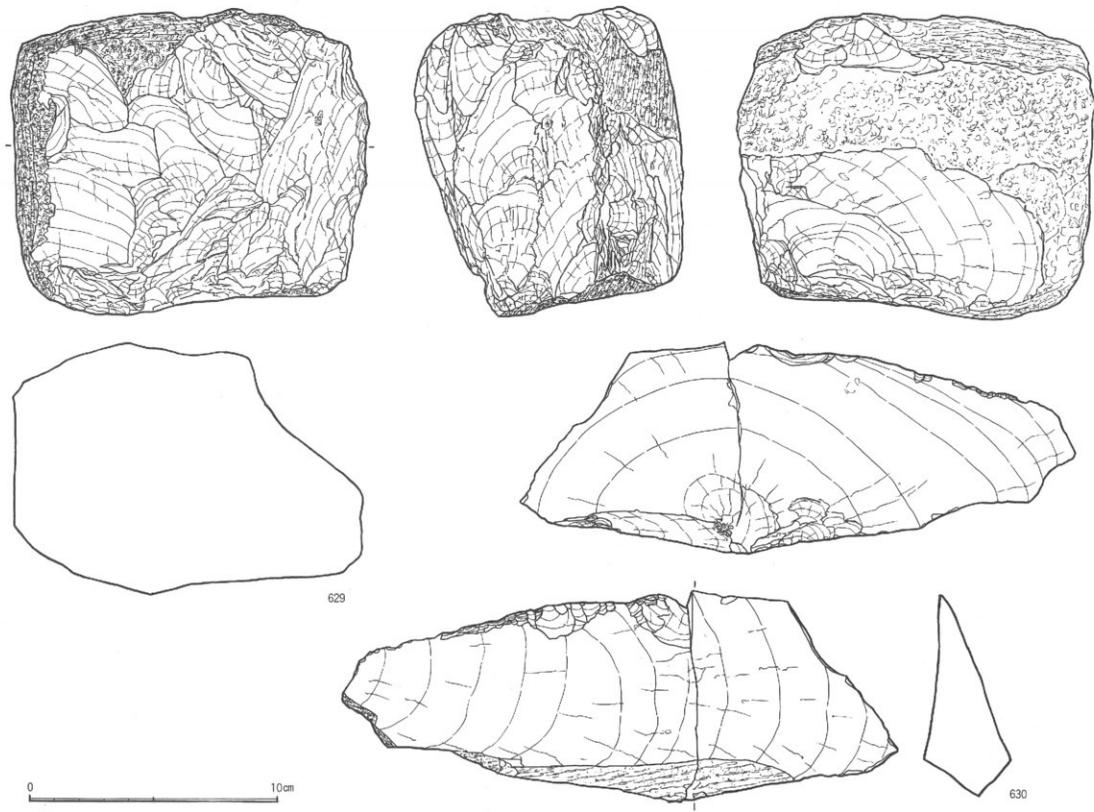


图34 石器(石核と剥片)

石錐（図版22, 23・図35, 36 : 302～323）

細部調整によって錐状に尖った刃部を持つものを右錐と呼ぶ。形態的には刃部とそれに続く頭部とで形作られている。刃部は厚形、極厚形細部調整で作り出されるものが多いが、平形ないしは薄形細部調整で作り出されるものもある。後者は刃部の連続度が高く、長い刃部をもつものが多い。

石錐は45点出土している。石錐の素材は横形剣片が多い。形態を分類すると、頭部と錐部の境界がない棒状のもの(302)、頭部と錐部の境界が不明瞭で、全体の形状が涙滴形を呈するもの(303～310)、頭部と錐部の境界が明瞭なもの(312)、頭部と錐部の境界が明瞭であるが、頭部はほとんど調整が行われず、整形も難で素材面を残しているもの(314～323)がある。なお、(311)は錐部が太いことからベックの範疇に入るかもしれない。使用痕と考えられる錐部側縁の磨滅は(307)のような形態のものに認められることが多い。

なお、個々の石錐の詳細については表11を参照されたい。

序号	図版	番号	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	尖 端			素材	顕	整形	折損	備考
								剣片	断面形	向盤形					
35	21.22	302	溝2・第1層	44.7	10.1	4.3	2.2	鈍	兩凸形	直+直	全縫	×	×	薄面	基部
35	21.22	303	溝2・第2層	63.0	17.5	8.0	—	三角形	直+凸	1/2	劍片	○	薄面	片縫	基部
35	21.22	304	溝2・第1層	53.8	23.0	8.6	8.9	—	兩凸形	凸+5	2/3	横形剣片	○	薄面	尖端
35	21.22	305	溝2・第2層	73.9	24.8	14.6	19.6	—	兩内凸	直+直	1/2	×	○	薄面	尖端
35	21.22	306	溝2・第1層	46.5	30.3	9.7	10.6	鈍	三角形	直+直	1/2	横形剣片	×	阿裏	×
35	21.22	307	溝2・第1層	76.8	25.3	10.6	16.7	鈍	円形	四+四	1/3	横形剣片	×	薄面	尖端
35	21.22	308	溝2・第2層	89.0	28.0	15.7	31.5	—	一角形	直+直	1/3	劍片	○	板表	尖端
35	21.22	309	上横2	59.1	36.1	10.5	28.1	鈍	五角形	凹+直	1/4	剣片	×	薄面	×
35	21.22	310	第4層	66.3	33.2	11.4	23.2	鈍	三角形	直+直	1/3	剣片	○	薄面・片縫	尖端
35	21.22	311	溝2・第2層	96.3	34.3	17.0	46.3	—	圓凸形	四+四	1/2	—	○	薄・厚面	尖端・基部
36	21.22	312	溝2・第1層	39.6	16.3	5.7	2.1	鈍	兩凸形	直+直	2/3	—	○	薄面	×
36	21.22	313	第4層	26.8	7.0	0.8	1.1	鈍	兩凸形	直+直	全縫?	—	×	薄面	基部
36	21.22	314	第5層	45.2	22.8	8.5	7.7	鈍	三角形	凹+凹	1/2	横形剣片	○	薄面	×
36	21.22	315	溝2・第1層	43.7	25.3	10.7	8.3	鈍	三角形	凹+凹	1/2	横形剣片	○	板表	×
36	21.22	316	溝2・第1層	31.7	24.9	4.1	2.8	—	圓凸形	四+四	1/2	横形剣片	×	板表	×
36	21.22	317	溝2・第2層	37.2	29.5	5.6	5.7	鈍	三角形	凹+凸	1/2	横形剣片	○	薄面	×
36	21.22	318	溝2・第1層	36.4	37.2	9.1	9.0	—	円形	凹+凹	2/3	横形剣片	○	薄面	尖端
36	21.22	319	第5層	48.6	26.3	11.3	7.7	鈍	六角形	四+四	1/2	劍片	○	薄面	尖端
36	21.22	320	溝2・第4層	60.1	31.0	8.9	14.9	鈍	五角形	凹+凹	1/2	横形剣片	○	薄面	×
36	21.22	321	溝2・第2層	50.5	38.4	13.0	22.9	—	圓凸形	四+四	1/2	—	×	薄面	尖端
36	21.22	322	溝2・第2層	59.3	39.4	11.9	18.6	鈍	兩凸形	凹+凹	1/2	横形剣片	×	薄面	尖端・基部
36	21.22	323	溝2・第1層	67.6	43.5	11.1	20.7	—	四角形	直+直	1/2	横形剣片	○	板表	尖端
334	第4層	71.1	30.9	11.8	18.5	鈍	兩凸形	S+凸	1/8	—	○	薄面	×		
325	溝2・第1層	47.6	48.0	7.6	20.7	—	三角形	直+直	1/2	横形剣片	○	薄・玄蕃片縫	尖端		
326	溝2・第1層	45.4	27.8	9.2	13.3	鈍	一角形	凹+凸	1/3	横形剣片	○	薄面・片縫	×		
327	溝2・第2層	57.1	36.8	20.2	34.1	鈍	三角形	凸+凹	1/3	横形剣片	○	薄面	×		
328	溝2・第4層	74.0	28.7	11.7	25.5	鈍	四角形	四+S	1/3	劍片	○	板表	倒縫		
329	上横2	36.9	27.4	8.1	8.6	鈍	三角形	四+四	1/2	横形剣片	○	板表	×		
330	第4層	77.1	33.3	14.1	26.8	—	三角形	凸+凸	1/2	横形剣片	×	厚・波曲片縫	尖端		
331	第4層	48.1	45.7	46.4	28.2	—	五角形	凹+四	2/3	横形剣片	×	板表	尖端		
332	溝2・第2層	53.6	29.2	8.1	12.0	鈍	三角形	凸+凸	1/4	横形剣片	○	薄表	×		
333	第4層	59.0	37.0	20.8	31.6	鈍	台形	四+四	1/3	劍片	○	薄面・板表	素材の打面は口凹状		
334	第4層	60.2	27.0	14.9	20.5	鈍	三角形	凸+凸	1/2	横形剣片	○	×	素材の主使用刃端隠れ		
335	去探2	36.6	25.7	7.0	3.5	鈍	兩凸形	直+直	2/3	横形剣片	○	薄面	×		
336	溝2・第1層	58.8	17.1	7.5	7.9	鈍	兩凸形	凸+凸	全縫	横形剣片	×	薄面	×		
337	溝2・第1層	44.7	23.5	6.8	7.9	鈍	三角形	凸+直	2/3	横形剣片	×	板表	×		
338	溝2・第1層	20.5	18.1	7.9	2.8	—	二角形	凹+直	—	横形剣片	×	厚表	尖端・基部		
576	溝2・第1層	50.0	41.9	10.6	18.5	—	三角形	直+直	1/2	横形剣片	○	薄面	尖端		
577	溝2・第1層	80.3	42.2	23.6	52.8	鈍	五角形	凸+凹	1/3	劍片	○	厚面	×		
578	溝2・第1層	82.1	39.6	19.6	24.2	鈍	二角形	直+直	1/2	横形剣片	○	×	×		
579	溝2・第1層	61.5	31.0	10.8	15.3	—	三角形	直+直	2/3	横形剣片	○	薄面	尖端		
580	溝2・第2層	71.8	47.5	17.5	50.4	鈍	三角形	四+四	1/3	劍片	○	×	×		
581	第4層	54.3	36.8	7.3	11.1	—	二角形	直+直	1/4	横形剣片	○	薄面	尖端		
582	溝2・第2層	52.8	41.8	11.3	26.2	—	四+四	直+直	1/2	劍片	○	薄面	尖端		
583	溝2・第1層	60.2	43.8	15.2	35.2	鈍	三角形	凹+凹	1/5	—	○	薄面・薄面	×		

表11 石錐観察表

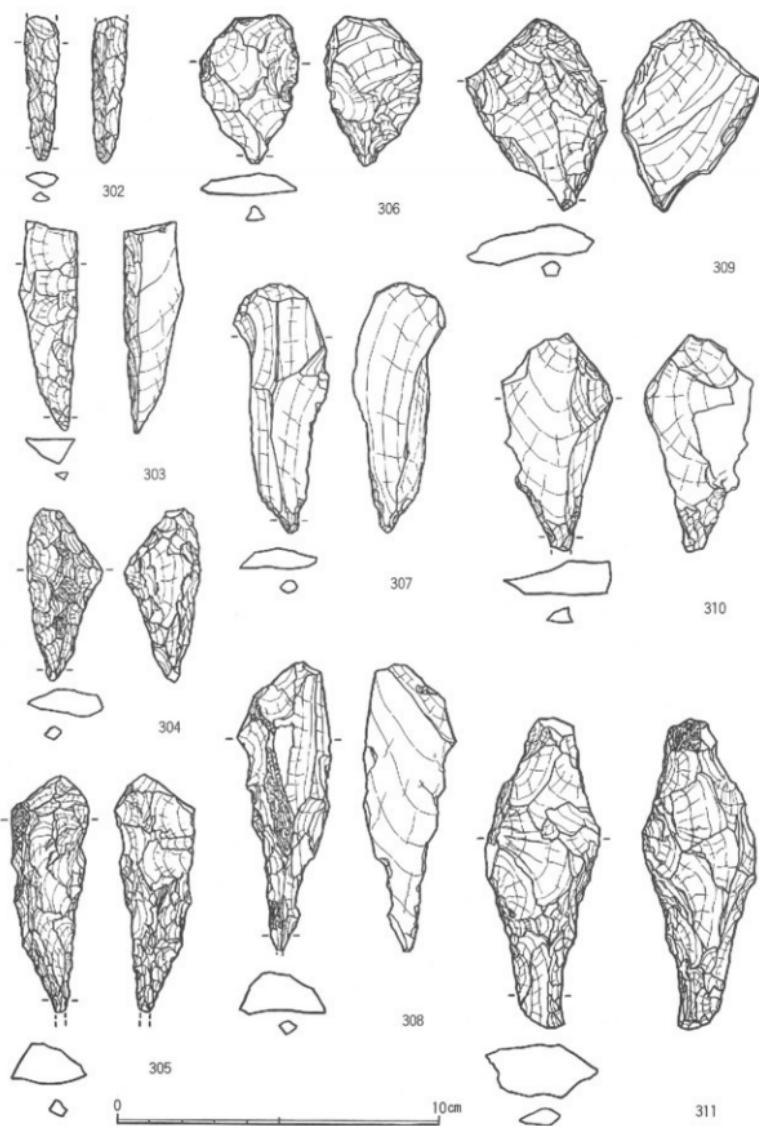


図35 石器(石錐)

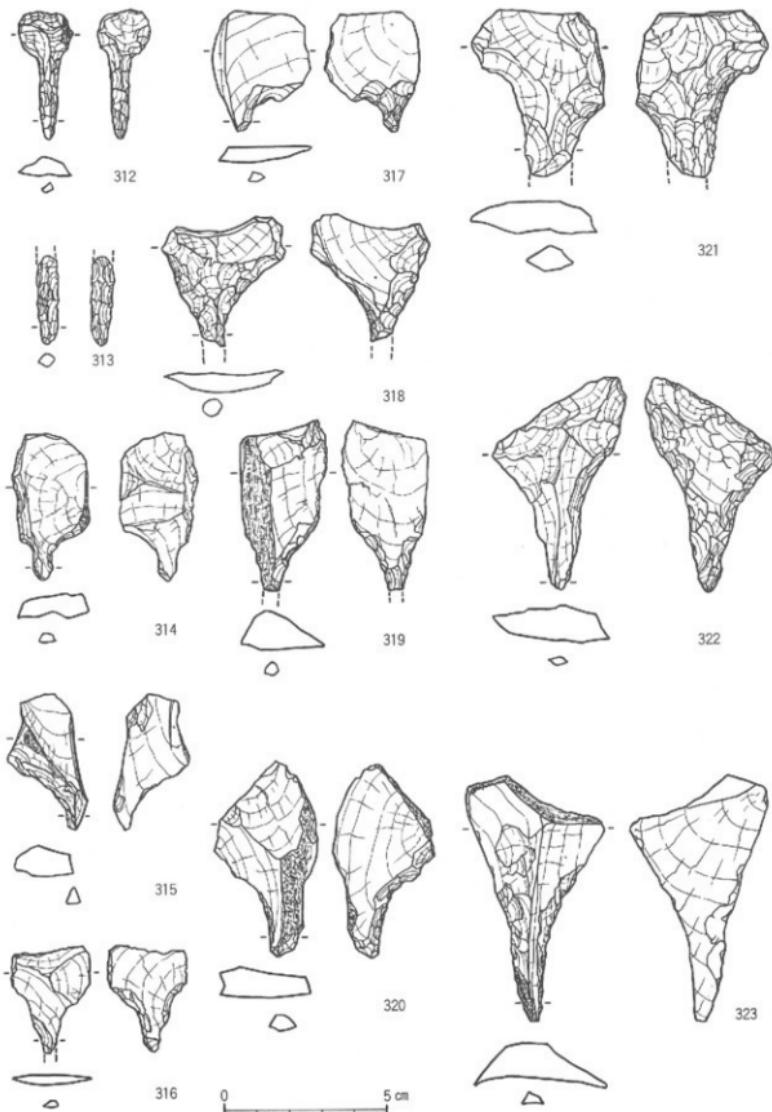


図36 石器(石錐)

辨別	図版	番号	出土地点	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	素材	中央断面	原面	整形	折損	備考
37	23	339	溝2・第1層	87.6	22.9	6.3	12.7	—	両凸形	○ 薄凸	×	中央上縁に突起あり中央で折れているが複合	
37	23	340	第4層	44.4	17.7	5.8	3.4	—	両凸形	× 薄凸	尖端・基部	中央上縁に突起あり	
37	23	341	溝2・第2層	61.9	28.1	11.7	17.6	横形削片	両凸形	○ 薄凸	×	—	
37	23	342	第5層	86.0	51.4	27.5	80.2	—	両凸形	○ 厚裏	×	石逃かもしれない	

表12 石小刀観察表

石小刀（図版24・図37：339～342）

両面調整の尖頭削器で、外湾する刃部と内湾もしくは直線形の刃部を対縁にもつものを石小刀と呼ぶ。（342）は石匙と別に分類しなければいけないかも知れないが、このタイプが1点しか出土していないことと、整形の粗雑さからみて石小刀の製作途中品かもしれないことから便宜上ここに分類しておいた。

石小刀は4点出土している。両面調整が丁寧に施されている（339、340）はともにほぼ中央片側縁（内湾する側）に突起が作り出されている。なお、側縁に研磨が認められるものはない。

なお、個々の石小刀の詳細については表12を参照されたい。

削器（図版24・図37：343）

素材の一辺に連続する細部調整を施して刃部を作りだしたと認められるものを削器と呼ぶ。さらに刃部の数、形状によって以下のように細分する。

1. 複刃削器…2ヶ所以上の刃部が作りだされたもの（343）
2. 凸刃削器…素材削片の剥離軸に平行する側辺に凸状の連続細部調整の施されたもの。
3. 凹刃削器…素材削片の剥離軸に平行する側縁もしくは、直行する先端部に凹状の連続細部調整の施されたもの。
4. 直刃削器…素材削片の剥離軸に平行する側縁に直線状の連続細部調整の施されたもの。
5. 尖頭削器…素材の縁部と先端部とが連続細部調整によって加工され、尖った先端部が作り出されているもの。
6. 横形削器…素材削片の剥離軸に直交する先端部に凸状もしくは直線状の連続細部調整の施されたもの。

削器は223点出土しているが、その内訳は複刃削器が130点、凸刃削器が34点、凹刃削器が24点、直刃削器が25点、尖頭削器が2点、横形削器が8点である。これらのほとんどは削片素材であるが、石核を素材にしたものも認められる。なお、個々の削器についての詳細は表14を参照されたい。

ハンマー（図版24・図37：584）

円形の石核の周囲に認められるものをハンマーと呼ぶ。サヌカイト製のハンマーは4点出土している。形態はすべて扁平な球形を呈し、それらのほぼ周縁全部に敲打痕が認められるが、表面に敲打痕の認められるものはない。なお、個々のハンマーについての詳細は表13を参照されたい。

辨別	図版	番号	出土地点	第1長(mm)	第2長(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	素材	原面	備考
37	23	584	溝2・第2層	51.0	49.4	26.7	78.9	石核	○	原面は周縁部にある
		585	溝2・第2層	60.2	55.0	21.6	100.0	石核	○	原面は片面と周縁部にある
		586	溝2・第2層	52.5	48.7	20.7	65.2	石核	×	—
		587	溝2・第1層	43.3	39.2	27.3	45.2	石核	○	—

表13 ハンマー観察表

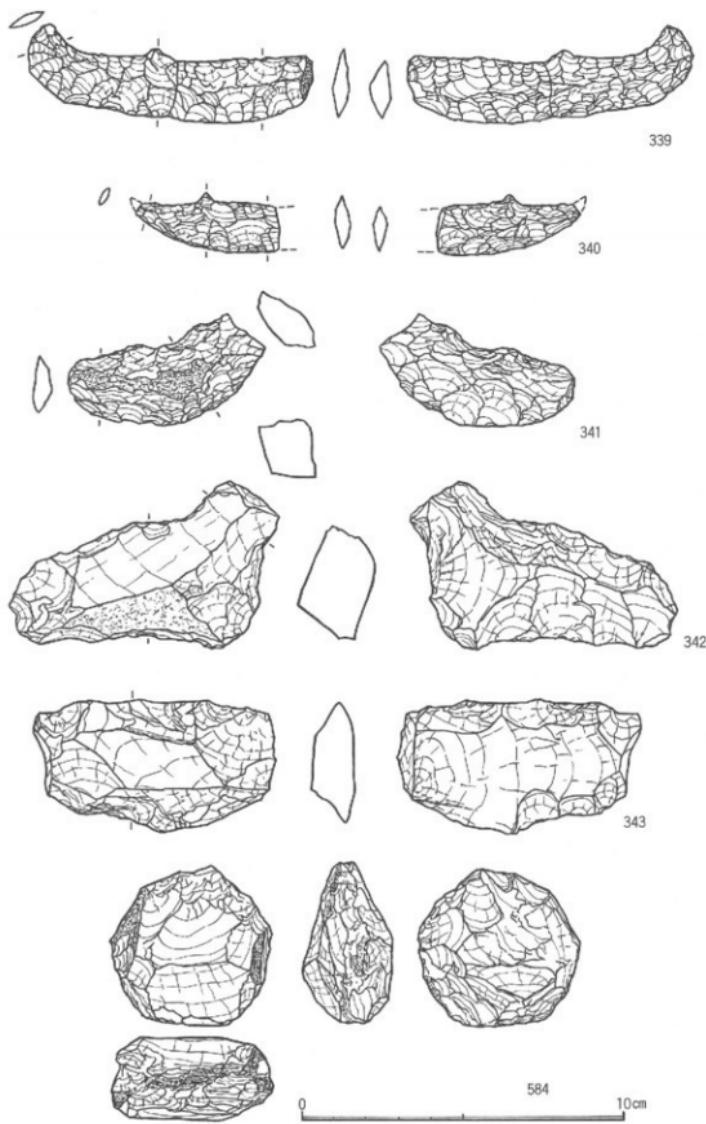


図37 石器(石小刀、削器、ハンマー)

編	號	刀部形式	出土地点	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	素材	中央断面	輪	刀部形式(1)	刀部形式(2)	刀部形式(3)	備考	
37	23	複刃削器 第2	溝2・第2層	75.2	41.5	14.3	52.8	銅片	台形	×	薄深凸凹	薄深s両		素材は垂直割れの右縁の銅片	
	343	複刃削器 第1	溝1	61.5	76.3	18.4	78.4	楔形削片	平行四邊形	×	厚深直裏	薄深s両	厚深裏s		
	345	複刃削器 第1	溝2・第1層	39.9	53.5	9.0	15.5	楔形削片	両凸形	×	薄深s両	薄深凸凹	厚深凹凸		
	346	複刃削器 ビット111	49.6	44.0	15.7	38.6	銅片	両凸形	○	薄深両凸	厚深両凸	薄深(侵)両凸	全体の形は円形		
	347	複刃削器 第4層	42.5	43.1	11.6	26.2	楔形削片	台形	○	極厚深裏凹	極厚深裏凹・ 平行表凸				
	348	複刃削器 第2	溝2・第2層	47.2	51.6	12.1	38.6	楔形削片	半凸形	○	薄深両凹	薄深表裏片 扁凸		全体の形は円形	
	349	複刃削器 第4層	29.4	58.6	9.2	15.0	楔形削片	両凸形	○	薄深両凸	厚深表凹		右縁の木製品の可能性もある		
	350	複刃削器 第2	溝2・第2層	49.5	54.6	11.2	34.6	楔形削片	四角形	○	極厚深裏凹	厚深裏凸・ 平行表凸			
	351	複刃削器 第4層	63.6	43.5	8.4	16.6	銅片	合形	×	薄深両凸	薄深両凸				
	352	複刃削器 第4層	47.7	45.9	11.9	15.1	銅片	不等辺三 角形	○	薄深裏s	厚深表s		サヌカイトに斑紋が 認められる		
	353	複刃削器 第4層	37.4	44.9	8.4	10.2	楔形削片	四角形	○	薄深裏凹	薄深裏凹	厚浅裏凸	右縁かもしれない		
	354	複刃削器 第2	溝2・第2層	43.8	42.1	8.6	15.9	銅片	四角形	○	薄深両凸	薄深両凸			
	355	複刃削器 第2	溝2・第1層	20.0	36.5	6.9	4.3	楔形削片	不等辺二 角形	×	薄深裏凸	極厚深裏凹・ 薄深表凹		右縁の木製品の可能性もある	
	356	複刃削器 第4層	25.8	59.7	11.1	12.1	楔形削片	四角形	○	薄深両直	厚浅裏凹		右縁の木製品の可能性もある		
	357	複刃削器 第2	溝2・第2層	48.1	70.5	14.5	38.2	楔形削片	四角形	×	極厚深直裏	厚浅裏s			
	358	複刃削器 第2	溝2・第1層	62.1	48.9	15.7	41.8	楔形削片	四角形	×	薄深凸両	厚深凹両			
	359	複刃削器 第2	溝2・第1層	45.9	47.0	10.4	20.1	楔形削片	両凸形	○	薄深凸両	薄深凸両			
	360	複刃削器 第2	溝2・第2層	75.1	63.4	26.0	76.7	銅片	三角形	○	薄深凹両	薄深直裏			
	361	複刃削器 第2	溝2・第1層	54.6	49.6	11.8	27.9	銅片	三角形	×	薄深凸裏	薄深凸両			
	362	複刃削器 第2	溝2・第1層	67.6	67.3	11.9	47.7	楔形削片	不等辺三 角形	○	薄深直表	厚深凹表			
	363	複刃削器 第4層	40.7	51.2	19.6	23.6	楔形削片	不等辺三 角形	○	薄深直凹	薄深直表裏 片縫				
	364	複刃削器 第4層	45.9	73.0	10.0	34.8	楔形削片	不等辺三 角形	×	厚深s裏	極厚凹表				
	365	複刃削器 第4層	56.0	48.7	17.4	42.7	銅片	四角形	○	薄深凹裏	薄深凸裏				
	366	複刃削器 第2	溝2・第1層	51.2	40.6	12.2	25.5	銅片	四角形	○	厚深凹表	極厚深凸表			
	367	複刃削器 第2	溝2・第2層	129.7	84.3	17.4	180.0	銅片	四角形	○	薄深直両	薄深凸表			
	368	複刃削器 第2	溝2・第1層	36.1	47.5	13.0	35.8	銅片	四角形	○	薄深(侵)両凸	厚深s表	厚深凹凸表		
	369	複刃削器 第2	溝2・第2層	47.3	70.9	15.0	42.4	楔形削片	不等辺三 角形	○	極厚深凹裏	薄深s裏			
	370	複刃削器 第4層	59.3	51.5	12.5	31.1	銅片	不等辺三 角形	○	薄深直両	厚深直裏				
	371	複刃削器 第4層	40.6	52.4	13.1	22.3	楔形削片	不等辺三 角形	×	薄深s両	極厚(侵)直裏				
	372	複刃削器 第2	溝2・第1層	42.7	40.1	12.2	13.6	銅片	不等辺三 角形	×	厚深凹裏	薄深明裏			
	373	複刃削器 第4層	44.6	41.6	9.8	16.2	銅片	不等辺三 角形	○	厚深凹表	厚深凸裏	厚深s裏			
	374	複刃削器 第2	溝2・第1層	36.9	33.2	10.3	11.8	銅片	不等辺三 角形	○	薄深s両	薄深直両			

表14 削器観察表(1)

編	順	番号	刃部形式	出土地点	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (kg)	素材	中央断面	輪	刃部形式(1)	刃部形式(2)	刃部形式(3)	備考
	375	複刃削器	第4層		34.4	35.8	13.7	13.6	剥片	不等辺二 角形	×	極厚直表	厚深凸表		
	376	複刃削器	層2・第2 層		69.9	78.5	25.3	93.5	楕形剥片	四角形	○	薄深凹裏	極厚深弧内 表	薄深凹表	
	377	複刃削器	第4層		65.7	65.8	21.4	83.7	楕形剥片	四角形	○	極厚(厚)深 凹裏	厚深凸裏・ 薄深凸裏		
	378	複刃削器	層2・第2 層		92.5	56.6	21.2	123.0	剥片	四角形	○	薄深(侵)直 裏	厚深直裏		
	379	複刃削器	第4層		49.6	40.1	10.5	27.9	剥片	不等辺三 角形	○	極厚深凹表	薄侵凸表		
	380	複刃削器	層2・第1 層		51.5	66.2	13.0	36.9	楕形剥片	台形	×	薄深直裏	薄侵直表		
	381	複刃削器	層2・第1 層		43.9	45.0	10.6	19.4	楕形剥片	不等辺三 角形	×	薄深凸向	薄深凸表		
	382	複刃削器	層2・第1 層		37.6	34.4	12.5	16.9	剥片	両凸形	×	薄深凸裏	薄深s面	厚深s面	
	383	複刃削器	層2・第1 層		46.6	35.9	12.7	26.9	剥片	四角形	×	薄侵凸裏	薄深直裏	薄深s裏・ 極厚深s表	
	384	複刃削器	土壞2		44.2	49.3	11.3	23.5	楕形剥片	両凸形	×	薄深(延)凸 裏	極厚深凸向・ 薄深凸裏	薄深凹裏	
	385	複刃削器	第4層		44.0	41.7	9.0	14.6	剥片	両凸形	○	薄深直表裏 片縫	極厚深凹表	薄深s裏	
	386	複刃削器	層2・第1 層		56.2	84.6	20.3	88.8	楕形剥片	不等辺三 角形	○	極厚深s裏	薄深凸向		
	387	複刃削器	層2・第2 層		61.1	67.3	17.8	63.4	楕形剥片	四角形	○	薄深(侵)凸 裏	極厚深凹表	厚深直裏・ 薄深直表	
	388	複刃削器	第4層		64.6	44.7	15.6	32.8	剥片	四角形	○	薄深凹表裏 片縫	厚深凹表		
	389	複刃削器	第4層		35.3	46.3	10.2	15.9	楕形剥片	不等辺三 角形	×	厚深凹裏	薄深凹裏	厚深凸裏	
	390	複刃削器	層2・第2 層		69.0	47.0	25.3	61.8	剥片*	不等辺二 角形	○	薄深凸裏	薄深s内		
	391	複刃削器	第4層		34.5	49.2	10.3	12.7	剥片?	二角形	×	薄深(侵)直 表	極厚深凸表		
	392	複刃削器	層2・第2 層		61.2	58.3	19.2	50.6	楕形剥片	四角形	×	厚深s裏	平深直表	薄深凸向	
	393	複刃削器	層2・第1 層		34.5	55.3	16.0	27.4	楕形剥片	両凸形	×	薄深凹裏	薄深(延)凸 裏		
	394	複刃削器	層2・第1 層		46.4	46.8	10.3	17.0	楕形剥片	両凸形	×	薄深凸裏	薄深凹向		
	395	複刃削器	層2・第1 層		46.3	50.8	14.9	43.1	剥片	不等辺二 角形	○	薄深凸向	薄深直裏		
	396	複刃削器	層2・第2 層		53.6	34.6	7.4	14.7	剥片	円形	○	薄深凸裏	薄深凸裏		
	397	複刃削器	層2・第2 層		85.0	66.6	24.2	157.0	剥片	四角形	○	厚深凸裏	薄深s表	厚深凸向	
	398	複刃削器	層2・第1 層		54.2	68.6	11.1	47.6	楕形剥片	不等辺三 角形	○	薄深凹向	薄深凹向	ヒンジの部分も刃部 に加工	
	399	複刃削器	第4層		56.7	67.0	12.7	44.3	楕形剥片	四角形	○	薄深凸向	薄深直表	薄深凹表	
	400	複刃削器	層2・第2 層		73.9	84.4	23.8	94.4	楕形剥片	三角形	○	薄深(侵)凹 裏	薄深s裏	厚深凹裏	
	401	複刃削器	第4層		46.1	71.1	17.8	45.8	楕形剥片?	四角形	×	薄深凹向	厚深(チチ表) 平深s+直裏		
	402	複刃削器	第4層		68.1	88.9	22.5	119.0	楕形剥片	不等辺三 角形	○	厚深(侵)直 表			
	403	複刃削器	第3層		40.9	46.6	9.8	19.7	楕形剥片	四角形	○	薄深凸裏	厚深凸裏		素材はツインバルブ
	404	複刃削器	層2・第1 層		35.1	59.1	8.9	15.5	楕形剥片	両凸形	×	薄深凸向	薄深直裏		
	405	複刃削器	第4層		59.7	68.9	15.6	60.8	楕形剥片	四角形	○	薄深直裏	厚侵凸裏	刃部整形(4)厚深い 凹向	
	406	複刃削器	層2・第2 層		62.6	73.0	17.1	78.6	剥片	四角形	○	薄深凸向	薄侵凸表裏 片縫	厚深直表	

表14 削器観察表(2)

順	番	刀部形	出土地点	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	素材	中央断面	種	刀部形式(1)	刀部形式(2)	刀部形式(3)	備考
	407	複刃削器	第4層	44.1	54.3	22.0	39.0	楕円削片?	四角形	○	薄深凸裏	薄深(侵)直裏		
	408	複刃削器	溝2・第1層	37.9	45.9	11.4	20.7	楕形削片	両凸形	×	薄深凹裏	厚深凸両		
	409	複刃削器	第4層	74.4	61.5	26.7	85.9	削片	不等辺三 角形	○	薄深凸裏	極厚深凹裏	薄深(侵)直裏	
	410	複刃削器	溝2・第2層	43.1	50.2	7.4	16.3	楕形削片	不等辺三 角形	○	薄深s両	薄深凹裏		
	411	複刃削器	溝2・第1層	42.8	57.6	15.0	34.4	楕形削片	不等辺三 角形	○	薄深凸裏	薄深直裏		
	412	複刃削器	溝2・第2層	38.0	41.2	10.8	17.9	楕形削片	四角形	○	薄深両凸	薄深直裏		
	413	複刃削器	第4層	61.3	53.5	14.5	50.8	削片	四角形	○	薄深(侵)凸 両	薄深s裏		
	414	複刃削器	第4層	27.2	61.4	9.4	180.4	楕形削片	不等辺三 角形	○	薄(侵)直裏	厚深s両		
	415	複刃削器	第4層	66.2	56.4	13.0	54.6	石核	平凸形	○	薄深凸両	厚深凸両	薄深s両	刃部整形(4)薄深凸 両
	416	複刃削器	第4層	58.1	30.7	9.0	16.8	削片	不等辺三 角形	○	薄浅凸両	薄深凸裏		
	417	複刃削器	第4層	67.0	44.6	15.6	32.5	石核	四角形	○	薄深凹片面	薄深凸片面		
	418	複刃削器	溝2・第2層	63.5	91.9	17.5	77.5	楕形削片	四角形	○	厚深凹表	厚深凹裏		
	419	複刃削器	溝2・第2層	68.3	47.7	15.0	39.4	削片	両凸形	○	厚深凸表	厚深s表		
	420	複刃削器	第4層	56.7	68.7	18.8	52.3	楕形削片	四角形	×	厚深(侵)裏	厚深(侵)裏		石錐かもしれない
	421	複刃削器	溝2・第1層	48.4	47.4	23.1	36.0	削片?	不等辺三 角形	○	薄深凹裏	平深直裏	厚深s裏	
	422	複刃削器	溝2・第1層	58.9	61.6	24.9	81.4	楕形削片	両凸形	○	薄深凸両	薄侵s両		
	423	複刃削器	溝2・第1層	40.9	30.4	10.2	14.8	削片	不等辺三 角形	○	薄深s表	極厚深凹孤 表		
	424	複刃削器	溝1	49.2	50.9	16.4	38.1	楕円削片?	四角形	○	薄深(侵)両	薄深凹両	薄深凸裏	
	425	複刃削器	溝2・第1層	59.7	58.5	13.2	36.1	楕円削片?	両凸形	×	薄深(侵)s 両	薄深直裏		打製石剣かもしれない
	426	複刃削器	第4層	31.7	62.7	7.6	14.3	楕形削片	不等辺三 角形	×	厚深凹表	薄深裏	厚深直裏	
	427	複刃削器	第4層	43.1	52.5	13.5	27.7	楕形削片	四角形	○	極厚深凸表	厚深凸表	薄深凹裏	
	428	複刃削器	溝2・第2層	62.6	74.0	19.8	73.6	楕形削片	両凸形	○	薄深凸両	薄深(侵)凹 両		
	429	複刃削器	第4層	49.7	56.8	22.1	50.2	楕形削片	両凸形	○	薄深凸裏	薄深凸裏		
	430	複刃削器	第4層	65.5	55.0	13.3	43.0	削片	三角形	○	薄深凸両	薄深s裏		
	431	複刃削器	第4層	83.5	64.0	17.9	91.5	削片	不等辺三 角形	○	薄深直裏	薄深直裏		
	432	複刃削器	第4層	59.0	65.3	10.5	31.8	削片?	両凸形	×	薄深凹表裏 片核	薄深(侵)直 両		
	433	複刃削器	溝2・第2層	22.3	43.4	5.5	5.5	楕形削片	両凸形	×	薄深凸両	薄深凸両		石錐かもしれない
	434	複刃削器	第4層	43.6	53.9	12.8	27.7	楕形削片	両凸形	○	薄深s両	薄深凸両		石小刀かもしれない
	435	複刃削器	第4層	63.2	83.2	26.6	103.0	楕形削片	四角形	○	厚深凹表	厚深凸表	極厚深直裏	
	436	複刃削器	第4層	111.3	76.2	38.7	203.0	削片	不等辺三 角形	○	薄深s裏	厚深s表		
	437	複刃削器	溝2・第2層	81.0	73.5	15.4	75.0	削片?	不等辺三 角形	○	薄深直裏	薄深(侵)s 裏		
	438	複刃削器	溝2・第2層	55.5	62.1	16.5	49.3	楕形削片	四角形	○	薄深凹表	薄侵凸裏・ 厚深凸両		

表14 削器観察表(3)

順	器	番号	刃部形式	出土地点	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	素材	中央断面	種	刃部形式①	刃部形式②	刃部形式③	備考
		439	複刃削器	高2・第1層	55.5	60.7	16.0	63.9	横形削片	四角形	×	薄深直面	薄深s表		
		440	複刃削器	高2・第2層	44.2	60.3	12.0	20.0	横形削片	四角形	×	薄侵直表	薄深s表		石縫かもしれない
		441	複刃削器	第3層	93.6	81.9	20.0	111.0	剥片	三角形	○	薄深凹面	薄深凸裏		
		442	複刃削器	高2・第1層	42.9	27.5	7.8	11.8	剥片	多角形	×	薄深凸表	極厚深(侵)凸表	極厚深凸表	
		443	複刃削器	高2・第1層	48.5	50.7	10.8	21.5	横形削片	両凸形	○	薄深s表	厚深s面		
		444	複刃削器	高2・第1層	53.3	39.4	18.6	42.9	剥片	四角形	○	厚深凸表	薄深(侵)両		
		445	複刃削器	高2・第1層	63.1	61.1	15.0	49.5	剥片	四角形	○	薄深直面	厚深s表		
		446	複刃削器	高2・第2層	68.9	51.2	15.6	55.0	剥片	不等辺三 角形	○	薄侵(?)直 表	薄深直裏		
		447	複刃削器	高2・第2層	47.8	50.2	9.0	19.8	横形削片	両凸形	×	薄深凸面	薄深凸裏		
		448	複刃削器	第4層	50.1	58.4	18.6	76.0	横形削片	両凸形	×	薄深凸面	薄深凸表	厚深凸裏	
		449	複刃削器	第4層	49.6	53.1	15.4	36.4	横形削片	不等辺二 角形	○	薄深凸面	厚深凸裏		
		450	複刃削器	第4層	42.0	59.0	11.0	31.5	横形削片	不等辺三 角形	○	薄深凸裏 片鋸	薄深直裏		
		451	複刃削器	高2・第2層	46.8	79.8	7.9	43.7	横形削片	四角形	○	薄深s裏	薄深(侵)凸 面		
		452	複刃削器	高2・第2層	47.8	69.0	17.1	49.5	横形削片	両凸形	○	薄深凸裏	薄深(侵)凸 面		
		453	複刃削器	第4層	54.4	72.1	19.6	54.1	剥片	三角形	○	薄深凹表	厚深凹裏		
		454	複刃削器	高2・第1層	29.7	47.5	14.6	23.7	横形削片	両凸形	○	厚深(侵)凸 面	薄深凸表		
		455	複刃削器	第4層	64.4	47.7	15.3	41.7	剥片	三角形	○	薄深s裏	厚(?)深凸 裏		
		456	複刃削器	第4層	49.5	73.2	15.9	67.1	横形削片	両凸形	○	薄深直裏	厚深凸面	薄深凸表	
		457	複刃削器	第4層	68.3	45.0	11.2	23.8	剥片?	両凸形	×	薄侵直面	薄深凸面	薄深直裏	石縫かもしれない
		458	複刃削器	第4層	67.3	71.8	13.1	48.4	横形削片?	不等辺三 角形	○	薄深凸面	薄深凹面		
		459	複刃削器	第4層	27.2	57.4	7.4	13.1	横形削片	不等辺二 角形	○	薄深凸面	薄深s面		
		460	複刃削器	高2・第2層	59.6	56.1	10.4	26.6	剥片?	不等辺二 角形	○	厚深凸表	薄深s裏		
		461	複刃削器	高2・第1層	62.1	54.9	16.8	57.5	剥片?	不等辺三 角形	○	薄深直表	薄深s裏		
		462	複刃削器	高2・第1層	67.4	85.8	24.1	118.0	横形削片	四角形	○	厚深凹裏	極厚深凸表		
		463	複刃削器	高2・第2層	28.5	57.9	10.9	19.8	横形削片	四角形	○	厚深直裏	薄深(?)直 裏		
		464	複刃削器	高2・第1層	49.5	31.2	10.0	17.9	剥片?	四角形	×	薄深直面	薄深凹面		
		465	複刃削器	土塗2	58.2	46.5	16.7	37.1	石核	四角形	○	薄深(侵)直 面	厚深s面		
		466	複刃削器	高2・第2層	63.2	87.7	11.8	51.4	横形削片	四角形	×	薄深直面	厚深凸裏	薄深(侵)直 表	刃部整形(?)薄深直 表
		467	複刃削器	第4層	49.3	43.2	11.8	27.5	剥片?	両凸形	○	薄深凸面	薄深s面		
		468	複刃削器	第4層	59.4	56.0	16.4	70.6	剥片?	四角形	○	厚深s裏	厚深凸表		
		469	複刃削器	高2・第2層	64.2	76.4	15.8	58.8	横形削片	不等辺三 角形	○	薄深直裏	薄深凸面		
		470	複刃削器	第4層	47.9	72.5	17.0	54.9	横形削片	四角形	○	薄深凹裏	厚深凸裏		

表14 削器観察表(4)

類	種	器號	刀部形式	出土地點	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	素材	中央断面	面	刀部形式(1)	刀部形式(2)	刀部形式(3)	備考
		471	複刃削器	第4層	32.2	70.1	20.5	41.6	横断削片?	四角形	○	薄深凹表	薄深凸裏		
		472	複刃削器	溝2・第2層	30.2	59.6	9.2	11.8	横断削片?	圓凸形	×	薄深直丸	薄深・表裏 片縫		
		473	凸刃削器	第4層	38.0	57.1	12.0	31.0	横断削片?	不等邊三 角形	×	薄深凸表			
		474	凸刃削器	溝2・第2層	39.2	49.4	10.3	17.9	横断削片?	不等邊三 角形	×	薄深凸表			
		475	凸刃削器	溝2・第2層	62.3	51.4	19.7	59.7	剝片?	不等邊三 角形	○	薄深凸裏			
		476	凸刃削器	溝1	45.0	64.7	24.8	66.8	剝片?	不等邊三 角形	○	薄深凸裏			
		477	凸刃削器	溝2・第1層	44.6	62.5	13.0	21.9	横形削片	不等邊三 角形	×	薄深凸表			
		478	凸刃削器	溝2・第1層	59.8	37.3	13.5	37.3	剝片	西三角形	○	薄深凸裏			
		479	凸刃削器	溝2・第1層	56.9	43.4	11.8	24.2	右核	不等邊三 角形	○	厚深凸片面			
		480	凸刃削器	土壤	59.3	57.1	10.5	30.6	剝片	兩凸形	○	薄深凸裏			
		481	凸刃削器	第4層	66.5	72.3	14.1	59.0	横形削片	不等邊三 角形	○	薄深凸表			
		482	凸刃削器	溝2・第2層	54.3	32.1	10.1	25.8	剝片	不等邊三 角形	○	薄深凸裏			
		483	凸刃削器	溝2・第2層	60.1	33.5	10.8	23.5	剝片	不等邊三 角形	○	薄深凸裏			
		484	凸刃削器	第4層	33.2	54.0	8.4	13.3	横形削片	四角形	○	薄深凸裏			
		485	凸刃削器	落込み1	73.9	69.1	18.6	84.2	剝片	不等邊三 角形	○	薄深凸裏			
		486	凸刃削器	溝2・第1層	71.7	39.9	9.0	20.1	剝片	不等邊三 角形	○	薄深凸表			
		487	凸刃削器	第4層	30.5	46.4	9.1	9.0	横形削片	圓凸形	○	薄深凸裏			
		488	凸刃削器	第4層	53.0	55.9	17.4	41.8	横形削片	台形	○	薄深凸裏			
		489	凸刃削器	溝2・30.2	52.1	54.0	25.7	69.1	横形削片	四角形	○	厚深凸裏			
		490	凸刃削器	溝2・第1層	65.6	65.9	14.8	26.2	横形削片	不等邊三 角形	○	薄深凸表 (一部裏)			
		491	凸刃削器	第4層	46.5	64.1	12.0	28.3	横形削片	圓凸形	○	薄深凸裏			
		492	凸刃削器	第4層	49.0	47.5	15.5	40.1	剝片	不等邊三 角形	○	薄深凸裏			
		493	凸刃削器	溝2・第2層	72.1	63.6	21.3	65.5	剝片	不等邊三 角形	○	厚深凸裏			
		494	凸刃削器	溝2・第1層	92.3	46.6	16.3	65.3	剝片	西三角形	○	厚深凸表			
		495	凸刃削器	溝2・第1層	47.5	66.3	10.0	29.8	横形削片	不等邊三 角形	○	薄深凸裏			
		496	凸刃削器	溝2・第2層	44.0	42.0	16.4	25.5	剝片?	兩凸形	○	薄深凸裏			
		497	凸刃削器	第4層	57.2	60.7	17.0	52.2	横形削片?	四角形	○	厚深凸裏			
		498	凸刃削器	溝2・第2層	51.1	68.1	15.3	48.5	横形削片?	四角形	○	薄深凸表			
		499	凸刃削器	第4層	63.8	54.8	18.3	55.7	横形削片?	不等邊三 角形	○	薄深凸裏			
		500	凸刃削器	溝2・第1層	85.8	46.3	14.8	56.5	剝片?	四角形	○	厚深凸裏 ・ 薄深凸裏			
		501	凸刃削器	第4層	34.0	55.5	12.6	16.2	横形削片	不等邊三 角形	○	薄深凸裏			
		502	凸刃削器	第4層	61.4	53.5	8.2	27.2	剝片	不等邊三 角形	×	薄深凸表 (一部裏)			

表14 削器觀察表(5)

順	器種	番号	刃部形式	出土土地点	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	素材	中央断面 形	万部形式(1)	万部形式(2)	万部形式(3)	備考
		503	凸刃削器	第4層	71.4	80.8	29.2	83.2	石核	不等辺三 角形	○	薄深凸片面		
		504	凸刃削器	第5層	68.1	56.8	17.2	24.0	銅片	不等辺三 角形	○	薄深凸面		
		505	凸刃削器	清1	55.3	66.1	21.0	84.0	楕形剥片	四角形	○	薄深凸面		
		506	凸刃削器	清2・第2	41.9	47.2	15.3	27.5	石核	四角形	○	薄深凸面		研磨面あり
		507	凸刃削器	清2・第1	65.8	76.4	18.0	87.1	楕形剥片	不等辺三 角形	○	薄深凹裏		
		508	凹刃削器	第4層	81.8	42.0	18.1	52.6	銅片	不等辺三 角形	○	薄深凹面		
		509	凹刃削器	清2・第2	66.5	51.5	19.9	42.8	銅片	不等辺三 角形	○	薄深凹面		
		510	凹刃削器	第4層	69.5	79.4	22.0	72.6	楕形剥片	四角形	○	薄深凹表		
		511	凹刃削器	清1	55.3	32.9	11.3	19.0	銅片	四角形	×	薄深凹裏		
		512	凹刃削器	清2・第2	59.5	94.6	47.1	93.6	楕形剥片	四角形	○	薄深凹裏		
		513	凹刃削器	清2・第2	77.7	70.6	27.7	111.0	石核	四角形	○	薄深凹片面		
		514	凹刃削器	清2・第2	57.0	67.3	18.1	51.4	楕形剥片	不等辺三 角形	○	薄深凹表		
		515	凹刃削器	清2・第1	45.0	49.5	16.4	25.0	楕形剥片	不等辺三 角形	○	薄深凹裏		
		516	凹刃削器	清2・第2	63.7	74.9	16.4	66.2	楕形剥片	不等辺三 角形	○	薄深凹面		
		517	凹刃削器	清2・第2	91.5	52.1	17.3	57.7	楕形剥片	四角形	○	薄深凹面		
		518	凹刃削器	清2・第2	69.0	95.1	17.8	115.0	楕形剥片	四角形	○	薄深凹裏		
		519	凹刃削器	清2・第2	45.8	78.1	17.4	46.6	楕形剥片	四角形	○	薄深凹表		
		520	凹刃削器	清2・第1	47.0	72.9	18.3	47.4	楕形剥片	四角形	○	薄深凹裏		
		521	凹刃削器	清2・第2	48.6	61.2	15.4	51.7	楕形剥片	四角形	○	薄深凹裏		
		522	凹刃削器	第4層	43.4	66.3	12.9	35.2	楕形剥片	四角形	○	薄深凹面		
		523	凹刃削器	清2・第2	89.5	55.3	25.3	83.6	銅片	三角形	○	薄深凹表		
		524	凹刃削器	第4層	46.5	53.9	9.3	19.3	楕形剥片	四角形	○	薄深凹面		
		525	凹刃削器	清2・第1	33.4	43.0	9.0	8.5	楕形剥片	不等辺三 角形	○	薄深(斜)凹 裏		
		526	凹刃削器	清2・第1	43.9	44.0	12.6	15.2	楕形剥片	四角形	○	薄深凹裏		
		527	凹刃削器	清2・第1	42.3	49.8	10.0	30.3	楕形剥片	四角形	○	薄深凹裏		
		528	凹刃削器	清2・第2	66.2	32.8	8.4	28.9	銅片	不等辺三 角形	○	薄深凹裏		
		529	凹刃削器	清2・第2	69.6	48.4	18.8	43.8	銅片	不等辺三 角形	○	薄深凹裏		
		530	凹刃削器	清2・第1	28.6	31.5	11.3	9.3	楕形剥片	内凸形	○	薄深凹面		打製右剣の基部片か もしれない
		531	直刃削器	清2・第2	46.2	68.3	29.5	87.7	楕形剥片	不等辺三 角形	○	薄深直裏		
		532	直刃削器	清2・第2	96.8	47.7	12.5	58.0	銅片	不等辺三 角形	○	薄深直裏		
		533	直刃削器	第3層	31.3	36.6	12.8	18.8	楕形剥片	四角形	×	薄深直裏		
		534	直刃削器	清2・第2	49.8	70.7	21.6	72.4	楕形剥片	四角形	○	薄深直面		

表14 削器観察表(6)

類	順	番号	刀部形式	出土地点	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	素材	中央断面	縁	刀部形式(1)	刀部形式(2)	刀部形式(3)	備考
		535	直刃削器	第2・第2層	84.1	61.1	19.0	106.0	銅片	四角形	○	厚深直両			
		536	直刃削器	第2・第2層	44.8	59.8	12.4	35.5	横形削片?	西角形	○	厚深直両			
		537	直刃削器	第1層	44.2	65.3	16.3	39.8	横形削片	両凸形	○	薄深直表			
		538	直刃削器	第2・第2層	48.6	34.6	11.7	21.9	剥片	台形	○	厚深直表			
		539	直刃削器	第4層	48.5	56.8	11.2	27.3	横形削片	不等辺二角形	○	薄深直表			
		540	直刃削器	第4層	99.8	40.0	16.1	52.1	石核	四角形	○	薄浅直片面			
		541	直刃削器	第4層	68.6	74.6	12.4	38.9	横形削片	両凸形	○	厚深直両			
		542	直刃削器	第2・第2層	62.7	51.2	20.6	49.5	剥片	不等辺三角形	○	薄深直両			
		543	直刃削器	第2・第1層	42.1	70.2	14.0	41.3	横形削片	不等辺三角形	○	薄深直両			
		544	直刃削器	第2・第1層	35.6	54.2	9.0	16.4	横形削片	不等辺三角形	○	薄深直裏			
		545	直刃削器	第2・第1層	57.4	58.3	20.0	49.9	横形削片	不等辺三角形	○	薄深直裏・厚深直裏			
		546	直刃削器	第2・第1層	42.5	49.2	17.1	21.4	横形削片?	不等辺三角形	○	厚深直表			
		547	直刃削器	第4層	67.6	85.6	16.7	60.2	横形削片	不等辺三角形	×	薄深(厚)直裏・厚深直表			
		548	直刃削器	第1層	35.0	41.2	8.6	11.4	横形削片	不等辺三	○	薄深直裏			
		549	直刃削器	第2・第2層	66.6	44.0	13.8	36.8	剥片	不等辺三角形	○	薄深直両			
		550	直刃削器	第2・第2層	35.0	40.6	7.5	10.3	横形削片?	不等辺二角形	○	薄深直裏			
		551	直刃削器	第1層	53.6	52.8	17.0	22.6	剥片	不等辺三角形	○	極厚深直表			
		552	直刃削器	第2・第2層	42.3	35.3	8.1	14.3	剥片	四角形	○	厚深直裏			
		553	直刃削器	第4層	54.7	67.8	15.0	68.7	横形削片	西角形	×	薄深直裏			
		554	直刃削器	第2・第1層	35.3	22.5	12.7	11.7	剥片	西角形	○	極厚深直表			
		555	直刃削器	土壤3	65.5	52.3	17.2	47.1	剥片	平行四辺形	○	薄深直裏			
		556	尖頭削器	第2・第1層	63.0	64.0	18.3	46.3	横形削片	四角形	○	厚深S表		尖端部は原面と隣り合う	
		557	尖頭削器	第2・第1層	54.0	54.9	8.7	16.8	横形削片	不等辺三角形	×	厚深S表		尖頭部は素材の打面と隣り合う	
		558	横形削器	第2・第1層	72.2	85.1	12.4	34.0	横形削片	不等辺二角形	○	薄深凸両			
		559	横形削器	第2・第2層	44.9	91.9	21.1	59.5	横形削片	不等辺三角形	○	厚深凸裏			
		560	横形削器	第4層	59.3	106.3	16.9	81.9	横形削片	西角形	×	薄深凸両			
		561	横形削器	土壤2	58.6	53.0	16.7	38.8	横形削片	四角形	○	薄深凸裏			
		562	横形削器	第2・第2層	55.8	59.8	10.3	19.4	横形削片	両凸形	○	薄深凸表			
		563	横形削器	第4層	43.3	61.9	4.7	15.6	横形削片	不等辺二角形	○	厚深凸表			
		564	横形削器	第2・第1層	62.5	68.2	11.2	51.8	横形削片	西角形	○	極厚深凸裏			
		565	横形削器	ピット71	50.3	46.4	10.8	23.9	横形削片	四角形	○	薄深凸両			

表14 削器観察表(7)

磨製石器

粘板岩製の石鎌1点、結晶片岩製の右包丁32点、円盤3点が出土している。このほか砂岩製の石皿、砥石、ハンマーなどが出土している。

石鎌 (図版12, 13・図21: 588)

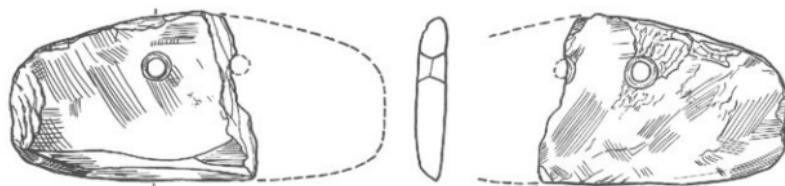
溝2の第2層から1点出土している。粘板岩製の有茎式の石鎌で長さ35.7cm、幅22.7cm、厚さ2.8cm、重量2.8gを測る。中央断面形は半円形を呈している。全体の形態からみて、磨製石剣の先端部折損品の折損部を再研磨して茎部を作り出したような感がある。

石包丁 (図版25・図38~42: 589~609, 620)

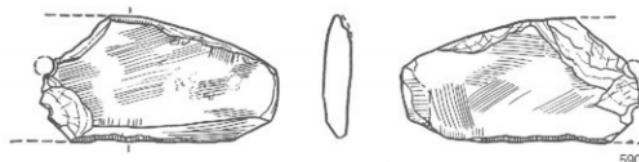
すべて結晶片岩製の石包丁である。32点出土している。この中には大型の石包丁(620)も含まれる。製作途中品は7点あるが、研磨前の整形段階のものが5点(607~610, 617)、研磨済みで刃付け前のものが1点(619)、紐孔穿孔前のものが1点(592)ある。平面形態は長方形態と半月形態が多く、杏仁形態と楕円形態も認められる。長方形態のものは直線刃のものが最も多く6点ある。内湾

番号	図版	番号	出土地点	平面形態	刃部形態	刃部後	刃部	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	直線刃	楕円刃	背面	備考
38	25	589	溝2・第2層	長方形態	外刃刃	不明瞭	片刃	76.2	116.4	52.7	10.1	62.8	7.7	25.9	
38	25	590	第4層	長方形態	直線刃	明瞭	片刃	72.5	145.0	39.7	8.7	34.6	4.7	-	刃部に剥離あり
38	25	591	溝2・第1層	長方形態	直線刃	不明瞭	両刃	71.7	150.0	47.0	8.3	26.4	-	-	背部は欠損
38	25	592	溝2・第3層	長方形態	外刃刃	不明瞭	-	66.6	30.0	57.5	8.3	38.1	12.0	31.8	紐穴は敲打痕だけ未穿孔
38	25	593	溝2・第1層	長方形態	内歯刃	明瞭	片刃	74.4	10.3	39.4	9.2	48.3	7.2	25.9	
39	25	594	第4層	長方形態	直線刃	不明瞭	両刃	109.3	103.3	37.0	8.3	41.8	7.6	21.0	鋸の欠引したところを研磨、刃部に剥離あり
39	25	595	溝2・第1層	長方形態?	直線刃	不明瞭	片刃	97.1	123.0	48.0	10.6	71.9	7.2	26.0	背部に剥離あり
39	25	596	溝2・第2層	長方形態?	内歯刃	不明瞭	両刃	51.4	123.0	36.2	8.0	41.5	6.9	-	背部に剥離あり
39	25	597	溝2・第2層	長方形態?	直線刃	不明瞭	片刃	40.4	116.0	40.3	7.8	14.7	7.7	-	片面は剥離
39	25	598	溝2・第2層	長方形態	直線刃	不明瞭	片刃	50.1	110.4	42.4	7.1	27.7	8.3	-	
40	25	599	第4層	杏仁形態	外歯刃	不明瞭	片刃	70.1	100.0	41.5	6.9	25.4	8.9	20.5	未穿孔の紐穴あり
40	25	600	溝2・第1層	半月形態	直線刃	不明瞭	両刃	37.6	-	32.1	4.3	7.2	-	-	
40	25	601	第4層	半月形態	直線刃	明瞭	片刃	44.8	-	31.3	6.8	11.2	-	-	
40	25	602	溝1	半月形態	内歯刃	明瞭	片刃	150.1	150.1	38.1	7.4	61.1	7.3	19.5	背部に剥離あり
40	25	603	溝2・第1層	半月形態	直線刃	明瞭	片刃	66.6	141.0	50.8	9.1	42.6	8.2	25.3	
40	25	604	溝2・第1層	半月形態	直線刃	明瞭	片刃	57.1	136.0	35.8	5.9	15.4	8.1	-	火を受けて赤変している
41	25	605	溝2・第2層	半月形態	直線刃	明瞭	片刃	57.0	130.1	40.5	50.3	18.6	5.4	-	
41	25	606	溝2・第4層	-	明瞭	片刃	59.0	-	59.2	6.9	34.4	7.9	-		
41	25	607	土塁2	半月形態	-	-	68.9	-	56.5	10.0	43.1	-	-	研磨前の未製品	
41	25	608	第4層	-	-	-	65.5	-	49.8	10.1	32.1	-	-	研磨前の未製品、火を受けて赤変している	
41	25	609	第4層	楕円形態	-	-	99.1	-	51.6	8.0	51.8	-	-	研磨前の未製品	
610			第4層	長方形態?	-	-	68.2	-	54.4	9.0	43.5	-	-	研磨前の未製品	
611			溝2・第1層	半月形態?	-	-	33.0	-	28.5	4.8	6.2	-	-		
612			溝2・第1層	-	-	-	20.3	-	32.5	4.3	2.9	-	-		
613			溝2・第1層	-	-	-	75.5	-	41.2	11.8	42.1	-	-		
614			溝2・第2層	半月形態	直線刃	不明瞭	片刃	42.2	-	35.5	6.5	12.1	-	-	
615			溝2・第1層	-	直線刃	明瞭	片刃	23.7	-	35.5	6.7	9.0	-	-	
616			溝2・第1層	-	-	-	22.0	-	27.1	3.4	2.8	-	-		
617			溝2・第2層	-	-	-	43.7	-	43.8	12.9	20.2	-	-	石材に直線あり	
618			第4層	-	-	-	20.8	-	16.3	3.7	1.7	8.0	-	火を受けて赤変している	
619			溝2・第1層	-	-	-	66.9	-	53.0	6.1	24.1	-	-	刃付け前の未製品、研磨跡み、片割れ跡	
42		620	溝2・第2層	半月形態	直線刃	不明瞭	片刃	128.6	212.5	107.5	10.4	190.0	9.3	-	火を受けて赤変している

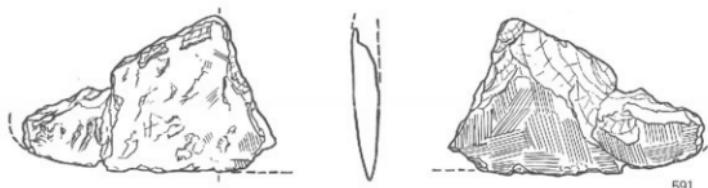
表15 石包丁観察表



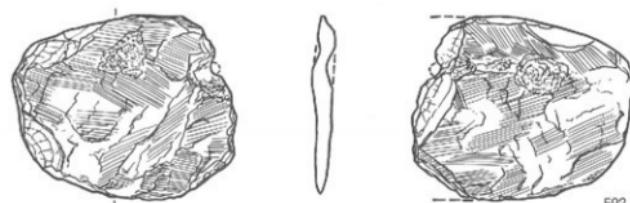
589



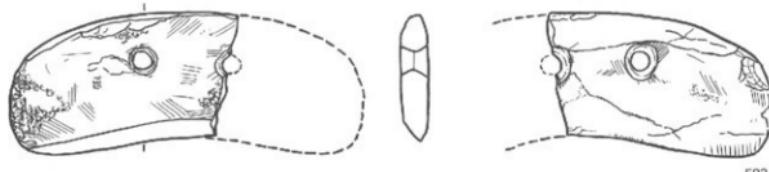
590



591



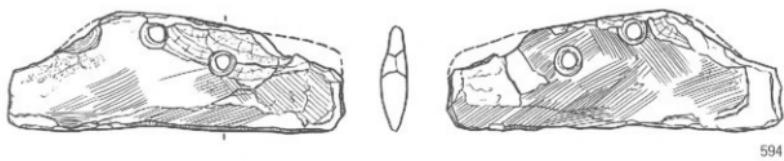
592



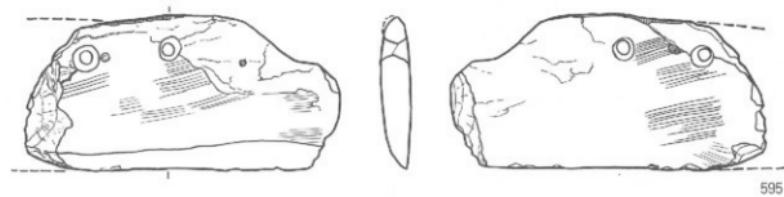
593



図38 石器(石包丁)



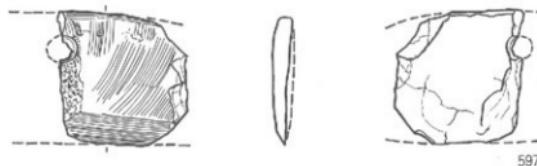
594



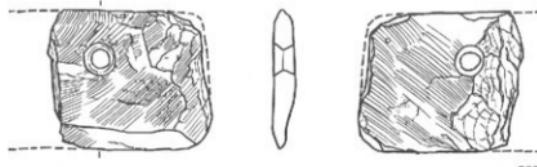
595



596



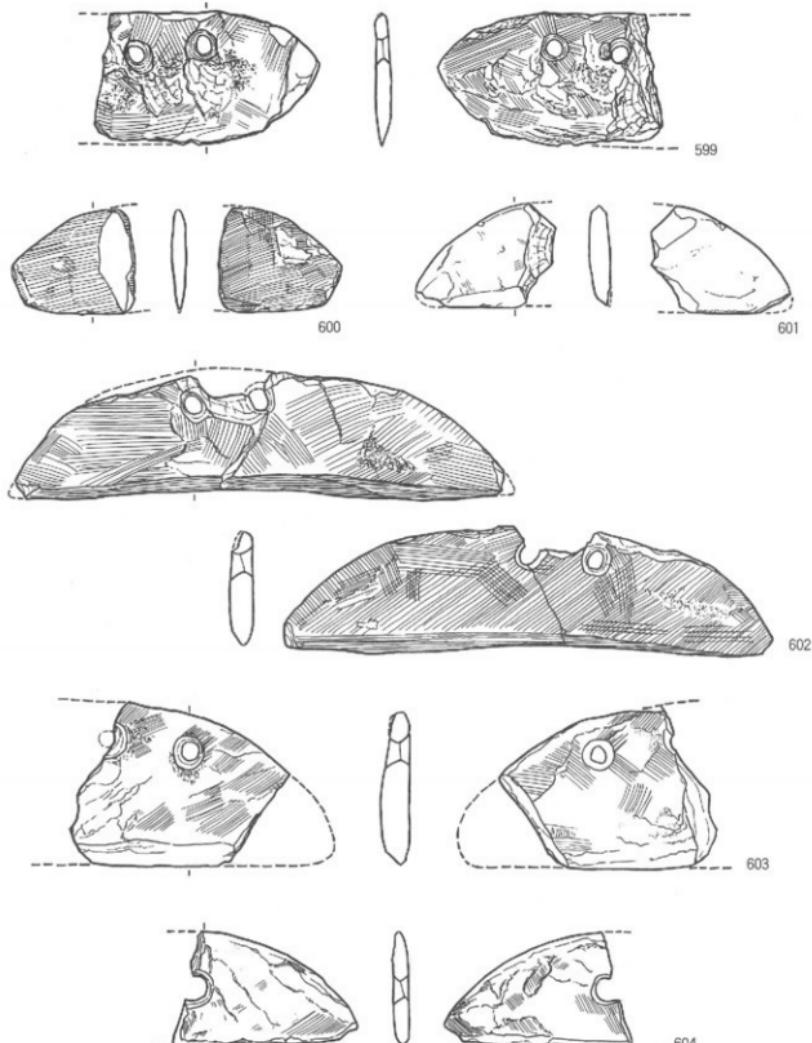
597



598



图39 石器(石包丁)



0 10cm

図40 石器(石包丁)

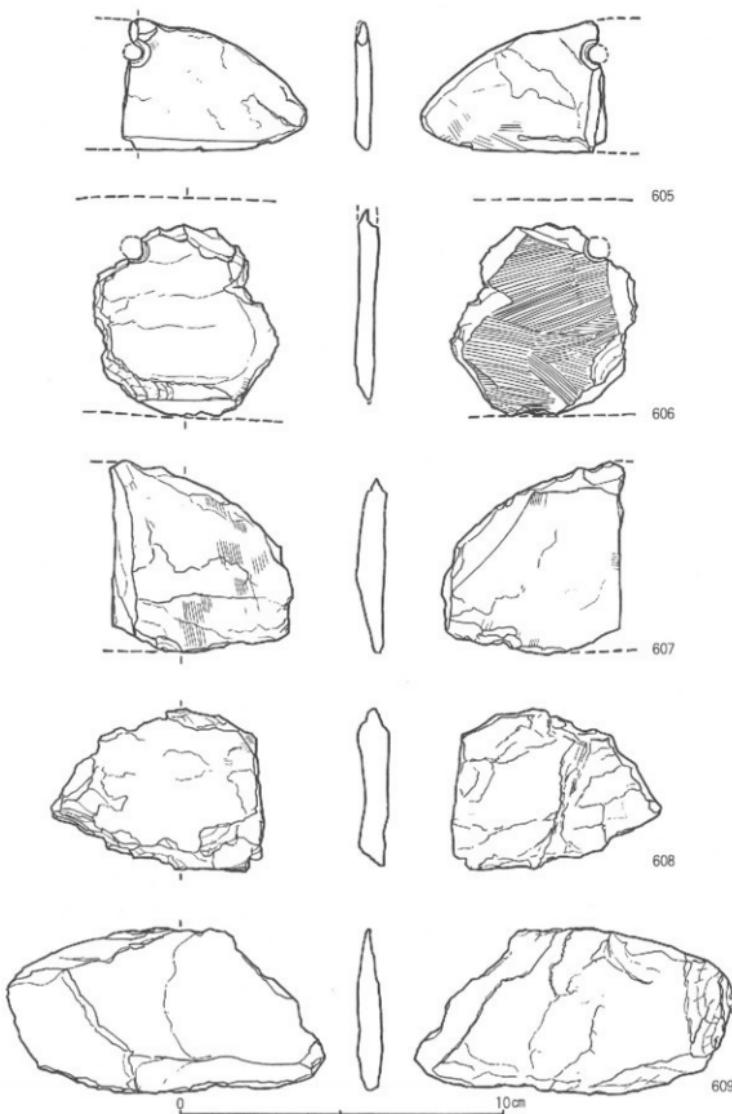


図41 石器(石包丁)

刃は2点あるが、使用によって内湾刃になった可能性が高い。半月形態のものは9点あるが、やはり直線刃のものが多く、6点ある。このほか内湾刃が1点(602)あるが、外湾刃のものは認められない。これは今回の遺物の所属時期が弥生時代中期以降ということから、従来から指摘されている形態と時期との関係に整合する(石神ほか、1979)。

刃部穂の明瞭なものはすべて片刃である。

潰れ痕の認められるものが5点ある。多くの場合、背部に認められることが多いが、刃部に認められる例が2点(590、594)ある。

大型石包丁(620)は1点出土しているが、平面形態はほぼ半月形態を呈し、刃部は外湾刃に近い直線刃である。通常の大きさの石包丁を大きくしたというもので特別な形態のものではない。縫孔は1孔しか残っていないが、形態からみておそらく2孔あったと思われる。

なお、石包丁の個々の詳細は表15を参照されたい。

円盤(図版26・図42: 621, 622)

円形で周縁部に研磨が施されたものを円盤と呼ぶ。3点出土しているが、すべて結晶片岩製である。なお、この種の石製品は紡錘車のように円孔を穿ったものはない。

なお、円盤の個々の詳細は表16を参照されたい。

柱状片刃石斧

溝2の第1層から1点出土している。現存長59.4mm、現存幅7.2mm、厚さ33.5mmを測る。頭部近くの側面の破片である。石材は結晶片岩製である。

ハンマー

敲打痕の認められるものをハンマーと呼んだが、磨痕が同一個体に認められるものもあり、磨石と分類が困難である。砂岩製もしくはチャート製のものがある。砂岩製のものには球形のもの以外に細長い棒状のハンマーもある。後者には平面形態が撥状を呈するものもある。

石皿

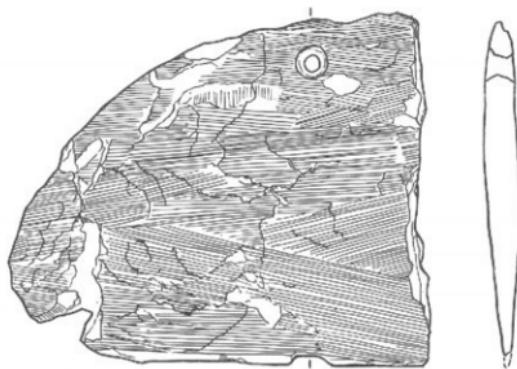
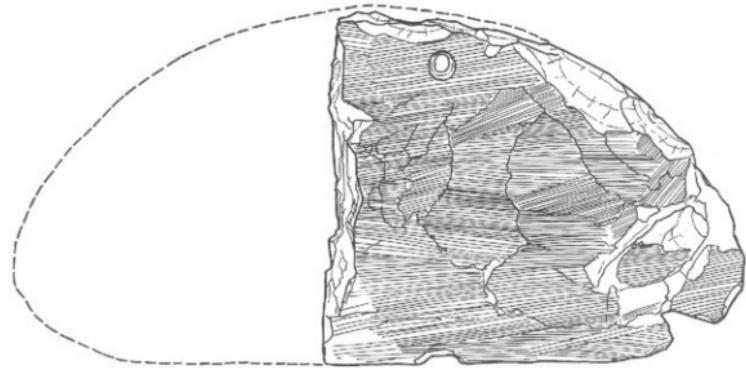
砂岩製のものが2点出土している。1点は平面形が橢円形の扁平なもので片端が一部欠損している。長さ210.2cm、幅167.7cm、厚さ38.1cmを測る。火を受けたらしく一部赤変している。あと1点の平面形は橢円形で、断面形は三角形状を呈す。長さ219.7mm、幅133.1mm、厚さは厚いところで98mm、薄いところで59.6mmを測る。作業面と思われる面には直径約45.7mmの円形の窪みがある。

砥石

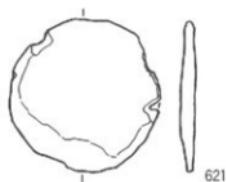
砂岩製のものが出土している。

標本番号	図版番号	出土地点	直径(mm)	厚さ(mm)	重量(g)
42	25	溝2・第1層	45.3	5.4	15.0
42	25	溝2・第2層	48.4	3.8	16.1
	25	溝2・第2層	56.3	6.3	36.2

表16 円盤観察表



620



0

10cm

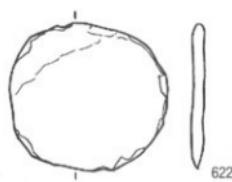


图42 石器(大型石包丁, 円盤)

第2トレンチ出土遺物

第2トレンチからは弥生土器、土師器、須恵器、土師器質土器、須恵器質土器、瓦の他にサヌカイト製の石器が出土している。すでに述べたとおり、第2トレンチからの遺物の出土は少なく、コントナ(54×34×15cm)にして約1箱だけである。以下、土器、瓦、石器の順に記述する。

土器(図43:1)

弥生土器は中期の細片が出土している。直線紋が施されたものが1点あるが、詳細は不明である。土師器も細片のため詳細は不明である。

須恵器は奈良時代から平安時代にかけての坯片が2点出土している。ともに高台のつかないタイプである。

土師質土器には練鉢(1)がある。須恵器質土器にも練鉢があるが、図示した(1)より体部が直線的にのびるもの、全体的な形態は類似する。(1)は口径83.4cm、残存器高6.3cmを測る。口縁部内外面は横方向の刷毛目、体部はなで調整を施している。内面にはスリ目が認められる。

瓦

瓦は平瓦で磨滅が著しく詳細は不明である。

石器(図43:2,3)

サヌカイト製の打製石器には石鎌4点、石剣3点、剥片42点、石核4点がある。

石鎌の基部形態は凸基式が1点(2)、有茎式1点(3)で、他は基部が欠失しているため不明である。石鎌(2)は落ち込み2から出土している。長さ35.4mm、幅14.2mm、厚さ6.9mm、重量3.0gを測る。素材は横形剥片で、調整は施されていない。整形は薄形・深形・連続・両面細部調整で行われている。前面は残っていない。(3)は谷から出土している。現存長43.3mm、幅17.0mm、厚さ5.1mm、重量3.7gを測る。素材は調整が全体におよんでいるため不明である。

整形は薄形・深形・連続・両面細部調整で行われている。前面は残っていない。先端部が欠損している。刃1cmあたりの鋸歯数は4つである。

石剣はすべて製作途中の事故品である。基部片が2点と先端部に近いものが1点ある。基部片はともに基盤面に前面が残っている。先端部に近いものは前面が残っていない。これらは落込み1と谷から出土している。

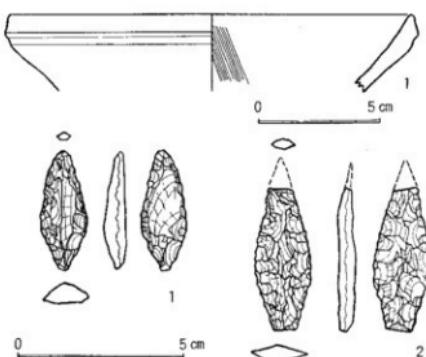


図43 第2トレンチ出土遺物

6. まとめ

今回の調査の結果、第1トレンチでは溝、土壌、ピットが、第2トレンチからは土壌、ピット、谷などが検出された。これらの中で、第1トレンチで検出された溝1と溝2は、南側にある1987年度調査地の溝1、溝2のそれぞれに続くと考えられる（中辻ほか1988）。これらの溝は埋土の色調および土質が類似していること、また、流路の方向が同方向であることからそう認定した。その他の遺構については既往の調査とのつながりは判明しなかった。ただ、1987年度の調査で検出され、今回の調査区に続く可能性の考えられた方形周溝墓（岩瀬・栗田1994）は検出されなかったことから、墓域がこの地区まで広がらないことが判明した。

遺物は弥生時代の遺物が第1トレンチで大量に出土した。時期は弥生時代中期のものが最も多く、その他に前期の壺が1点と後期の遺物が少量出土した。これらはすべて廃棄されたことによる堆積であるが、後期の土器が最下層で出土したり、遺構間で接合することから合わせ考えると決して良好な出土状況といえない。いったん廃棄された後、さらに攪乱をうけた結果によるものと評価せざるをえない。

以上のように出土状況は良好といえないが、しかし、これらの出土遺物は既往の調査で認められていた喜志遺跡の開村時期と廃絶時期を改めて考える良好な資料になった。かつて喜志遺跡については藤井寺市国府遺跡と並ぶ石川流域の拠点集落として評価されたことがあった。しかし、弥生時代前期に関しては、羽曳野市教育委員会の東阪田遺跡の調査で出土した新段階の壺の頸部片が一例、前期の遺物として出土していたものの（笠井1980）、包含層からの出土であったことから実体が不明であった。今回の調査では、前期でもさらに時期の遡る中段階の壺片（註1）が初めて1点出土した（註2）。しかし、この上器もまた確実な前期の遺構から出土していない。そのため喜志遺跡が前期から存在したのかどうかについては、今後の調査で前期の土器がまとまって出土するか、確実な前期の遺構が検出されない限り断定することに躊躇せざるをえない。

それでは確実な開村時期はいつなのか？1971年に暗渠埋設工事中に発見された遺物（北野1985）の中に含まれていた第II様式の土器が喜志遺跡では比較的古い時期の遺物として考えられていたが、量が少なく不明な点が多くあった。しかし今回の調査では、その時の資料と同時期のもの、つまり同時期に廃棄されたものが大量に出土した（註3）。このことでその時期の土器の器種構成をはじめとして、土器の施紋状況、製作状況、搬入土器の様子などがかなり明らかになってきた。すなわち、紋様では扇形紋が盛用され、流水紋も施されるものすでに簡略化されて疑似流水紋になってしまったもので占められること、また、甕などに大和、紀伊からの搬入がみられることなど第II様式でも後半期の特徴が認められることが判明した。このことから開村時期を第II様式でも後半期に位置づけるのが妥当であると考えている。

次に集落の廃絶時期についてであるが、喜志遺跡が後期まで続くかどうかは問題として残されたままであった。從来から後期の土器破片が散見されていたことからそのように考えられていたのであるが、出土量の少なさと出土土器の残存状況の悪さから、この問題についても保留されたままであった。今回の調査でも出土量については從来どおり量は少なかったが、残存状況は比較的良好で、全体形がわかるものも含まれていたことから、それらの所属時期について検討することができた。その結果、それらが後期後半のもので占められていることが判明した。つまり、中期のものとの間

に断絶が認められたのである。このことが喜志遺跡全体に共通するなら、中期前半に開かれた喜志の集落は中期後半にいったん廃絶し、新たに後期後半になって集落が開かれたと想定できるであろう。しかし、もし前期の土器の問題も含めてこれらの土器の出土状況が、既往の調査区に限られるだけなら断言することを控えなければならない。しかし、今のところ前期から後期まで連綿と続く拠点集落として喜志遺跡を評価できる可能性は極めて低く、石器の需要が高くなり始めた中期前半に開村され、石器の需要の減少とともに集落が消滅し、後期に関しては中期の集落とは別と考えておきたい。

また、今回は中期の喜志遺跡のあり方について細かく検討することができなかつたが、第Ⅱ様式の上器が出土する地点をみていると、今のところ今回の調査区周辺に限られていることが指摘できる。このことは集落の形成時期が地点によって違う可能性が高いことを示唆している。いずれにしても、既往の調査を改めて検討し、集落内の居住域の移動がどの程度、どのような状況で行われているのか詳細に検討する必要のあることを付言しておきたい。

さて、従来から喜志遺跡は多量の石器が出土することで特徴づけられていたが、今回の調査でも例にもれず多量の石器が出土した。この石器が多量に出土する状況は喜志遺跡の範囲内ならどこでも同じ状況かというと必ずしもそうとはいえない。例えばこの調査区のすぐ北側を1995年度に羽曳野市教育委員会が調査をおこなっているが、その調査区での石器の出土量は今回報告の調査区に比べるとかなり少ない（詳4）。どうも石器が多量に出土するという状況は集落の周辺部の特徴らしく、とりわけ集落の南半周縁部を取り巻くように帶状にそれらの状況が現れている。このことからみてみると喜志集落の石器製作が南半部でとくに集中的におこなわれ、その時に出た石屑および事故品などを周辺部に投棄して、居住空間とは別の空間として、例えば作業空間のような場の使い分けのあったことが想定できる。ただ、今回出土した遺物をみていると、打製石器の製作中の事故品を含む廃棄物のほかに土器、石包丁などの生活廃棄物の堆積も多いことから、この周辺部の様相は生活全般で生じた廃棄物の投棄場所としても機能していたことを考える必要もある。

次に石器の製作状況についてであるが、今回はじめて打製石剣の製作工程を接合資料として得ることができた。製作工程については報告のなかで述べたので繰り返さないが、この資料によつて今まで見逃されがちであった剥片の扱い方に一つの視点を与えることができた。すなわち、打製石剣の製作で生じる特殊な剥片の存在についてである。これまで各集落内での石器製作状況は残された石核や剥片の大きさおよび、出土量によって評価されてきた。とりわけ弥生時代の打製石器の中で最も大きなサイズの石器である石剣については二上山周辺の特定の遺跡だけで製作されていると考えられることが多かった。なぜなら、二上山周辺の遺跡を除いて大きな剥片や石核が多量に出土する遺跡が少ないからである。しかし、単に打製石剣製作についてだけ考えれば、遺跡から大きな剥片や石核が出土することだけで評価することは正しくない。なぜなら、このことは単に原料の豊富さを示しているだけであってそれ以上のものではないからである。それ以外に製作途中の事故品や製作中に生じた剥片が存在しなければ、製作していたことを証拠づけることはできない。反対に、大きな剥片や石核がなくても打製石剣を製作していないと消極的な評価をするのも確実ではない。つまり石材を消費してしまった結果、原料がなくなってしまった場合もあるからである。このことから石器が多量に出土しなくとも、打製石剣から剥ぎ取られた剥片と製作途中の事故品が含まれていれば、そこで打製石剣を作っていた証拠と想定しなければならないだろう。それゆえ出土する剥

片の確実なデータをもとに議論すれば、集落の正しい評価だけにとどまらず、弥生時代の流通の問題を含んだ弥生時代の社会システムの研究（酒井1980、蜂屋1983）についても、さらに新たな展開に発展する可能性が期待できるかもしれない。

以上のような調査成績があったが、今後の調査の進展を待って、ここで指摘した様々な問題を解決していきたい。

（注）

（註1）岩瀬透氏から中河内で製作の可能性が高いとのご教示を得た。

（註2）第II様式の壺と分類したものの中に、前期のものが入っているかもしれないが、いずれにしても量は少ない。

（註3）第1トレンチの調査区西側については1971年の暗渠埋設工事の統計で、堆積状況、遺物の出土状況も含めて同じであることをから、確認はしていないが、おそらく遺物の接合関係も出てくる可能性が高い。

（註4）高橋浩二氏のご教示による。

【参考文献】

- 栗田薰(1995)「打製石剣の製作技術」,『弥生文化博物館研究報告』,第4集,大阪府立弥生文化博物館,31~45頁。
岩瀬透・栗田薰(1994)「喜志集落における弥生時代中期墓域の形成について—喜志遺跡・喜志西遺跡の方形周溝墓を中心として—」,『喜志西遺跡発掘調査概報・III』,大阪府教育委員会,とくに52~55頁。
石神幸子ほか(1979)「第2章 収穫具」,『池上遺跡 第3分冊の2 石器編』,(財)大阪文化財センター,とくに112頁。
笠井敏光(1980)「東阪田遺跡-1980-」,羽曳野市埋蔵文化財調査報告書6,羽曳野市教育委員会。
北野耕平ほか(1985)「喜志遺跡」『富田林市史』,富田林市史編集委員会,141~171頁。
小林義孝ほか(1983)「歴史的環境-喜志遺跡の遺構分布(弥生時代)」,『喜志遺跡・東阪田遺跡発掘調査概要・VI』,大阪府教育委員会,2~8頁。
酒井龍一(1980)「龜井遺跡の石器生産一畿内・弥生集落における一様相」,『龟井・城山』,(財)大阪文化財センター,352~366頁。
寺沢薰・森井貞雄(1989)「1河内地域」,『弥生土器の様式と編年』,木耳社,41~146頁。
中辻亘ほか(1988)「喜志遺跡発掘調査概要 II」,富田林市埋蔵文化財調査報告16,富田林市教育委員会。
蜂屋晴美(1983)「終末期石器の性格とその社会」,『藤澤一夫先生古希記念古文化論叢』,藤澤一夫先生古希記念論集刊行会,大阪,37~82頁。
森木晋(1983)「喜志遺跡'80-3の石器」,『喜志遺跡・東阪田遺跡発掘調査概要・VI』,大阪府教育委員会,31~46頁。
中山一郎(1978)「森の宮遺跡出土の石器について」,『森の宮遺跡 第3・4次発掘調査報告書』,難波宮址顕彰会,124~147頁。

報告書抄録

ふりがな	へいせい い8ねんど とんだばやし しないいせきぐんはっくつちよう さほう こくしょ							
書名	平成8年度 富田林市内遺跡群発掘調査報告書							
副書名	富田林市埋蔵文化財調査報告							
巻次	28							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	栗田 薫・田中 正利							
編集機関	富田林市教育委員会							
所在地	大阪府富田林市常盤町1番1号 ☎ 0721-25-1000							
発行年月日	西暦 1997年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号	○○°	○○'	○○.○	○○.○	
青志遺跡	おおさか みどり だい ばやし し 大阪府富田林市 木戸山町	27214		34° 31' 24"	135° 36' 48"	1996.8.26 ~ 11.6	494.4	分譲住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
青志遺跡	その他	弥生時代	溝・落ち込み 土壙・ピット 谷	弥生土器・石器				

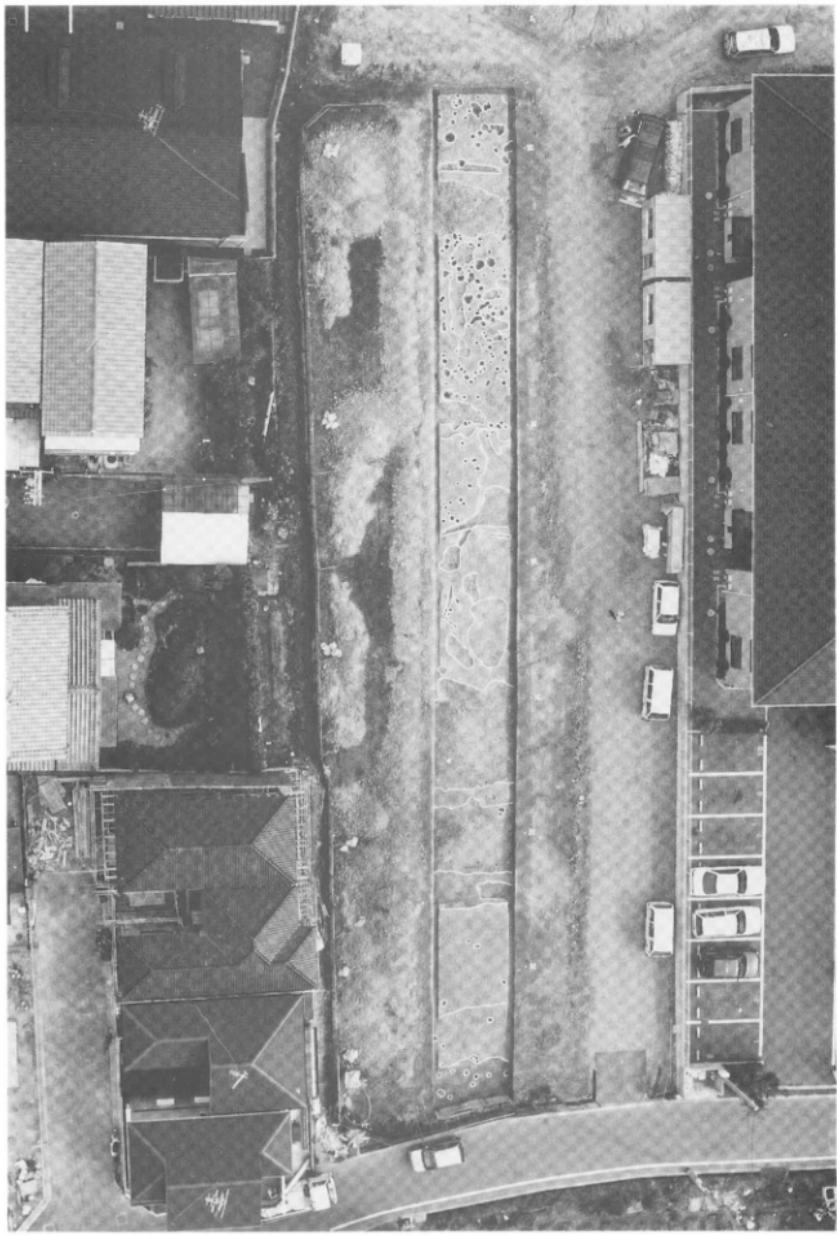
図 版



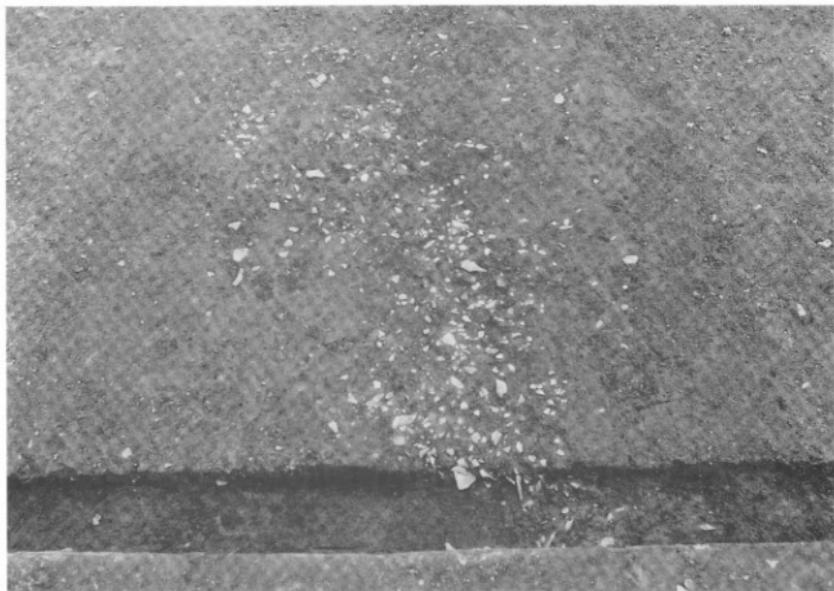
喜志遺跡（KS96）調査地遠景航空写真（西から）



調査地周辺航空写真



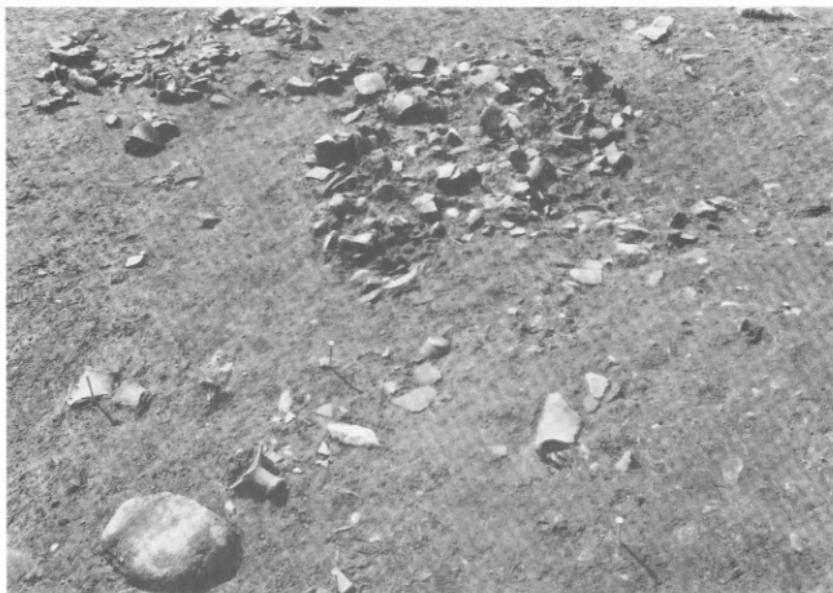
第1トレンチ全景 航空写真



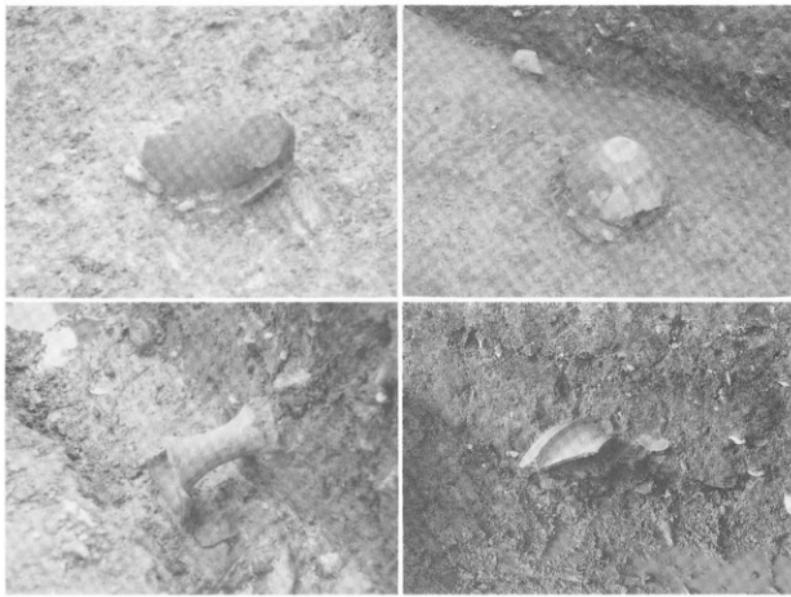
第1トレンチ 溝2 サヌカイト出土状況（北から）



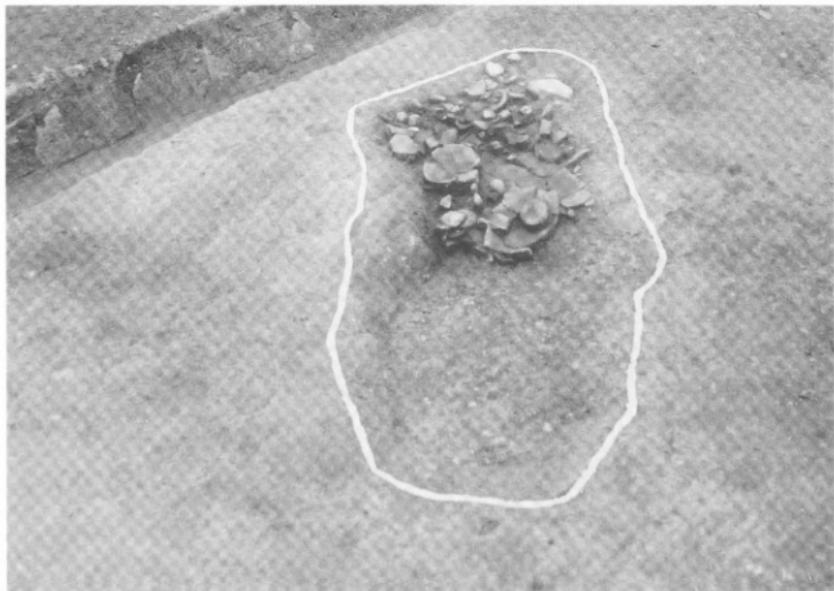
第1トレンチ 溝2 サヌカイト出土状況近景（北東から）



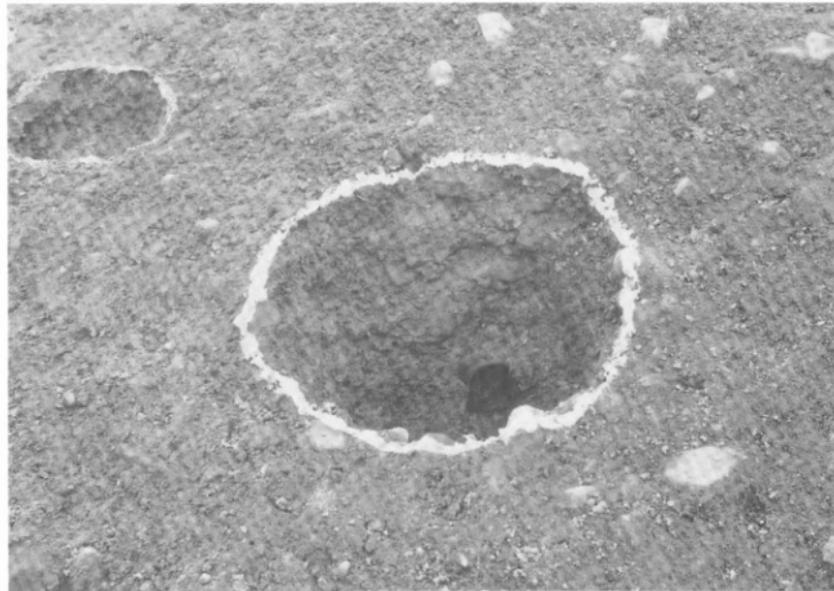
第1トレンチ 溝2 第1層 遺物出土状況（北から）



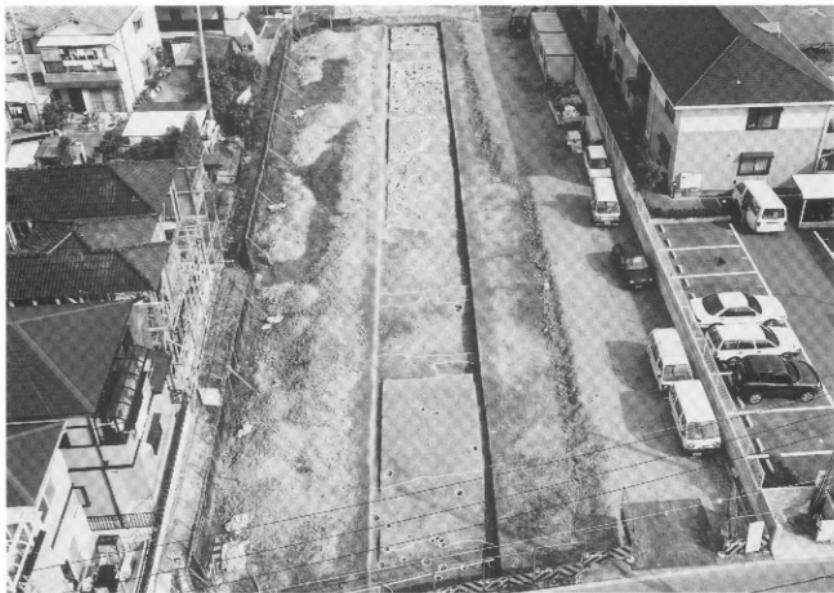
第1トレンチ 溝2 第2層 遺物出土状況



第1トレンチ 土壌1 遺物出土状況（南西から）



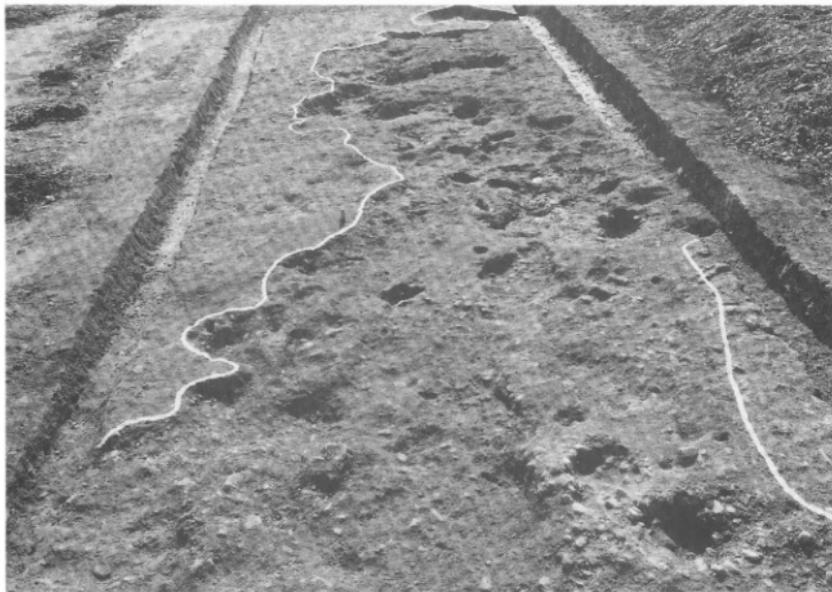
第1トレンチ ピット149 遺物出土状況（北東から）



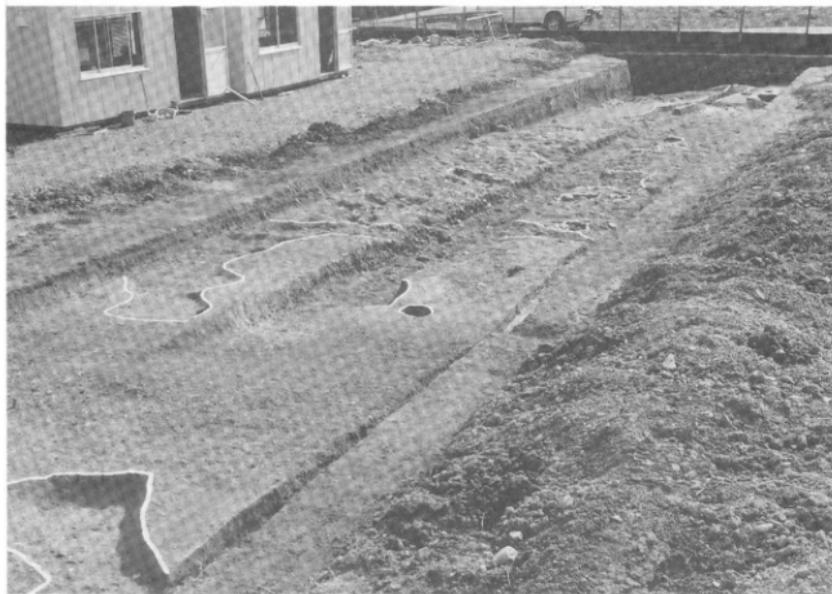
第1トレンチ全景（西から）



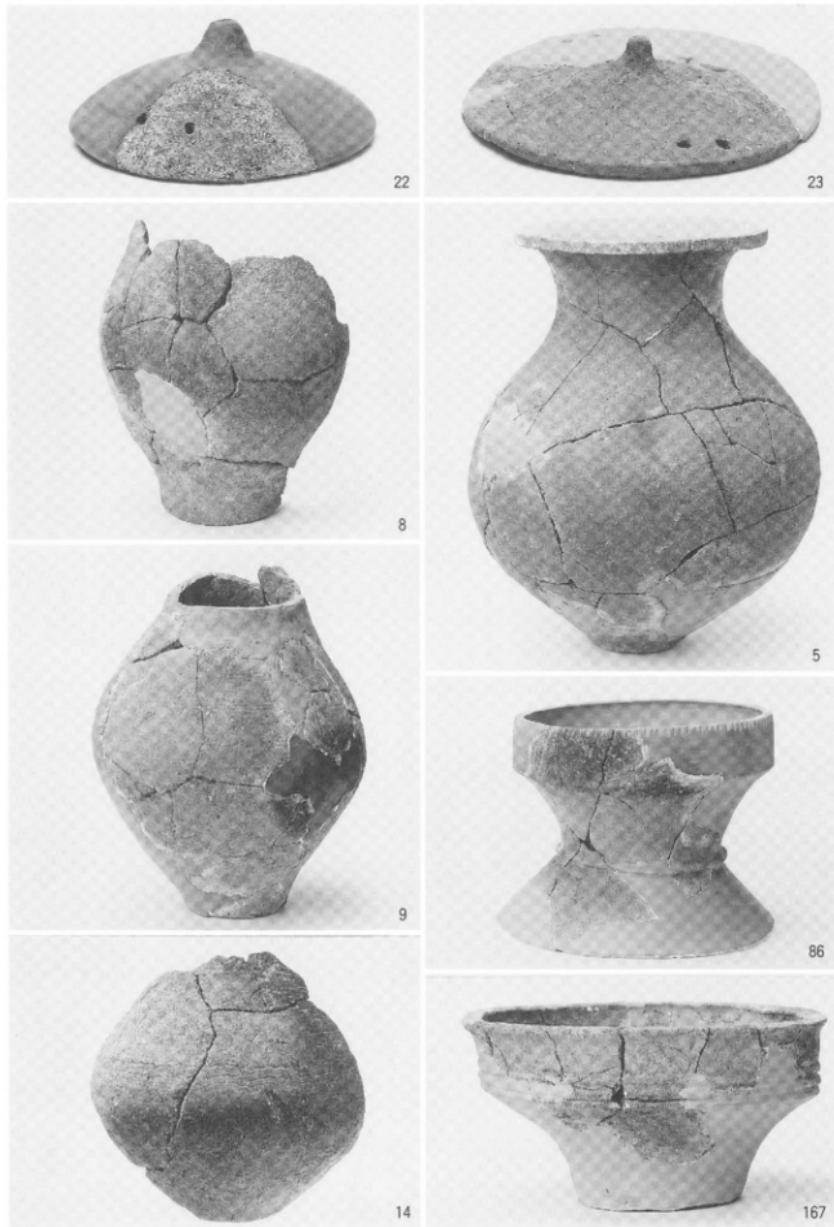
第1トレンチ全景（東から）



第2トレンチ 北半全景（北から）

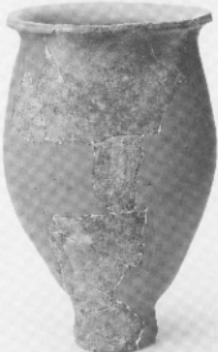


第2トレンチ 南半全景（北西から）

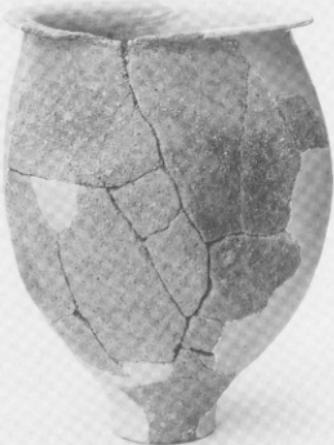




29



48



43



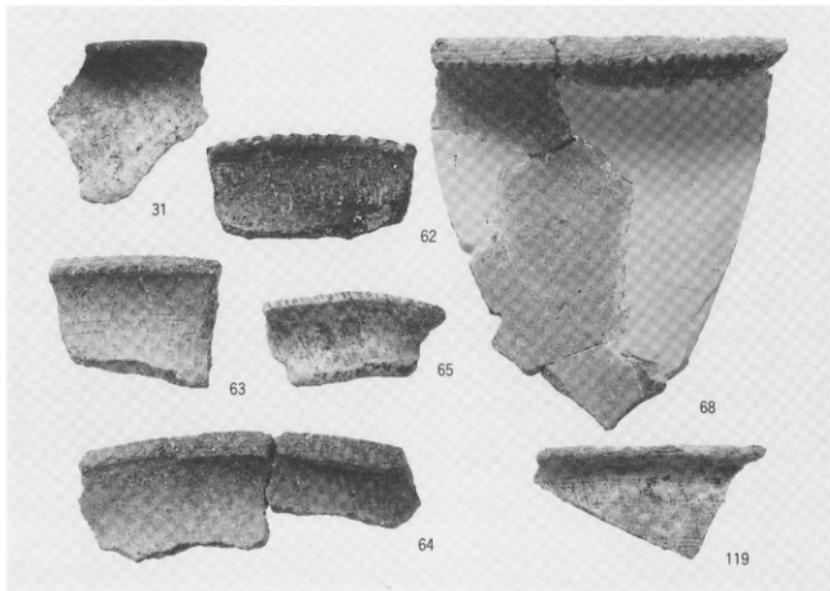
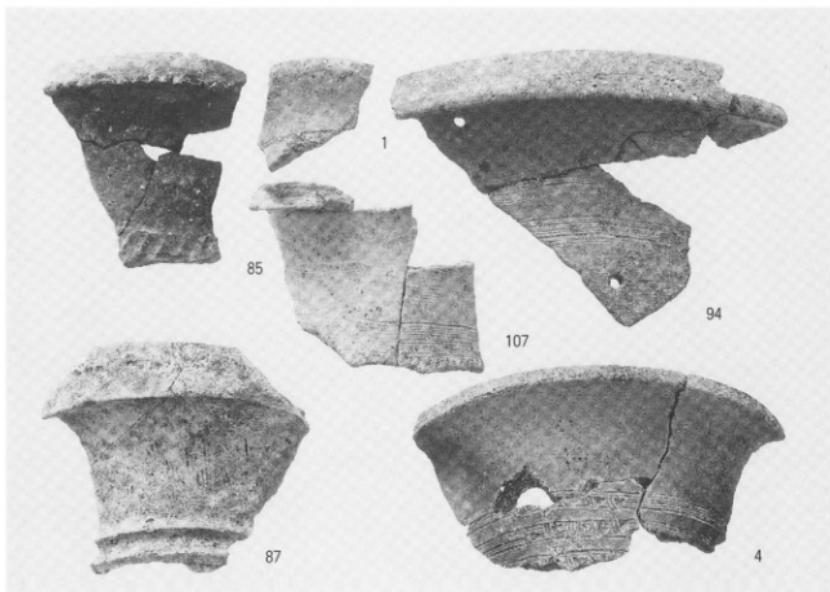
49



198

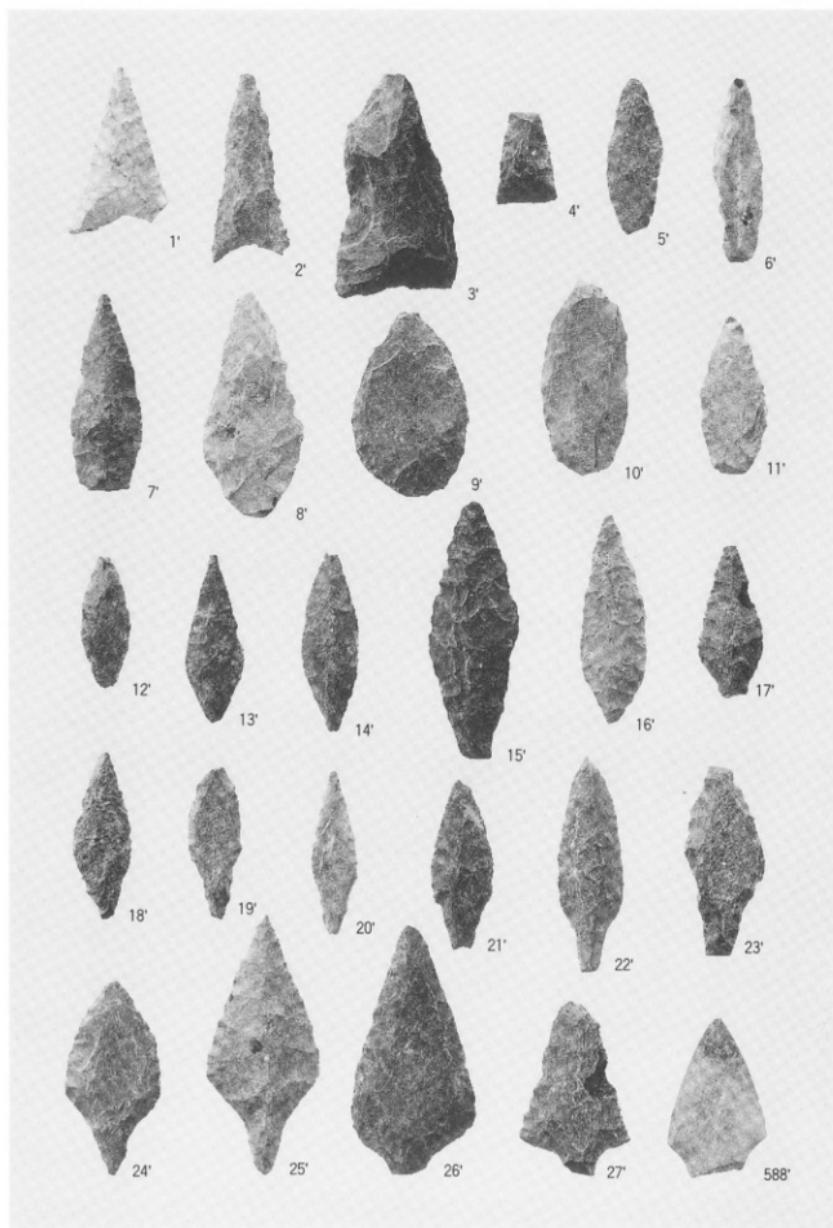


194

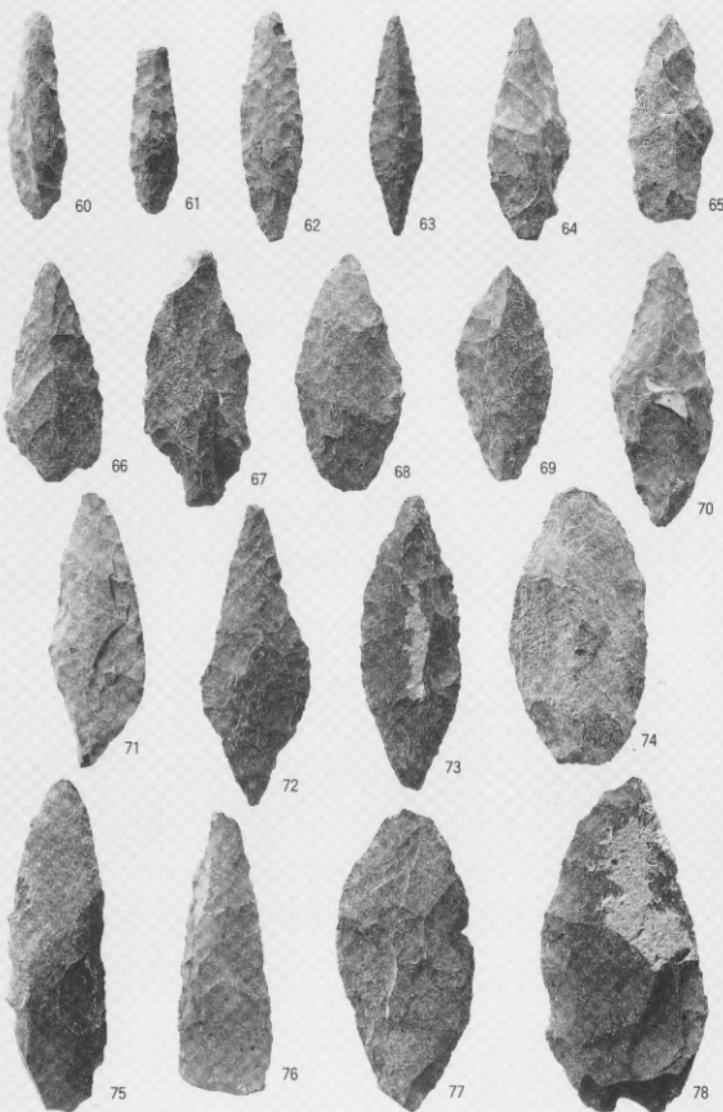




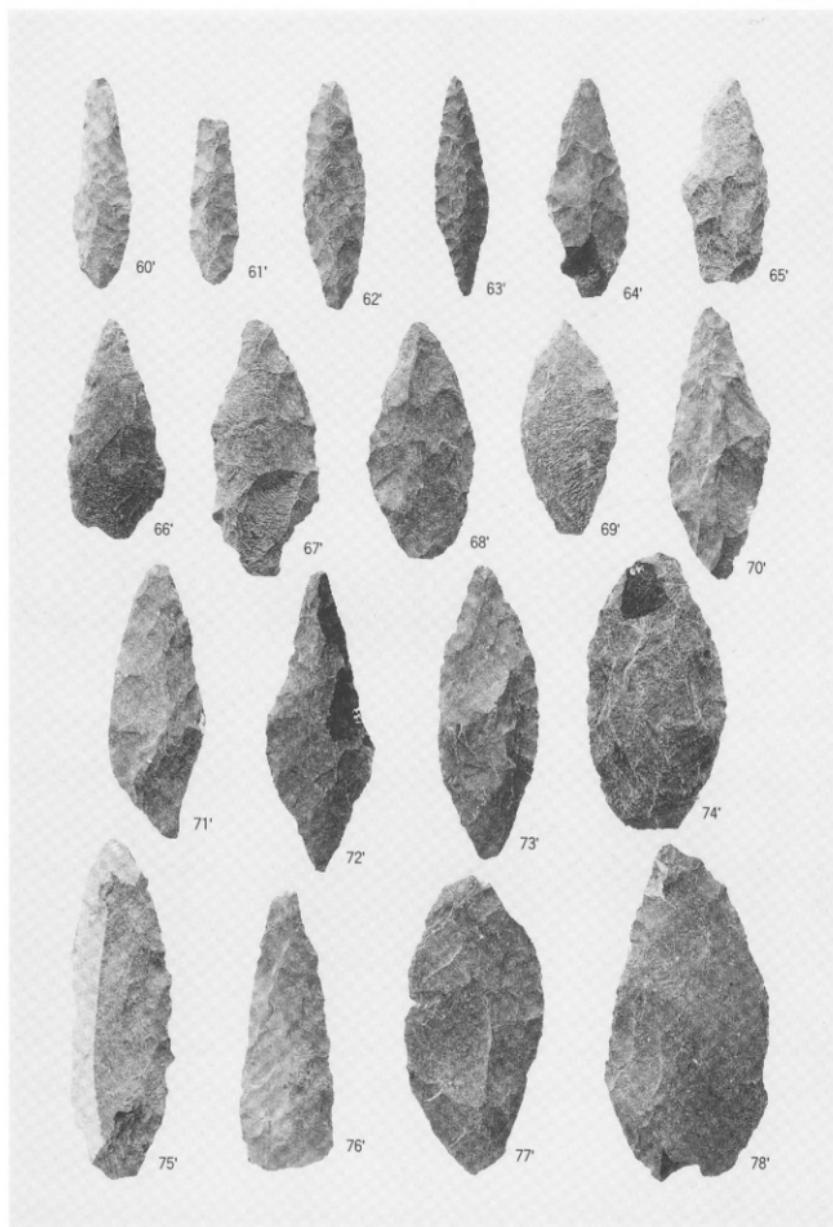
打製石鏃、磨製石鏃（左面）



打製石鏃、磨製石鏃（右面）



打製石槍（左面）



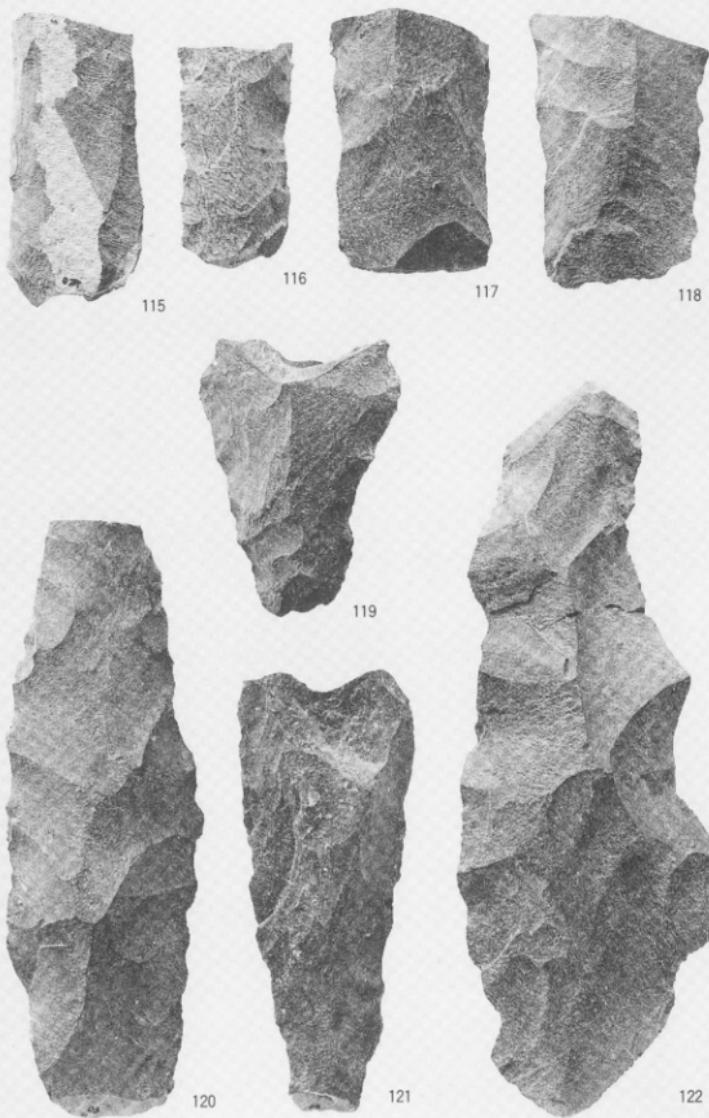
打製石槍（右面）



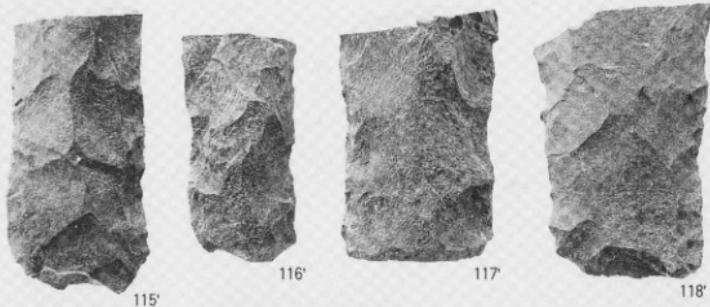
打製石劍（左面）



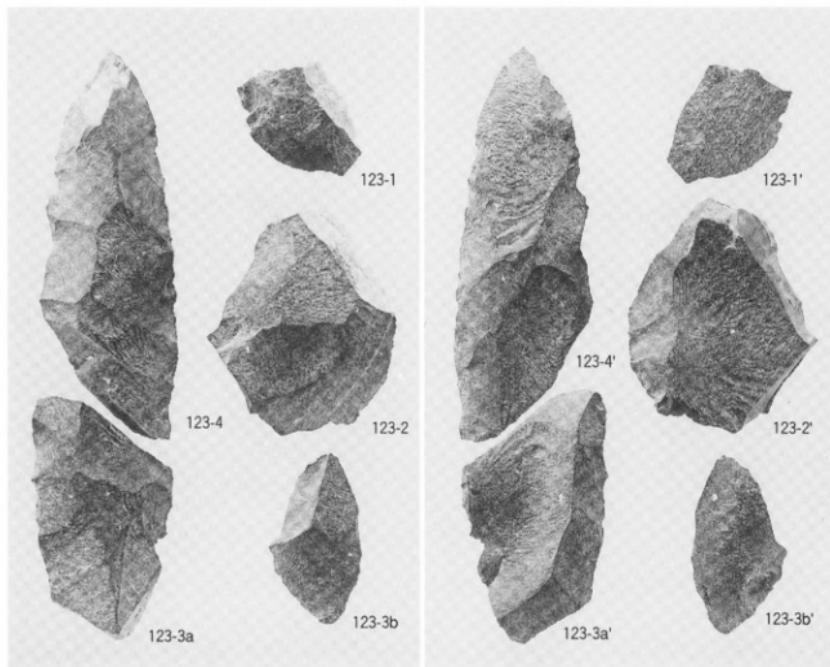
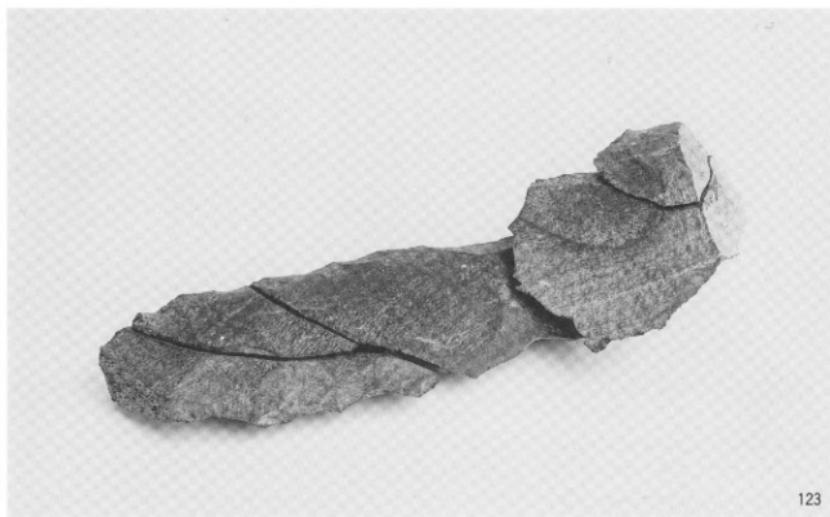
打製石劍（右面）



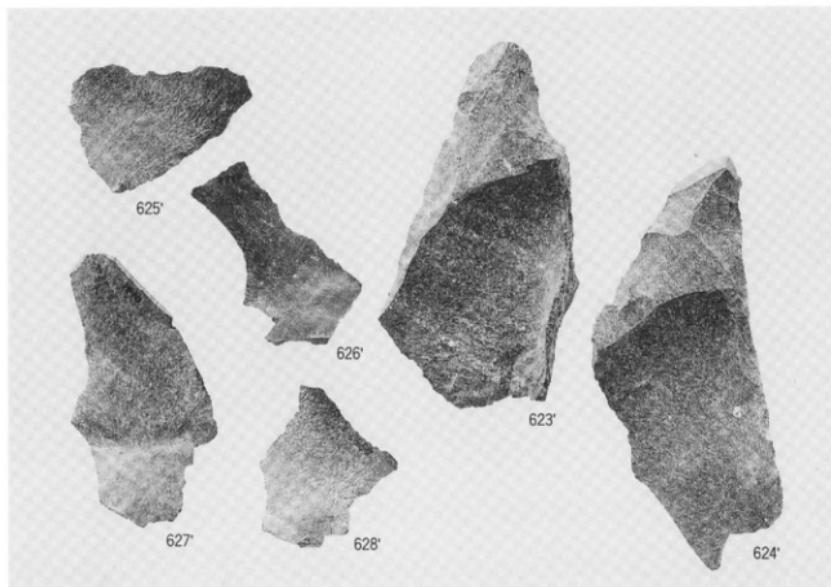
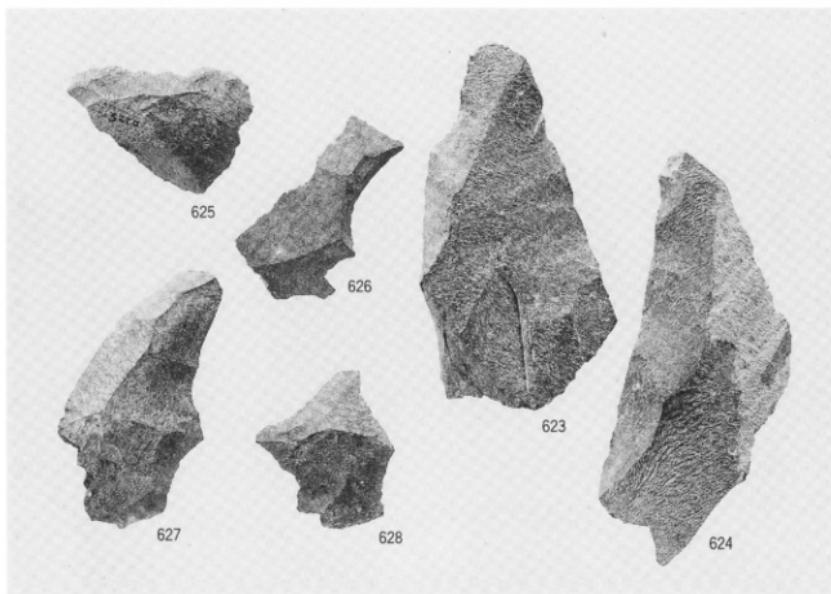
打製石剣（左面）



打製石剣（右面）



打製石剣 接合資料



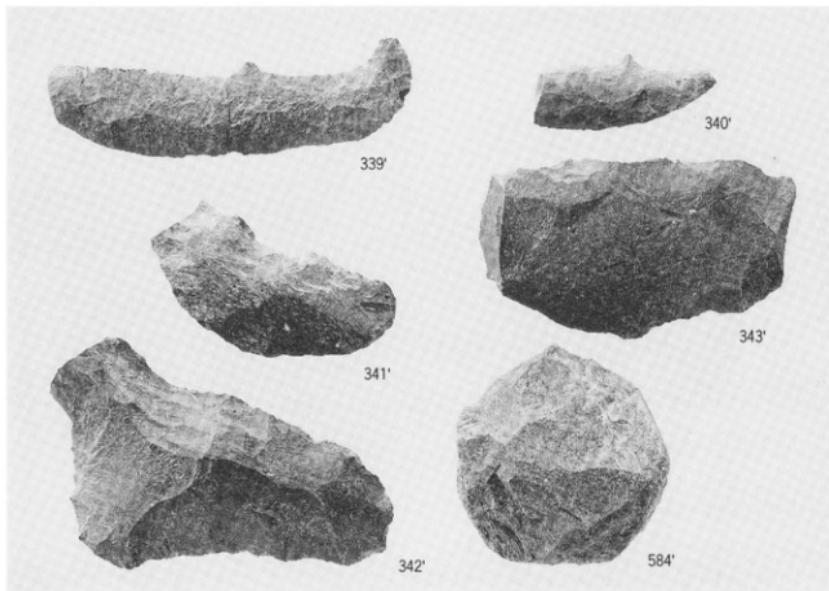
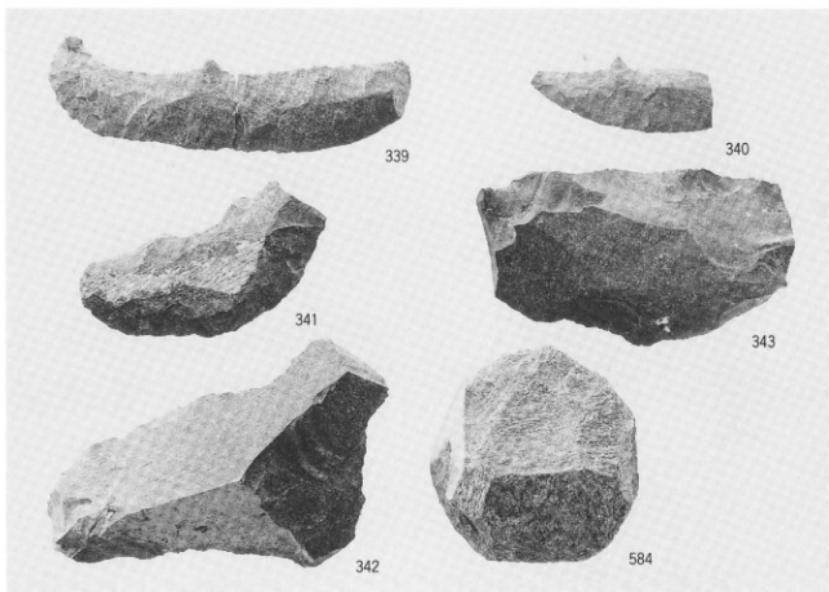
(上) 打製石剣から生じた剥片と、尖端部作りだし時の事故剥片（左面）
(下) 打製石剣から生じた剥片と、尖端部作りだし時の事故剥片（右面）



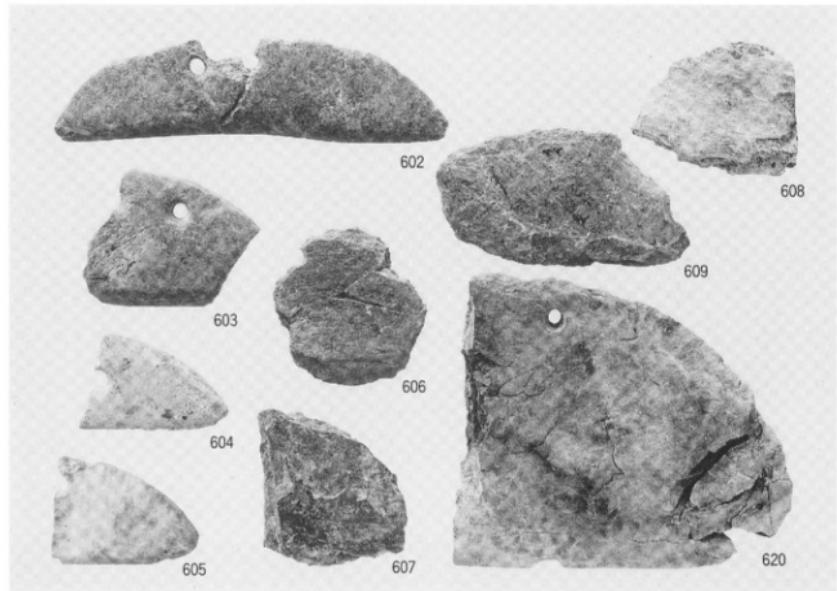
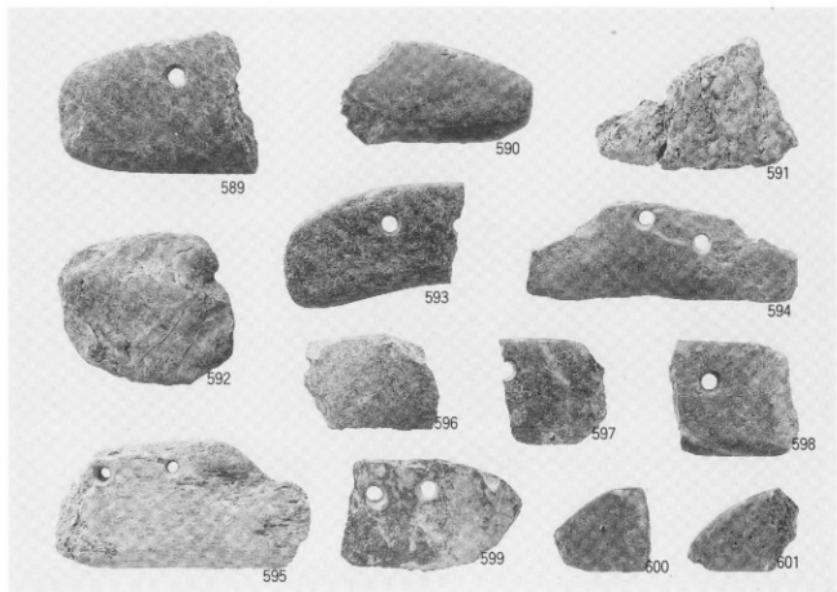
打製石錐（左面）

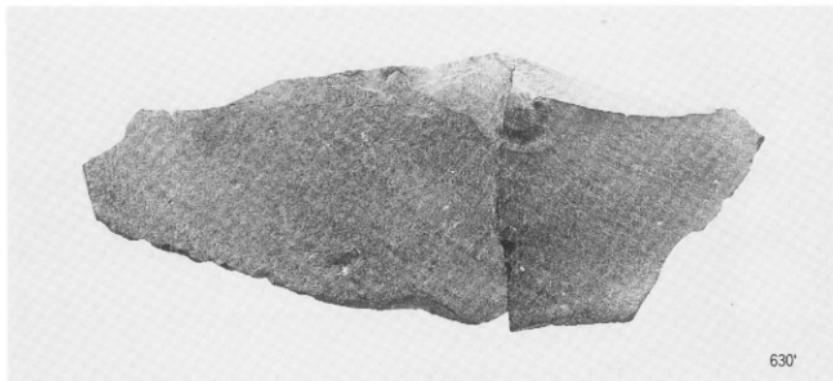


打製石錐（右面）

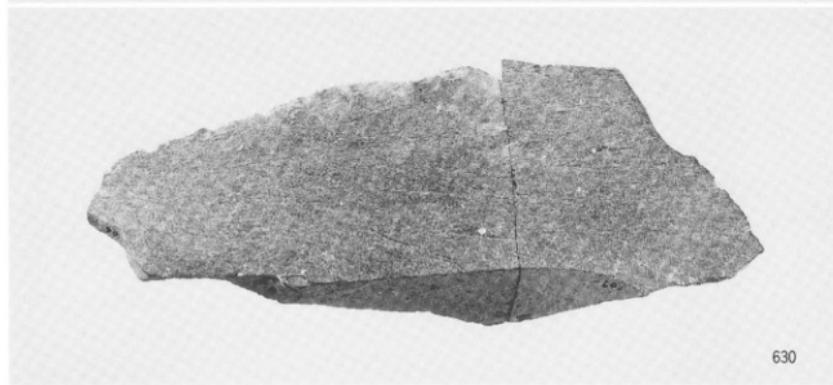


(上) 石小刀、削器、ハンマー
(下) 石小刀、削器、ハンマー





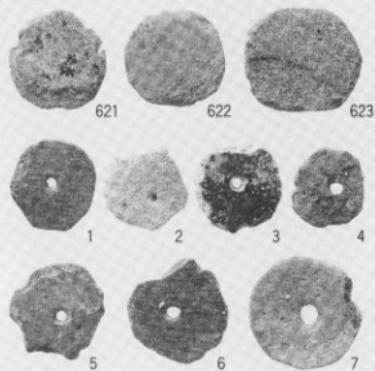
630'



630



629



621

622

623

1

2

3

4

5

6

7

(上) 剥片

(下左) 石核

(下右) 石製円盤・土製円盤

富田林市埋蔵文化財調査報告28

発行年月日 1997年3月31日

編集・発行 富田林市教育委員会

住 所 富田林市常盤町1番1号

印 刷 橋本印刷株式会社

1997. 300

